

愛媛県感染症発生動向調査事業報告書

平成 17 年 (2005 年)

愛媛県感染症情報センター

(愛媛県立衛生環境研究所)

はじめに

平成 17 年愛媛県感染症発生動向調査事業を御報告申し上げます。

平素、当事業への御支援、御協力に感謝申し上げますとともに、御一読の上、御助言、御教示賜りますようお願い申し上げます。

当年はバリ島でのコレラの集団感染、ミャンマ - で感染したマラリアと本県にも輸入感染症が報告されています。海外に目を向けると高病原性鳥インフルエンザ(H5N1)の感染拡大は東南アジアから中央アジア、ヨーロッパ、アフリカ、中東と留まるところを知らず、それに伴う人への感染事例も増加し、新型インフルエンザへの変異がいつ起こってもおかしくない状態に至っています。厚生労働省ではこのような状況を考慮し、平成 18 年 6 月指定感染症に政令指定し警戒を強めています。本県におきましても既に愛媛県新型インフルエンザ対策行動計画を策定しています。今後ともその動向には注目です。

多岐に渡る感染症の発生動向を把握し監視する事を目的とした当事業の重要性を御理解頂き、より正確で迅速に且つ有効に情報を提供する事によって感染症の発生や拡大の予防に資するよう、更に、関係者各位との密接な情報網が構築されますよう切望しています。

今後とも御指導、御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

平成 18 年 9 月

愛媛県立衛生環境研究所

所長 井上博雄

目 次

愛媛県感染症発生動向調査事業の概要	1
指定届出機関一覧	3
2005年(平成17年)感染症発生動向調査結果 - 患者情報 -	5
報告週対応表	
1 全数把握対象 ー 五類感染症	
(1) 一類感染症	5
(2) 二類感染症	5
(3) 三類感染症	5
(4) 四類感染症	7
(5) 五類感染症	7
表2-1-1 全数把握対象疾患発生状況(年推移)	10
表2-1-2 2005年全数把握対象疾患発生状況(月別)	11
表2-1-3 2005年全数把握対象疾患発生状況(保健所別)	12
表2-1-4 2005年全数把握対象疾患発生状況(年齢別)	13
2 定点把握対象 五類感染症	
(1) 定点把握対象疾患 発生動向の概況	14
表2-2-1 週報対象疾患 - 週別患者報告数	16
表2-2-2 週報対象疾患 - 週別定点当たり患者報告数	18
表2-2-3 週報対象疾患 - 年齢区分別患者報告数	20
表2-2-4 月報対象疾患 - 月別患者報告数	21
表2-2-5 月報対象疾患 - 月別定点当たり報告数	22
表2-2-6 月報対象疾患 - 年齢区分別患者報告数	23
(2) インフルエンザ定点対象疾患(週報)	24
(3) 小児科定点対象疾患(週報)	26
(4) 眼科定点対象疾患(週報)	52
(5) 基幹定点対象疾患(週報)	56
(6) STD定点対象疾患(月報)	62
(7) 基幹定点対象疾患(月報)	68

2005年(平成17年)感染症発生動向調査結果 - 病原体検査結果 -

1 細菌検査状況	71
(1) 全数把握対象感染症	71
コレラ	71
腸管出血性大腸菌	71
(2) 定点把握対象感染症	73
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	73
感染性胃腸炎	74
2 ウイルス検査状況	75
(1) 病原体定点種類別検体数	75
(2) 気道感染症等由来検体からの検出	77
(3) 感染性胃腸炎からの検出	82

2005年(平成17年)結核発生動向調査結果(速報値)

1 概況	87
2 新登録患者の状況	87
3 年末現在結核登録者の状況	89
表4-1 2005年新登録患者数 - 登録時総合患者分類コード、保健所別(速報値)	90
表4-2 2005年新登録患者数 - 登録時総合患者分類コード、性、年齢階級別(速報値)	90
表4-3 新登録結核患者数及び罹患率の年次推移 - 保健所別	91
表4-4 新登録結核患者数及び構成率の年次推移 - 年齢階級別	91
表4-5 新登録喀痰塗抹陽性患者数及び罹患率の年次推移 - 保健所別	91
表4-6 新登録喀痰塗抹陽性患者数及び構成率の年次推移 - 年齢階級別	91
表4-7 2005年新登録患者数 - 登録時結核病類、性、年齢階級別	92
表4-8 2005年新登録肺結核患者数 - 登録時職業、菌情報、保健所別	92
表4-9 2005年新登録患者数 - 登録時総合患者分類コード、発見方法別	93
表4-10 2005年新登録有症状肺結核患者数 - 登録時総合患者分類コード、発見の遅れの期間別	93
表4-11 2005年新登録患者数 - 登録時総合患者分類コード、化療内容、保健所別	95
表4-12 2005年年末現在登録者数 - 年末現在総合患者分類コード、保健所別	96
表4-13 2005年年末現在登録者数 - 年末現在総合患者分類コード、性、年齢階級別	96

資料

1 愛媛県感染症発生動向調査事業実施要綱	97
2 愛媛県感染症対策推進協議会設置要綱	118
3 愛媛県感染症発生動向調査病原体検査要領	120

愛媛県感染症発生動向調査事業の概要

愛媛県感染症発生動向調査事業の概要

本事業は、感染症の患者発生に関する情報（患者情報）と、感染症の病原体に関する情報（病原体情報）を迅速かつ的確に収集及び分析し、その結果を感染症情報として速やかに地域に公表することにより、感染症の予防、医療、研究等に役立て、有効かつ確かな感染症対策の確立に資することを目的とし、「愛媛県感染症発生動向調査事業実施要綱」（平成 13 年 1 月施行）に基づき、実施している。

対象疾患は一類から五類感染症 86 疾患である。このうち一類から四類感染症 44 疾患と五類感染症 14 疾患の合計 58 疾患は全医療機関を対象とする全数把握感染症で、その他の五類感染症 28 疾患は指定届出機関（定点）が週単位あるいは月単位で報告する定点把握感染症である。

1 一類感染症(7 疾患)

エボラ出血熱，クリミア・コンゴ出血熱，重症急性呼吸器症候群（病原体が S A R S コロナウイルスであるものに限る），痘そう，ペスト，マールブルグ病，ラッサ熱

2 二類感染症(6 疾患)

コレラ，細菌性赤痢，腸チフス，パラチフス，ジフテリア，急性灰白髄炎

3 三類感染症(1 疾患)

腸管出血性大腸菌感染症

4 四類感染症(30 疾患)

E 型肝炎，ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎を含む），A 型肝炎，エキノコックス症，黄熱，オウム病，回帰熱，Q 熱，狂犬病，高病原性鳥インフルエンザ，コクシジオイデス症，サル痘，腎症候性出血熱，炭疽，つつが虫病，デング熱，ニパウイルス感染症，日本紅斑熱，日本脳炎，ハンタウイルス肺症候群，B ウイルス病，ブルセラ症，発しんチフス，ボツリヌス症，マラリア，野兎病，ライム病，リッサウイルス感染症，レジオネラ症，レプトスピラ症

5 五類感染症(42 疾患)

(1) 全数把握の対象(14 疾患)

アメーバ赤痢，ウイルス性肝炎(E 型及び A 型肝炎を除く)，急性脳炎(ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)，クリプトスポリジウム症，クロイツフェルト・ヤコブ病，劇症型溶血性レンサ球菌感染症，後天性免疫不全症候群，ジアルジア症，髄膜炎菌性髄膜炎，先天性風しん症候群，梅毒，破傷風，バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症，バンコマイシン耐性腸球菌感染症

(2) 定点把握の対象(28 疾患)

インフルエンザ定点の対象(1 疾患)

インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)

小児科定点の対象(13 疾患)

R S ウイルス感染症，咽頭結膜熱，A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎，感染性胃腸炎，水痘，手足口病，伝染性紅斑，突発性発しん，百日咳，風しん，ヘルパンギーナ，麻しん(成人麻しんを除く)，流行性耳下腺炎

眼科定点の対象(2 疾患)

急性出血性結膜炎，流行性角結膜炎

STD 定点の対象(4 疾患)

性器クラミジア感染症，性器ヘルペスウイルス感染症，尖圭コンジローマ，淋菌感染症

基幹定点の対象(8 疾患)

クラミジア肺炎(オウム病を除く)，細菌性髄膜炎(真菌性を含む)，無菌性髄膜炎，マイコプラズマ肺炎，成人麻しん，ペニシリン耐性肺炎球菌感染症，メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症，薬剤耐性緑膿菌感染症

なお、結核予防法の規定による届出等に基づく結核患者の情報についても同事業で扱っている。

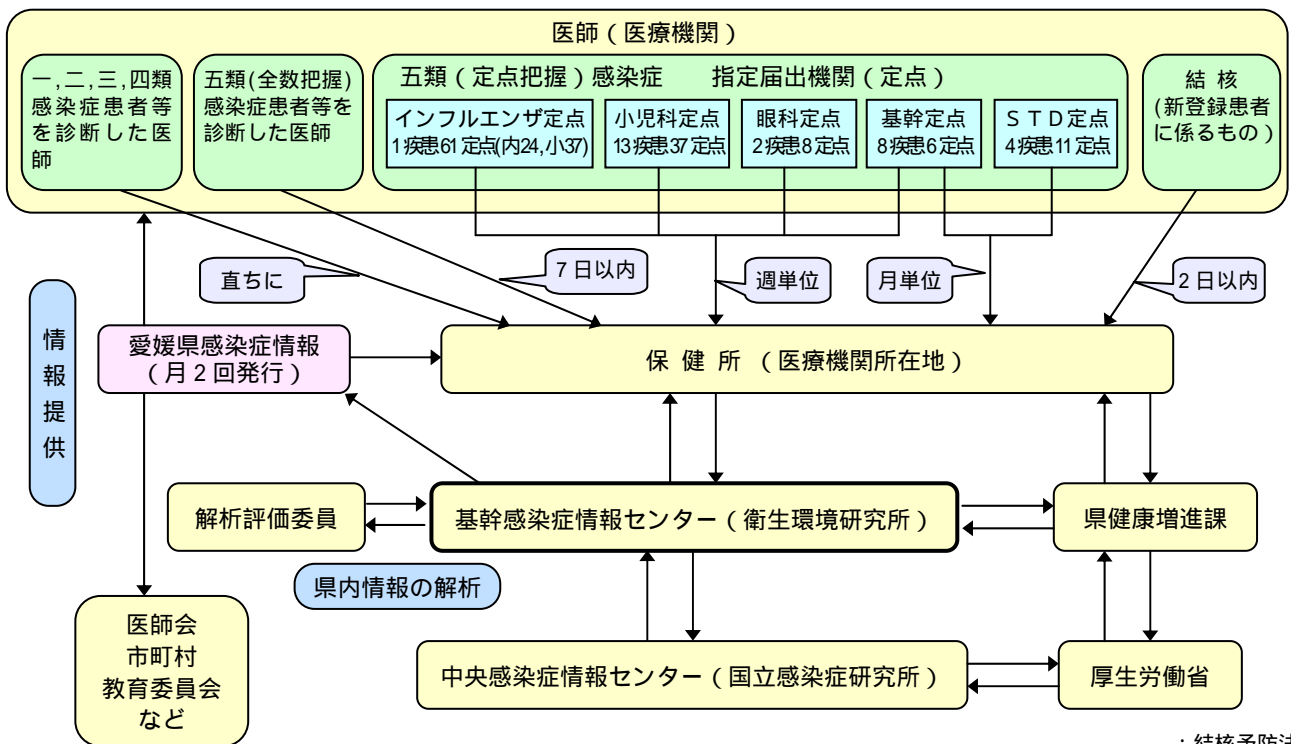
定点にはインフルエンザ定点（内科と小児科）、小児科定点、眼科定点、STD 定点（皮膚科、泌尿器科、婦人科）、基幹定点（内科と小児科を持つ 300 床以上の病院）の 5 種類あり、地域の流行状況について全体の傾向を可能な限り反映できるように、保健所ごとに設定されている。また、これらの定点の中から病原体定点を設定し、病原体の分離等の検査情報を収集している。なお、市町村合併および保健所統廃合に伴う定点配置の見直しにより、第 1 週から松山保健所管内の小児科 1 定点（旧北条市）が松山市保健所へ移行、第 14 週から西条保健所管内の内科 1 定点と小児科 1 定点、八幡浜保健所管内の小児科 1 定点が指定解除、八幡浜保健所管内に眼科 1 定点が新指定された。その結果、これまでの 88 定点（内科 25、小児科 39、眼科 7、STD11、基幹 6）から 86 定点（内科 24、小児科 37、眼科 8、STD11、基幹 6）に改正された。

表 保健所別定点数（平成 17 年 4 月～）

保健所	定点種別	インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹	病原体
四国中央		5	3		1	1	2
西条		10	6	1	2	1	3
今治		8	5	1	1	1	3
松山市		17	11	3	4		4
松山		7	4	1	1	1	3
八幡浜		7	4	1	1	1	3
宇和島		7	4	1	1	1	2
合計		61	37	8	11	6	20

小児科定点はインフルエンザ定点を兼ねる。

医療機関からの患者情報は保健所を通じて愛媛県基幹感染症情報センター（衛生環境研究所）へ集約され、中央感染症情報センターへ報告するとともに関係機関へ週報単位で還元している。また月 2 回、解析評価委員による県内情報の解析・評価が行われ、その結果を「愛媛県感染症情報」として関係機関に提供している。これらの情報はホームページでも公開している。



：結核予防法

図 愛媛県における感染症発生動向調査事業のながれ

指定届出機関一覧(平成17年)

(平成17年末現在)

保健所	定点種別	医療機関名	所在地	病原体定点	備考
松山市	インフルエンザ	今村循環器科内科	松山市		
		矢野内科	松山市		
		冲永内科医院	松山市		
		重松内科胃腸器科医院	松山市		
		久野内科	松山市		
		永山内科	松山市		
	小児科	石丸小児科医院	松山市		
		いとう小児科	松山市		
		加賀田小児科	松山市		
		平井こどもクリニック	松山市		
		河野小児科医院	松山市		
		児玉小児科医院	松山市		
		徳丸小児科医院	松山市		
		新野小児科	松山市		17年3月まで
		山田小児科医院	松山市		17年4月から
		まつうら小児科	松山市		
		くす小児科	松山市		
		檜垣小児科内科医院	松山市		
	眼科	高岡眼科小児科医院	松山市		
		吉田眼科	松山市		
一色眼科		松山市			
STD	松山市赤十字病院(泌尿器科)	松山市			
	銚石医院(泌尿器科)	松山市			
	松山市民病院(産婦人科)	松山市			
	米本産婦人科医院	松山市			
四国中央	インフルエンザ	矢部内科	四国中央市		
		川関高橋医院	四国中央市		
	小児科	川上こどもクリニック	四国中央市		
		大坪小児科	四国中央市		
		鈴木医院	四国中央市		
	STD	大西泌尿器科医院	四国中央市		
基幹定点	県立伊予三島病院	四国中央市			
西条	インフルエンザ	発知医院	新居浜市		
		浜本内科	新居浜市		17年3月まで
		中萩診療所	新居浜市		
		医療法人土岐医院	西条市		
		福田医院	西条市		
	小児科	山本小児科クリニック	新居浜市		
		マナベ小児科	新居浜市		17年3月まで
		しおだこどもクリニック	新居浜市		
		松浦小児科医院	新居浜市		
		高橋こどもクリニック	西条市		
		医療法人ながい小児科	西条市		
		井上医院	西条市		
	眼科	鈴木眼科	新居浜市		
	STD	なめだ皮膚科医院	新居浜市		
西条市立周桑病院		西条市			
基幹定点	住友別子病院	新居浜市			

(平成17年末現在)

保健所	定点種別	医療機関名	所在地	病原体定点	備考
今治	インフルエンザ	瀬戸内海病院	今治市		
		消化器科久保病院	今治市		
		重見内科医院	今治市		
	小児科	みぶ小児科	今治市		
		まつい小児科	今治市		
		あおい小児科	今治市		
		済生会今治病院	今治市		
	眼科	喜多嶋診療所	今治市		
	STD	高木眼科病院	今治市		
基幹定点	今井皮膚泌尿器科医院	今治市			
基幹定点	県立今治病院	今治市			
松山	インフルエンザ	きむら内科クリニック	伊予市		
		みかわクリニック	上浮穴郡		
		辻井循環器科内科	東温市		
	小児科	久万高原町立病院	上浮穴郡		
		宇山小児科	伊予市		
		むかいだ小児科	伊予郡		
		いのうえ小児科	東温市		
	眼科	いずみだ眼科	東温市		
	STD	重信クリニック	東温市		
基幹定点	愛媛大学医学部附属病院	東温市			
八幡浜	インフルエンザ	市立大洲病院	大洲市		
		三瓶病院	西宇和郡		
		西予市立野村病院	西予市		
	小児科	亀井小児科	大洲市		
		ごうお小児科医院	大洲市		
		守口小児科医院	八幡浜市		
		芳我小児科	八幡浜市		17年3月まで
		山下小児科	西予市		
	眼科	東大洲城戸眼科	大洲市		17年4月から
STD	しまだ医院	八幡浜市			
基幹定点	市立八幡浜総合病院	八幡浜市			
宇和島	インフルエンザ	田中循環器科内科医院	宇和島市		
		宇和島市立吉田病院	宇和島市		17年8月から
		粉川内科	南宇和郡		
	小児科	市立宇和島病院	宇和島市		
		石川医院	宇和島市		
		桑折小児科	宇和島市		
		県立南宇和病院	南宇和郡		
	眼科	阿部眼科	宇和島市		
	STD	秋山皮膚泌尿器科医院	宇和島市		
基幹定点	市立宇和島病院	宇和島市			

2005年(平成17年)感染症発生動向調査結果

一患者情報一

2005年（平成17年）感染症発生動向調査事業 報告週対応表

1月							
週	月	火	水	木	金	土	日
53						1	2
1	3	4	5	6	7	8	9
2	10	11	12	13	14	15	16
3	17	18	19	20	21	22	23
4	24	25	26	27	28	29	30
5	31						

7月							
週	月	火	水	木	金	土	日
26					1	2	3
27	4	5	6	7	8	9	10
28	11	12	13	14	15	16	17
29	18	19	20	21	22	23	24
30	25	26	27	28	29	30	31

2月							
週	月	火	水	木	金	土	日
5		1	2	3	4	5	6
6	7	8	9	10	11	12	13
7	14	15	16	17	18	19	20
8	21	22	23	24	25	26	27
9	28						

8月							
週	月	火	水	木	金	土	日
31	1	2	3	4	5	6	7
32	8	9	10	11	12	13	14
33	15	16	17	18	19	20	21
34	22	23	24	25	26	27	28
35	29	30	31				

3月							
週	月	火	水	木	金	土	日
9		1	2	3	4	5	6
10	7	8	9	10	11	12	13
11	14	15	16	17	18	19	20
12	21	22	23	24	25	26	27
13	28	29	30	31			

9月							
週	月	火	水	木	金	土	日
35				1	2	3	4
36	5	6	7	8	9	10	11
37	12	13	14	15	16	17	18
38	19	20	21	22	23	24	25
39	26	27	28	29	30		

4月							
週	月	火	水	木	金	土	日
13					1	2	3
14	4	5	6	7	8	9	10
15	11	12	13	14	15	16	17
16	18	19	20	21	22	23	24
17	25	26	27	28	29	30	


10月							
週	月	火	水	木	金	土	日
39						1	2
40	3	4	5	6	7	8	9
41	10	11	12	13	14	15	16
42	17	18	19	20	21	22	23
43	24	25	26	27	28	29	30
44	31						

5月							
週	月	火	水	木	金	土	日
17							1
18	2	3	4	5	6	7	8
19	9	10	11	12	13	14	15
20	16	17	18	19	20	21	22
21	23	24	25	26	27	28	29
22	30	31					

11月							
週	月	火	水	木	金	土	日
44		1	2	3	4	5	6
45	7	8	9	10	11	12	13
46	14	15	16	17	18	19	20
47	21	22	23	24	25	26	27
48	28	29	30				

6月							
週	月	火	水	木	金	土	日
22			1	2	3	4	5
23	6	7	8	9	10	11	12
24	13	14	15	16	17	18	19
25	20	21	22	23	24	25	26
26	27	28	29	30			

12月							
週	月	火	水	木	金	土	日
48				1	2	3	4
49	5	6	7	8	9	10	11
50	12	13	14	15	16	17	18
51	19	20	21	22	23	24	25
52	26	27	28	29	30	31	

 「愛媛県感染症情報」発行日

2005年(平成17年)感染症発生動向調査結果 - 患者情報 -

1 全数把握対象 一～五類感染症

(1) 一類感染症

一類感染症の届出はなかった。

(2) 二類感染症

コレラ

60歳代男性1人の届出があり、推定感染地はインドネシア(バリ島)であった。検出された菌はO1エルトル小川型で、コレラ毒素遺伝子が確認された。同時期(第19、20週5月9～22日診断)に本県分を含み全国で8人(うち無症状病原体保有者1人)の届出があった。全てインドネシア・バリ島へ旅行して帰国した者で、O1エルトル小川型が検出されたことから、特定の原因に曝露されたことによるコレラの集団発生と考えられた。

(3) 三類感染症

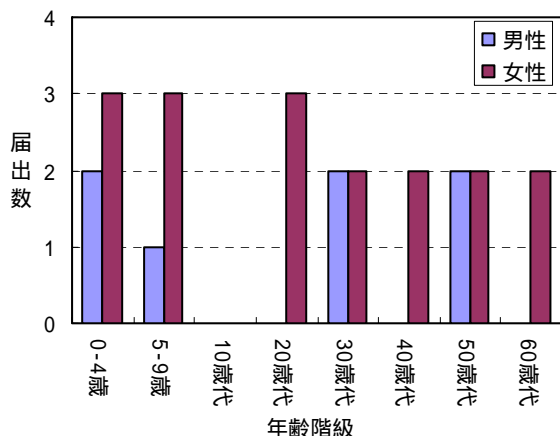
腸管出血性大腸菌感染症

本疾患は17事例24人(患者18人、感染者6人)の届出があり、感染症法施行以降では2002年に次いで届出数が少なかった。性別は男性7人、女性17人で女性が多く、年齢別では10歳未満9人、20歳代3人、30歳代4人、40歳代2人、50歳代4人、60歳代2人で、2003年以降見られた幼稚園等における乳幼児の集団発生はなく、乳幼児の患者の割合が減少した。

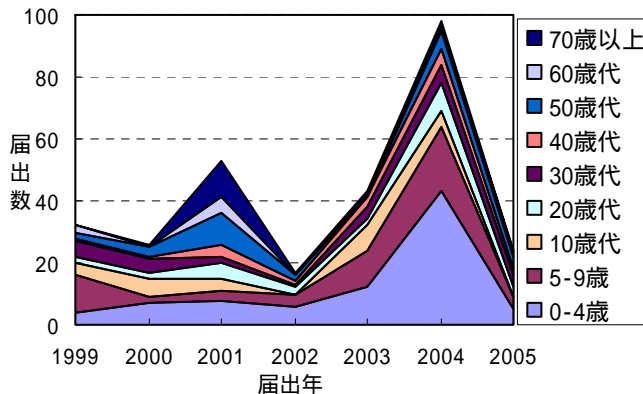
血清型(Vero毒素型)は、O157 10人(VT1・VT2 6人、VT1 1人、VT2 3人)、O26 8人(VT1)、O111 2人(VT1)、O91 1人(VT1・VT2)、O146 1人(VT1)、血清型不明2人(VT1 1人、VT2 1人)であった。

本疾患は、通常夏季に多発する傾向があるが、本年も8月に14人(O157 6人、O26 8人)の届出があった。

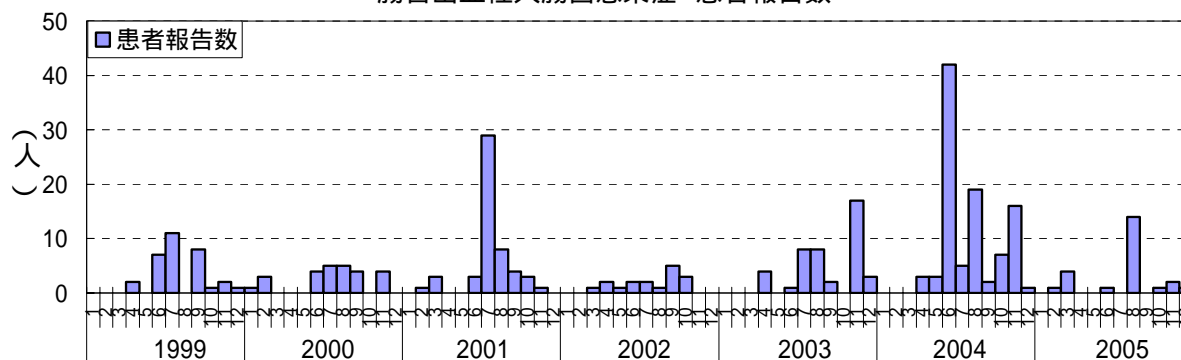
年齢階級・性別患者数(2005年)



年齢階級別患者数(年推移)



腸管出血性大腸菌感染症 患者報告数



腸管出血性大腸菌感染症 事例別一覧

事例番号	届出月日	発生地 (患者所在地)	血清型	ベロ毒素	届出数
1	2月26日	松山市	O111	VT1	1
2	3月1日	松山市	O111	VT1	1
3	3月28日	松山市	型不明	VT1	1
4	3月28日~	松山市	O157	VT1・VT2	2
5	6月20日	新居浜市	O157	VT2	1
6	8月4日	松山市	O157	VT1	1
7	8月9日	東温市	O157	VT1・VT2	1
8	8月10日	四国中央市	O157	VT2	1
9	8月17日	高知県	O157	VT2	1
10	8月17日~	松山市	O26	VT1	2
11	8月20日~	新居浜市 松山市	O26	VT1	4
12	8月22日	宇和島市	O26	VT1	1
13	8月25日	伊予郡	O26	VT1	1
14	8月25日~	松山市	O157	VT1・VT2	2
15	10月15日	松山市	O91	VT1・VT2	1
16	11月14日~	松山市	O146 型不明	VT2	2
17	12月1日	松山市	O157	VT1・VT2	1
計					24

(4) 四類感染症

オウム病

40 歳代女性 1 人の届出があった。患者はペットショップに勤務しており、そこでの感染が疑われた。なお、患者以外のペットショップ関係者に同様な症状を示す者はいなかった。

日本紅斑熱

本疾患は 6～11 月に 4 人の届出があった。性別は男性 2 人、女性 2 人で、年齢は 50 歳代 2 人、60 歳代 1 人、70 歳代 1 人で、宇和島保健所管内が 3 人、松山市保健所管内が 1 人であった。いずれもダニ（マダニ）による刺咬歴が確認された。媒介動物との接触場所はすべて国内で、みかん山 2 人、畑 1 人、不明 1 人であった。本疾患は 2003 年 8 月に県内で初めて患者が中予で届出されて以降、2003 年 2 人、2004 年 6 人と毎年患者が発生しており、今後の動向に注意が必要である。

日本紅斑熱 届出患者一覧

事例番号	届出月日	年齢	性別	管内保健所	媒介	媒介動物との接触場所
1	6月22日	60歳代	女	宇和島	マダニ	国内（不明）
2	9月5日	50歳代	男	宇和島	マダニ	国内（畑）
3	10月3日	50歳代	女	宇和島	マダニ	国内（みかん山）
4	11月21日	70歳代	男	松山市	マダニ	国内（みかん山）

マラリア

本疾患は熱帯熱マラリア 1 人、三日熱マラリア 1 人の合計 2 人の届出があった。両事例とも 40 歳代男性で、推定感染地域はともにミャンマーであった。

(5) 五類感染症

アメーバ赤痢

本疾患は 4 人の届出があった。年齢は 30 歳代 1 人、50 歳代 2 人、60 歳代 1 人で、すべて男性であった。推定感染地域はいずれも国内で、推定感染経路は経口感染 1 人、不明 3 人であった。

ウイルス性肝炎（E 型肝炎及び A 型肝炎を除く）

本疾患は 3 人の届出があり、B 型 1 人、C 型 2 人で、推定感染地域はいずれも国内であった。

B 型肝炎は 80 歳代男性で、輸血による感染が疑われた。

C 型肝炎は 20 歳代男性と 30 歳代男性の届出があり、針刺し事故と刺青の施術による感染が疑われた。

クロイツフェルト・ヤコブ病

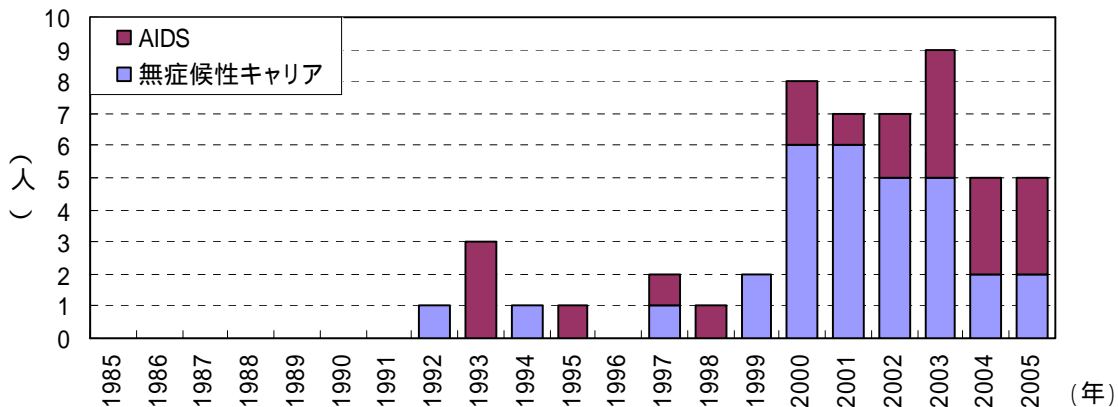
本疾患は3人の届出があった。60歳代男性1人、60歳代女性1人、70歳代男性1人で、いずれも孤発性であった。

後天性免疫不全症候群

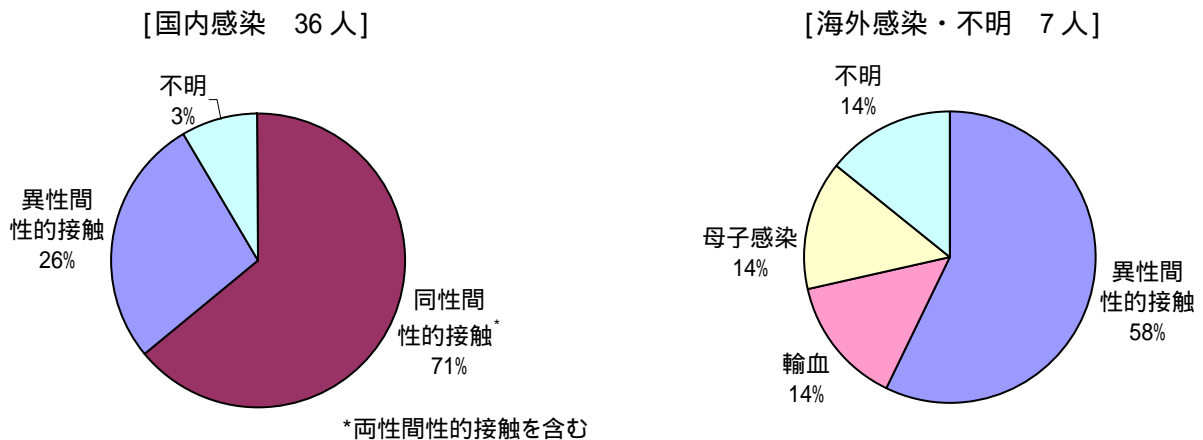
後天性免疫不全症候群は5人の届出があり、そのうち無症候性キャリア2人、AIDS 3人であった。20歳代1人(AIDS)、30歳代3人(無症候性キャリア2人、AIDS 1人)、40歳代1人(AIDS)で、すべて男性であった。推定感染地域はいずれも国内で、推定感染経路は性的接触(異性間2人、同性間1人)、不明2人であった。

県内の無症候性キャリア及びAIDS患者数の年次推移をみると、1992年に初めて届出されてから1999年までは毎年1~2人程度で推移していたが、2000年以降は年間届出数5人以上と多い状態が続いている。1999年4月1日以降、感染症法に基づいて届出された43人の感染経路別内訳は、国内感染例36人のうち23人(71%)が男性の同性間性的接触(同性・異性間を含む)であり、全国的な傾向と同様、県内においても男性の同性間性的接触が主要な感染経路となっている。

愛媛県における HIV 感染者及び AIDS 患者の年次推移



感染経路別内訳 (1999年4月1日以降届出者)



梅毒

本疾患は3人の届出があり、早期顕症梅毒(期)1人、晩期顕症梅毒1人、無症候梅毒1人であった。すべて男性で、40歳代2人、50歳代1人であった。いずれも推定感染地域は国内で、異性間性的接触による感染が推定された。

破傷風

本疾患は40歳代男性2人、70歳代男性2人の合計4人の届出があった。いずれも国内での感染であり、推定感染経路は外傷による創部からの感染が3例、不明が1例であった。

表 2-1-1 全数把握対象疾患発生状況(年推移)

感染症 種類	年	愛媛県						全国					
		2005	2004	2003	2002	2001	2000	2005	2004	2003	2002	2001	2000
一類	エボラ出血熱												
	クリミア・コンゴ出血熱												
	重症急性呼吸器症候群(SARS-CoVに限る)*				-	-	-				-	-	-
	痘そう				-	-	-				-	-	-
	ペスト												
	マールブルグ病												
二類	ラッサ熱												
	急性灰白髄炎												1
	コレラ	1						55	86	25	51	50	58
	細菌性赤痢		3	3	6	7	50	557	594	473	699	844	843
	ジフテリア												1
	腸チフス					2		50	67	62	63	65	86
三類	パラチフス							18	88	44	35	22	20
	腸管出血性大腸菌感染症	24	98	43	17	53	28	3,573	3,715	2,999	3,183	4,435	3,642
四類	E型肝炎		2	1				41	37	3	-	-	-
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)					-	-	1				-	-
	A型肝炎		2	18	7	2	12	168	139	13	-	-	-
	エキノコックス症							18	26	20	10	15	22
	黄熱												
	オウム病	1	1					34	40	44	54	35	18
	回帰熱												
	Q熱							8	7	9	47	42	24
	狂犬病												
	高病原性鳥インフルエンザ*				-	-	-				-	-	-
	コクシジオイデス症							5	5	1	3	2	1
	サル痘				-	-	-				-	-	-
	腎症候性出血熱												
	炭疽												
	つつが虫病						1	345	313	402	338	491	791
	デング熱							73	49	32	52	50	18
	ニパウイルス感染症*				-	-	-				-	-	-
	日本紅斑熱	4	6	2				62	66	52	36	40	38
	日本脳炎					1		7	5	1	8	5	7
	ハンタウイルス肺症候群												
	Bウイルス病												
	ブルセラ症							2			1		
	発疹チフス												
ボツリヌス症							3						
マラリア	2	1	2	3			66	75	78	83	109	154	
野兔病*				-	-	-				-	-	-	
ライム病							8	5	5	15	15	12	
リッサウイルス感染症*				-	-	-				-	-	-	
レジオネラ症			1	1			280	161	146	167	86	154	
レプトスピラ症*		1		-	-	-	15	18	1	-	-	-	
五類	アメーバ赤痢	4	3	3		3	4	688	610	520	465	429	378
	ウイルス性肝炎(E型肝炎、A型肝炎を除く)	3	8	6	2	3	15	275	293	650	948	929	991
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、日本脳炎を除く)*		2		-	-	-	183	166	12	-	-	-
	クリプトスポリジウム症							9	92	8	109	11	3
	クロイツフェルト・ヤコブ病	3	2	2		3		148	175	118	147	133	108
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症				3			60	52	53	92	47	47
	後天性免疫不全症候群	5	5	9	7	7	8	1,195	1,162	970	916	947	794
	ジアルジア症			1	1	1	1	82	94	103	113	137	98
	髄膜炎菌性髄膜炎							10	21	18	9	8	15
	先天性風しん症候群							2	10	1	1	1	1
	梅毒	3	9	4	7	6	11	559	533	509	575	585	759
	破傷風	4	2	2	4	5	1	114	101	73	106	80	91
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症*				-	-	-				-	-	-
バンコマイシン耐性腸球菌感染症							71	58	59	44	40	36	
計	54	145	97	58	93	131	8,785	8,863	7,504	8,370	9,653	9,211	

注1: (*)の疾患については2003年11月5日からの数値である。

注2: 全国の2004年、2005年の報告数については概数である。

注3: 全国のウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)の報告数については、2003年11月5日以前はE型肝炎及びA型肝炎を含む。

表 2-1-2 2005年全数把握対象疾患発生状況(月別)

平成17年1月1日～平成17年12月31日

感染症類型	疾病名	月													
		計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
一類	エボラ出血熱														
	クリミア・コンゴ出血熱														
	重症急性呼吸器症候群(SARS-CoVに限る)														
	痘そう														
	ペスト														
	マールブルグ病														
	ラッサ熱														
二類	急性灰白髄炎														
	コレラ	1					1								
	細菌性赤痢														
	ジフテリア														
	腸チフス														
	パラチフス														
三類	腸管出血性大腸菌感染症	24		1	4				1		14		1	2	1
四類	E型肝炎														
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)														
	A型肝炎														
	エキノコックス症														
	黄熱														
	オウム病	1												1	
	回帰熱														
	Q熱														
	狂犬病														
	高病原性鳥インフルエンザ														
	コクシジオイデス症														
	サル痘														
	腎症候性出血熱														
	炭疽														
	つつが虫病														
	デング熱														
	ニバウイルス感染症														
	日本紅斑熱	4							1			1	1	1	
	日本脳炎														
	ハンタウイルス肺症候群														
	Bウイルス病														
	ブルセラ症														
	発疹チフス														
ポツリヌス症															
マラリア	2			1						1					
野兔病															
ライム病															
リッサウイルス感染症															
レジオネラ症															
レプトスピラ症															
五類	アムール赤痢	4		1					1		1		1		
	ウイルス性肝炎(E型肝炎、A型肝炎を除く)	3		1						1			1		
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、日本脳炎を除く)														
	クリプトスポリジウム症														
	クロイツフェルト・ヤコブ病	3	2								1				
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症														
	後天性免疫不全症候群	5						2		1				2	
	ジアルジア症														
	髄膜炎菌性髄膜炎														
	先天性風疹症候群														
	梅毒	3						1		1			1		
	破傷風	4			2					1	1				
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症														
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症														
計	54	2	3	7			4	4	4	17	1	5	6	1	

表2-1-3 2005年全数把握対象疾患発生状況(保健所別)

平成17年1月1日～平成17年12月31日

感染症類型	疾病名	保健所名							
		計	四国中央	西条	今治	松山市	松山	八幡浜	宇和島
一類	エボラ出血熱								
	クリミア・コンゴ出血熱								
	重症急性呼吸器症候群(SARS-CoVに限る)								
	痘そう								
	ペスト								
	マールブルグ病								
二類	ラッサ熱								
	急性灰白髄炎								
	コレラ	1					1		
	細菌性赤痢								
	ジフテリア								
三類	腸チフス								
	パラチフス								
四類	腸管出血性大腸菌感染症	24	1	4		17			2
	E型肝炎								
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)								
	A型肝炎								
	エキノкокクス症								
	黄熱								
	オウム病	1			1				
	回歸熱								
	Q熱								
	狂犬病								
	高病原性鳥インフルエンザ								
	コクシジオイデス症								
	サル痘								
	腎症候性出血熱								
	炭疽								
	つつが虫病								
	デング熱								
	ニバウイルス感染症								
	日本紅斑熱	4				1			3
	日本脳炎								
	ハンタウイルス肺症候群								
	Bウイルス病								
	ブルセラ症								
発疹チフス									
ポツリヌス症									
マラリア	2						2		
野兔病									
ライム病									
リッサウイルス感染症									
レジオネラ症									
レプトスピラ症									
五類	アメーバ赤痢	4		2		1	1		
	ウイルス性肝炎(E型肝炎、A型肝炎を除く)	3	1	1	1				
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、日本脳炎を除く)								
	クリプトスポリジウム症								
	クロイツフェルト・ヤコブ病	3				3			
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症								
	後天性免疫不全症候群	5		1		3	1		
	ジアルジア症								
	髄膜炎菌性髄膜炎								
	先天性風疹症候群								
	梅毒	3		1		1			1
	破傷風	4			1	1	1		1
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症								
バンコマイシン耐性腸球菌感染症									
	計	54	2	9	3	27	5	1	7

注:1月1日～3月31日の新居浜保健所への届出は西条保健所へ、大洲保健所への届出は八幡浜保健所へそれぞれ含めた。

表 2-1-4 2005年全数把握対象疾患発生状況(年齢別)

平成17年1月1日～平成17年12月31日

感染症 類 型	年齢 疾病名	計	0	1	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	
			歳	4	9	14	19	24	29	34	39	44	49	54	59	64	69	歳 以上	
一類	エボラ出血熱																		
	クリミア・コンゴ出血熱																		
	重症急性呼吸器症候群(SARS-CoVに限る)																		
	痘そう																		
	ベスト																		
	マールブルグ病																		
二類	ラッサ熱																		
	急性灰白髄炎																		
	コレラ	1														1			
	細菌性赤痢																		
	ジフテリア																		
	腸チフス																		
三類	パラチフス																		
	腸管出血性大腸菌感染症	24		5	4				3	3	1		2		4	1	1		
四類	E型肝炎																		
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)																		
	A型肝炎																		
	エキノコックス症																		
	黄熱																		
	オウム病	1											1						
	回帰熱																		
	Q熱																		
	狂犬病																		
	高病原性鳥インフルエンザ																		
	コクシジオイデス症																		
	サル痘																		
	腎症候性出血熱																		
	炭疽																		
	つつが虫病																		
	デング熱																		
	ニパウイルス感染症																		
	日本紅斑熱	4													1	1	1		1
	日本脳炎																		
	ハンタウイルス肺症候群																		
	Bウイルス病																		
	ブルセラ症																		
	発疹チフス																		
ポツリヌス症																			
マラリア	2												2						
野兔病																			
ライム病																			
リッサウイルス感染症																			
レジオネラ症																			
レプトスピラ症																			
五類	アメーバ赤痢	4								1					2	1			
	ウイルス性肝炎(E型肝炎、A型肝炎を除く)	3						1		1								1	
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、日本脳炎を除く)																		
	クリプトスポリジウム症																		
	クロイツフェルト・ヤコブ病	3															2	1	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症																		
	後天性免疫不全症候群	5							1	2	1	1							
	ジアルジア症																		
	髄膜炎菌性髄膜炎																		
	先天性風疹症候群																		
	梅毒	3											2		1				
	破傷風	4												2					2
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症																		
バンコマイシン耐性腸球菌感染症																			
計	54		5	4				1	4	7	2	3	7	2	7	6	1	5	

2 定点把握対象 五類感染症

本報告書では、平成 17 年 4 月の組織改正にあわせ保健所名は新しい名称を用い、第 1～13 週（1～3 月）の新居浜保健所のデータは西条保健所へ、大洲保健所のデータは八幡浜保健所へそれぞれ含め集計した。

また、市町村合併、保健所統廃合により定点数が見直され、第 1 週から松山保健所管内の小児科 1 定点（旧北条市）が松山市保健所へ移行、第 14 週から西条保健所管内の内科 1 定点と小児科 1 定点、八幡浜保健所管内の小児科 1 定点が指定解除、八幡浜保健所管内に眼科 1 定点が新指定された。

(1) 定点把握対象疾患 発生動向の概況

2005 年（平成 17 年）における定点把握感染症の流行状況を、愛媛県内の流行規模で分類した。まず、週報対象疾患は以下のとおりであった。なお、(イ)はインフルエンザ定点、(小)は小児科定点、(眼)は眼科定点、(基)は基幹定点からの報告疾患であることを示す。

例年より大きな流行となった疾患

インフルエンザ(イ)：2004/2005 シーズンの報告数は 18,604 人（定点当たり 291.63 人/シーズン）で、過去 10 シーズンでは 1994/1995 シーズン（定点当たり 361.10 人/シーズン）、1997/1998 シーズン（定点当たり 305.10 人/シーズン）に次いで大規模な流行であった。地域別では東予で大きな流行となった。

RS ウイルス感染症(小)：報告数 170 人（定点当たり 4.53 人/年）で、定点観測開始（2003 年 11 月）以降、最も報告数が多かった。年齢別では 1 歳以下が全体の 80.0%を占めた。

咽頭結膜熱(小)：報告数 820 人（定点当たり 22.09 人/年）で、過去 10 年間では 2003 年（946 人 定点当たり 24.26 人/年）に次ぐ大きな流行規模であった。7～8 月には中予で、10 月下旬～12 月には四国中央地区、西条地区でそれぞれ多発し、夏季と冬季 2 つのピークを形成した。

突発性発しん(小)：報告数 2,196 人（定点当たり 58.73 人/年）で、2004 年（2,132 人 定点当たり 54.67 人/年）に比べ増加し、過去 10 年間では最も多かった。年間を通じほぼ一定の報告があり、例年に比べ夏季の報告数が多かった。

流行性耳下腺炎(小)：報告数 3,143 人（定点当たり 83.97 人/年）で、2004 年（1,656 人 定点当たり 42.46 人/年）に比べ大幅に増加した。本疾患は 3～4 年周期で流行しており、前回の流行（2001～2002 年）から 3 年が経過していることから、本年はすでに流行期に入ったと考えられた。

マイコプラズマ肺炎(基)：報告数 142 人（定点当たり 23.67 人/年）で、1999 年以降では 2001 年（151 人 定点当たり 25.17 人/年）に次いで多かった。地域別では今治地区と八幡浜地区からの報告が全体の 85.9%を占めた。

例年並であるが 2004 年よりも増加した疾患

手足口病(小)：報告数 2,028 人（定点当たり 54.62 人/年）で、2004 年（1,063 人 定点当たり 27.26 人/年）よりも増加したが、過去 10 年間では平均的な流行規模であった。例年よりも早く 3 月から散発し始めたが顕著な増加は見られず、7 月以降南予で急激に増加し、全国平均（第 28 週 定点当たり 2.30 人/週）と比べ約 2 ヶ月遅れて流行のピークを迎えた。

百日咳(小)：報告数 14 人（定点当たり 0.37 人/年）で、2003 年 5 人、2004 年 4 人と比べると増加した。本疾患は 1995 年以降、県内において流行的な発生は確認されていない。

流行性角結膜炎(眼)：報告数 993 人（定点当たり 126.54 人/年）で、2004 年（729 人 定点当たり 104.14 人/年）に比べ増加したが、過去 10 年間では平均的な流行規模であった。例年どおり 8 月を中心に県下全域で増加したが、西条地区では 12 月に再度増加に転じた。

ほぼ例年並の規模で推移した疾患

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎(小): 報告数 2,365 人(定点当たり 62.60 人/年)で、2004 年(3,838 人 定点当たり 98.41 人/年)に比べ大幅に減少したが、過去 10 年間では平均的な流行規模であった。例年 9 月以降増加し始めるが、本年は緩やかな増加にとどまった。前年以降多発していた今治地区、松山地区は減少に転じたが、他地区に比べ依然報告数の多い状況が続いた。

感染性胃腸炎(小): 報告数 15,762 人(定点当たり 418.04 人/年)で、2004 年(18,991 人 定点当たり 486.95 人/年)に比べ減少したが、過去 10 年間では平均的な流行規模であった。本年は 3 ~ 4 月に顕著な増加が見られず、11 月まで例年に比べ低位で推移した。その後中予で急激に増加し、12 月上旬に過去 10 年間では最も大きな流行のピークを形成した。

無菌性髄膜炎(基): 報告数 15 人(定点当たり 2.50 人/年)で、1999 年以降では平均的な発生規模であった。地域別では宇和島地区が 9 人、八幡浜地区が 3 人で南予からの報告が多かった。

例年よりも小さな流行となった疾患

水痘(小): 報告数 3,171 人(定点当たり 84.15 人/年)で、過去 10 年間では最も小規模な流行となった。本年は初夏に顕著な増加が見られず、例年に比べ低位で推移した。11 月以降増加し、12 月上旬にピークを迎えた。

ヘルパンギーナ(小): 報告数 2,248 人(定点当たり 60.62 人/年)で、1999 年以降では 2002 年に次いで小規模な流行であった。本年の流行開始時期は例年に比べ 2 ヶ月程度早く、全国的に見ても本県に特徴的な動向であった。例年に比べると緩やかな増加で、6 月上旬と 9 月下旬の 2 つのピークを形成した。

急性出血性結膜炎(眼): 報告数 12 人(定点当たり 1.57 人/年)で、2004 年(68 人 定点当たり 9.71 人/年)に比べ大幅に減少し、過去 10 年間では最も小さな発生規模であった。

非流行期にあたった疾患

伝染性紅斑(小): 報告数 180 人(定点当たり 4.82 人/年)で、2004 年(334 人 定点当たり 8.56 人/年)よりもさらに減少した。2003 年以降、非流行期に入ったと考えられ、県下各地で散発程度の発生が続いている。

報告が少なかった疾患

風しん(小): 報告数 1 人(定点当たり 0.03 人/年)で、過去 10 年間では最も報告数が少ない年であった。

麻しん(小): 患者報告はなかった。2002 年 10 月~2003 年 7 月に麻しん・成人麻しんの流行が発生したが、2003 年第 35 週以降新たな患者報告はない。

細菌性髄膜炎(基): 報告数 5 人(定点当たり 0.83 人/年)で、細菌性 3 人、真菌性 2 人であった。

クラミジア肺炎(基): 患者報告はなかった。県内では、前年 7 月に 4 人の患者報告があった以外は、年間 0 ~ 2 人とごく少数例の報告で推移している。

成人麻しん(基): 患者報告はなかった。2003 年第 19 週(5 月上旬)を最後に患者報告はない。

STD 定点対象疾患(月報)では、性器クラミジア感染症(177 人)は前年に比べて減少したが、性器ヘルペスウイルス感染症(73 人)、尖圭コンジローマ(73 人)、淋菌感染症(136 人)は 2004 年とほぼ同じ報告数であった。

基幹定点対象疾患(月報)では、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症(249 人)、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症(8 人)、薬剤耐性緑膿菌感染症(3 人)は 2004 年とほぼ同じ報告数で大きな変動はなかった。

表2-2-1 週報対象疾患 - 週別患者報告数

週	期間	インフルエンザ 定点	小児科定点									
		インフルエンザ	R S ウ ィ ル ス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	百 日 咳	風 し ん
1	1/3 ~ 1/9	9	9	4	32	496	174	4	4	45	1	
2	1/10 ~ 1/16	5	7	3	63	609	90	5	2	38		
3	1/17 ~ 1/23	16	3	4	96	576	125	8		40		
4	1/24 ~ 1/30	91	8	3	112	593	73	7	2	32		
5	1/31 ~ 2/6	182	2	3	78	431	84	3	1	40		
6	2/7 ~ 2/13	454	3	8	113	439	79	9	5	36	1	
7	2/14 ~ 2/20	1,026	2	3	80	440	73	17	5	49		
8	2/21 ~ 2/27	2,321	4	10	57	397	85	12	3	34	3	
9	2/28 ~ 3/6	3,573	3	4	58	424	96	10	4	29		
10	3/7 ~ 3/13	3,750		1	92	393	77	17	3	26		1
11	3/14 ~ 3/20	3,010	1	1	74	414	63	18	5	29		
12	3/21 ~ 3/28	1,731	1	2	45	277	54	14		24	1	
13	3/29 ~ 4/3	1,068	1	5	50	252	44	16		26		
14	4/4 ~ 4/10	439	1	2	53	214	57	15	4	38		
15	4/11 ~ 4/17	272	2	4	48	265	40	19	1	40		
16	4/18 ~ 4/24	242	1	3	74	249	25	21	2	46		
17	4/25 ~ 5/1	204	1	7	36	253	48	29	5	42	1	
18	5/2 ~ 5/8	55	2	4	21	188	37	17	3	38		
19	5/9 ~ 5/15	19	2	6	32	275	64	37	6	48		
20	5/16 ~ 5/22	52	3	18	57	216	52	39	3	53		
21	5/23 ~ 5/29	26	3	4	41	238	53	35	6	38		
22	5/30 ~ 6/5	20	4	12	65	240	67	25	6	54		
23	6/6 ~ 6/12	5	1	14	61	228	44	27	1	52	1	
24	6/13 ~ 6/19	4	1	24	67	196	68	44	7	41		
25	6/20 ~ 6/26	4	2	39	65	178	39	18	2	47		
26	6/27 ~ 7/3	2	1	30	44	160	34	29	7	45		
27	7/4 ~ 7/10	2		26	48	165	34	34	7	53		
28	7/11 ~ 7/17			32	47	181	41	48	22	42		
29	7/18 ~ 7/24		1	31	35	131	25	40	5	44		
30	7/25 ~ 7/31		1	26	16	146	32	58	1	48		
31	8/1 ~ 8/7			31	23	132	34	39	15	51		
32	8/8 ~ 8/14			56	29	160	21	60	3	70		
33	8/15 ~ 8/21			32	23	129	28	63	2	57		
34	8/22 ~ 8/28			40	21	139	18	93	8	45		
35	8/29 ~ 9/4			34	27	89	29	121		55		
36	9/5 ~ 9/11		1	34	25	120	26	109	2	49		
37	9/12 ~ 9/18			30	17	112	27	127	1	53		
38	9/19 ~ 9/25		1	14	12	114	38	95	2	43		
39	9/26 ~ 10/2			23	14	127	18	62	3	43		
40	10/3 ~ 10/9		2	7	26	113	33	57	2	40		
41	10/10 ~ 10/16		1	8	11	104	41	72		44	1	
42	10/17 ~ 10/23		3	4	19	127	21	68	1	41		
43	10/24 ~ 10/30		5	2	14	148	36	61		37		
44	10/31 ~ 11/6		2	4	41	157	37	43	4	47		
45	11/7 ~ 11/13		2	9	27	211	59	53	1	39		
46	11/14 ~ 11/20	1	2	10	29	181	84	67	1	39		
47	11/21 ~ 11/27		7	23	34	263	80	35		42		
48	11/28 ~ 12/4	2	8	20	32	454	132	46	2	38	1	
49	12/5 ~ 12/11	1	10	35	52	764	106	34	2	37	2	
50	12/12 ~ 12/18	7	17	28	44	1,116	165	28	2	34		
51	12/19 ~ 12/25	47	15	19	57	969	130	12		34	1	
52	12/26 ~ 1/1	121	24	24	28	769	131	8	7	41	1	
合計		18,761	170	820	2,365	15,762	3,171	2,028	180	2,196	14	1
男性		9,392	90	491	1,236	8,447	1,629	1,109	79	1,135	11	1
女性		9,369	80	329	1,129	7,315	1,542	919	101	1,061	3	

(人)

ヘルパンギーナ	麻しん (成人麻しんを除く)	流行性耳下腺炎	眼科定点		基幹定点				定点数				
			急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	成人麻しん	インフルエンザ	小児科	眼科	基幹
1		64		9			2			64	39	7	6
1		56		7		1	1			64	39	7	6
3		58		6		2	10			64	39	7	6
2		39		8			1			64	39	7	6
1		38		9						64	39	7	6
2		34		10			3			64	39	7	6
4		67		12						64	39	7	6
2		57		14	1					64	39	7	6
3		44		6			2			64	39	7	6
4		73		15						64	39	7	6
18		45		14			1			64	39	7	6
22		62	1	11			1			64	39	7	6
36		68	3	14			2			64	39	7	6
29		47		11						61	37	8	6
43		58		23			2			61	37	8	6
37		40		13			1			61	37	8	6
61		45	1	13	1	1	2			61	37	8	6
68		49	1	13			1			61	37	8	6
81		45		16						61	37	8	6
96		48		15			1			61	37	8	6
102		62		21	1	1	1			61	37	8	6
100		68		24						61	37	8	6
134		72		16		1	4			61	37	8	6
112		66		25		1	4			61	37	8	6
92		54		15			2			61	37	8	6
99		63		16			3			61	37	8	6
81		89		21			4			61	37	8	6
92		59		21			3			61	37	8	6
70		70		24			2	6		61	37	8	6
69		74		21			2			61	37	8	6
52		82		26			3			61	37	8	6
59		68	1	27			4			61	37	8	6
29		62	1	25			2			61	37	8	6
55		74	1	42		1	1			61	37	8	6
39		69		37			2			61	37	8	6
44		53		32	1					61	37	8	6
75		71		32		1	3			61	37	8	6
93		47		25		1	1			61	37	8	6
89		60		30			1			61	37	8	6
58		66		19			3			61	37	8	6
55		38		23			7			61	37	8	6
37		68		16			2			61	37	8	6
21		53	1	17			6			61	37	8	6
16		55		24		1	3			61	37	8	6
7		81		15			2			61	37	8	6
10		62		19			4			61	37	8	6
16		64		19			3			61	37	8	6
10		62		19	1		10			61	37	8	6
7		81		24			8			61	37	8	6
7		58		31			7			61	37	8	6
		85		28			8			61	37	8	6
4		70	2	20			5			61	37	8	6
2,248		3,143	12	993	5	15	142						
1,168		1,716	7	542	2	12	65						
1,080		1,427	5	451	3	3	77						

表2-2-2 週報対象疾患 - 週別定点当たり患者報告数

週	期 間	インフルエンザ 定点	小児科定点								
		イン フル エン ザ	R S ウ ィ ル ス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	咽 頭 炎	A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん
1	1/3 ~ 1/9	0.14	0.23	0.10	0.82	12.72	4.46	0.10	0.10	1.15	0.03
2	1/10 ~ 1/16	0.08	0.18	0.08	1.62	15.62	2.31	0.13	0.05	0.97	
3	1/17 ~ 1/23	0.25	0.08	0.10	2.46	14.77	3.21	0.21		1.03	
4	1/24 ~ 1/30	1.42	0.21	0.08	2.87	15.21	1.87	0.18	0.05	0.82	
5	1/31 ~ 2/6	2.84	0.05	0.08	2.00	11.05	2.15	0.08	0.03	1.03	
6	2/7 ~ 2/13	7.09	0.08	0.21	2.90	11.26	2.03	0.23	0.13	0.92	0.03
7	2/14 ~ 2/20	16.03	0.05	0.08	2.05	11.28	1.87	0.44	0.13	1.26	
8	2/21 ~ 2/27	36.27	0.10	0.26	1.46	10.18	2.18	0.31	0.08	0.87	0.08
9	2/28 ~ 3/6	55.83	0.08	0.10	1.49	10.87	2.46	0.26	0.10	0.74	
10	3/7 ~ 3/13	58.59		0.03	2.36	10.08	1.97	0.44	0.08	0.67	
11	3/14 ~ 3/20	47.03	0.03	0.03	1.90	10.62	1.62	0.46	0.13	0.74	
12	3/21 ~ 3/28	27.05	0.03	0.05	1.15	7.10	1.38	0.36		0.62	0.03
13	3/29 ~ 4/3	16.69	0.03	0.13	1.28	6.46	1.13	0.41		0.67	
14	4/4 ~ 4/10	7.20	0.03	0.05	1.43	5.78	1.54	0.41	0.11	1.03	
15	4/11 ~ 4/17	4.46	0.05	0.11	1.30	7.16	1.08	0.51	0.03	1.08	
16	4/18 ~ 4/24	3.97	0.03	0.08	2.00	6.73	0.68	0.57	0.05	1.24	
17	4/25 ~ 5/1	3.34	0.03	0.19	0.97	6.84	1.30	0.78	0.14	1.14	0.03
18	5/2 ~ 5/8	0.90	0.05	0.11	0.57	5.08	1.00	0.46	0.08	1.03	
19	5/9 ~ 5/15	0.31	0.05	0.16	0.86	7.43	1.73	1.00	0.16	1.30	
20	5/16 ~ 5/22	0.85	0.08	0.49	1.54	5.84	1.41	1.05	0.08	1.43	
21	5/23 ~ 5/29	0.43	0.08	0.11	1.11	6.43	1.43	0.95	0.16	1.03	
22	5/30 ~ 6/5	0.33	0.11	0.32	1.76	6.49	1.81	0.68	0.16	1.46	
23	6/6 ~ 6/12	0.08	0.03	0.38	1.65	6.16	1.19	0.73	0.03	1.41	0.03
24	6/13 ~ 6/19	0.07	0.03	0.65	1.81	5.30	1.84	1.19	0.19	1.11	
25	6/20 ~ 6/26	0.07	0.05	1.05	1.76	4.81	1.05	0.49	0.05	1.27	
26	6/27 ~ 7/3	0.03	0.03	0.81	1.19	4.32	0.92	0.78	0.19	1.22	
27	7/4 ~ 7/10	0.03		0.70	1.30	4.46	0.92	0.92	0.19	1.43	
28	7/11 ~ 7/17			0.86	1.27	4.89	1.11	1.30	0.59	1.14	
29	7/18 ~ 7/24		0.03	0.84	0.95	3.54	0.68	1.08	0.14	1.19	
30	7/25 ~ 7/31		0.03	0.70	0.43	3.95	0.86	1.57	0.03	1.30	
31	8/1 ~ 8/7			0.84	0.62	3.57	0.92	1.05	0.41	1.38	
32	8/8 ~ 8/14			1.51	0.78	4.32	0.57	1.62	0.08	1.89	
33	8/15 ~ 8/21			0.86	0.62	3.49	0.76	1.70	0.05	1.54	
34	8/22 ~ 8/28			1.08	0.57	3.76	0.49	2.51	0.22	1.22	
35	8/29 ~ 9/4			0.92	0.73	2.41	0.78	3.27		1.49	
36	9/5 ~ 9/11		0.03	0.92	0.68	3.24	0.70	2.95	0.05	1.32	
37	9/12 ~ 9/18			0.81	0.46	3.03	0.73	3.43	0.03	1.43	
38	9/19 ~ 9/25		0.03	0.38	0.32	3.08	1.03	2.57	0.05	1.16	
39	9/26 ~ 10/2			0.62	0.38	3.43	0.49	1.68	0.08	1.16	
40	10/3 ~ 10/9		0.05	0.19	0.70	3.05	0.89	1.54	0.05	1.08	
41	10/10 ~ 10/16		0.03	0.22	0.30	2.81	1.11	1.95		1.19	0.03
42	10/17 ~ 10/23		0.08	0.11	0.51	3.43	0.57	1.84	0.03	1.11	
43	10/24 ~ 10/30		0.14	0.05	0.38	4.00	0.97	1.65		1.00	
44	10/31 ~ 11/6		0.05	0.11	1.11	4.24	1.00	1.16	0.11	1.27	
45	11/7 ~ 11/13		0.05	0.24	0.73	5.70	1.59	1.43	0.03	1.05	
46	11/14 ~ 11/20	0.02	0.05	0.27	0.78	4.89	2.27	1.81	0.03	1.05	
47	11/21 ~ 11/27		0.19	0.62	0.92	7.11	2.16	0.95		1.14	
48	11/28 ~ 12/4	0.03	0.22	0.54	0.86	12.27	3.57	1.24	0.05	1.03	0.03
49	12/5 ~ 12/11	0.02	0.27	0.95	1.41	20.65	2.86	0.92	0.05	1.00	0.05
50	12/12 ~ 12/18	0.11	0.46	0.76	1.19	30.16	4.46	0.76	0.05	0.92	
51	12/19 ~ 12/25	0.77	0.41	0.51	1.54	26.19	3.51	0.32		0.92	0.03
52	12/26 ~ 1/1	1.98	0.65	0.65	0.76	20.78	3.54	0.22	0.19	1.11	0.03
合計		294.31	4.53	22.09	62.60	418.04	84.15	54.62	4.82	58.73	0.37
男性		147.33	2.40	13.23	32.72	224.09	43.29	29.86	2.11	30.35	0.29
女性		146.98	2.14	8.86	29.88	193.96	40.86	24.76	2.70	28.38	0.08

(人/定点当たり)

				眼科定点		基幹定点					定点数			
風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (成人麻しんを除く)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	成人麻しん	インフルエンザ	小児科	眼科	基幹
	0.03		1.64		1.29			0.33			64	39	7	6
	0.03		1.44		1.00		0.17	0.17			64	39	7	6
	0.08		1.49		0.86		0.33	1.67			64	39	7	6
	0.05		1.00		1.14			0.17			64	39	7	6
	0.03		0.97		1.29						64	39	7	6
	0.05		0.87		1.43			0.50			64	39	7	6
	0.10		1.72		1.71						64	39	7	6
	0.05		1.46		2.00	0.17					64	39	7	6
	0.08		1.13		0.86			0.33			64	39	7	6
0.03	0.10		1.87		2.14						64	39	7	6
	0.46		1.15		2.00			0.17			64	39	7	6
	0.56		1.59	0.14	1.57			0.17			64	39	7	6
	0.92		1.74	0.43	2.00			0.33			64	39	7	6
	0.78		1.27		1.38						61	37	8	6
	1.16		1.57		2.88			0.33			61	37	8	6
	1.00		1.08		1.63			0.17			61	37	8	6
	1.65		1.22	0.13	1.63	0.17	0.17	0.33			61	37	8	6
	1.84		1.32	0.13	1.63			0.17			61	37	8	6
	2.19		1.22		2.00						61	37	8	6
	2.59		1.30		1.88			0.17			61	37	8	6
	2.76		1.68		2.63	0.17	0.17	0.17			61	37	8	6
	2.70		1.84		3.00						61	37	8	6
	3.62		1.95		2.00		0.17	0.67			61	37	8	6
	3.03		1.78		3.13		0.17	0.67			61	37	8	6
	2.49		1.46		1.88			0.33			61	37	8	6
	2.68		1.70		2.00			0.50			61	37	8	6
	2.19		2.41		2.63			0.67			61	37	8	6
	2.49		1.59		2.63			0.50			61	37	8	6
	1.89		1.89		3.00		0.33	1.00			61	37	8	6
	1.86		2.00		2.63		0.33				61	37	8	6
	1.41		2.22		3.25			0.50			61	37	8	6
	1.59		1.84	0.13	3.38			0.67			61	37	8	6
	0.78		1.68	0.13	3.13			0.33			61	37	8	6
	1.49		2.00	0.13	5.25		0.17	0.17			61	37	8	6
	1.05		1.86		4.63			0.33			61	37	8	6
	1.19		1.43		4.00	0.17					61	37	8	6
	2.03		1.92		4.00		0.17	0.50			61	37	8	6
	2.51		1.27		3.13		0.17	0.17			61	37	8	6
	2.41		1.62		3.75			0.17			61	37	8	6
	1.57		1.78		2.38			0.50			61	37	8	6
	1.49		1.03		2.88			1.17			61	37	8	6
	1.00		1.84		2.00			0.33			61	37	8	6
	0.57		1.43	0.13	2.13			1.00			61	37	8	6
	0.43		1.49		3.00		0.17	0.50			61	37	8	6
	0.19		2.19		1.88			0.33			61	37	8	6
	0.27		1.68		2.38			0.67			61	37	8	6
	0.43		1.73		2.38			0.50			61	37	8	6
	0.27		1.68		2.38	0.17		1.67			61	37	8	6
	0.19		2.19		3.00			1.33			61	37	8	6
	0.19		1.57		3.88			1.17			61	37	8	6
			2.30		3.50			1.33			61	37	8	6
	0.11		1.89	0.25	2.50			0.83			61	37	8	6
0.03	60.62		83.97	1.57	126.54	0.83	2.50	23.67						
0.03	31.49		45.87	0.93	69.18	0.33	2.00	10.83						
	29.13		38.10	0.64	57.36	0.50	0.50	12.83						

表2-2-3 週報対象疾患 - 年齢区分別患者報告数

年齢区分	(人)															
	インフルエンザ 定点	小児科定点												眼科定点		
	インフル エンザ	R S ウ イ ル ス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌 咽 頭 炎	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	百 日 咳	風 し ん	ヘル パン ギー ナ	麻 し ん (成 人 麻 し ん を 除 く)	流 行 性 耳 下 腺 炎	急 性 出 血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎
6ヶ月未満	65	44	1		203	85	10	1	119	3		28				3
12ヶ月未満	263	34	24	2	1,182	202	116	31	1,301	5		203		18		4
1歳	999	58	147	23	2,602	616	596	30	736	5		597		186	1	27
2歳	1,120	8	102	118	2,120	623	483	5	34			487		337		35
3歳	1,312	10	171	229	1,835	527	321	20	4			396		551	1	25
4歳	1,592	4	124	404	1,561	456	244	19	1			249		612		31
5歳	1,568	4	96	431	1,323	317	133	24				152		528		31
6歳	1,541	1	57	386	1,011	168	51	13	1	1		56		372		21
7歳	1,267	2	32	237	840	69	19	10				47		196		8
8歳	1,305	1	18	179	711	34	27	9			1	8		111	2	6
9歳	1,140	1	13	97	577	28	5	3				11		92		13
10～14歳	1,977	2	24	218	1,282	34	13	14				11		123		47
15～19歳	330		2	7	115	4	1					1		6		37
20～29歳 ¹⁾	773	1	9	34	400	8	9	1				2		11	1	197
30～39歳	1,317	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	203
40～49歳	804	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	87
50～59歳	665	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	101
60～69歳	383	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	72
70～79歳 ²⁾	214	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	45
80歳以上	126	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	18,761	170	820	2,365	15,762	3,171	2,028	180	2,196	14	1	2,248		3,143	12	993

1)小児科定点疾患については20歳以上の全患者数を"20～29歳"に計上。

2)眼科定点疾患については70歳以上の全患者数を"70～79歳"に計上

年齢区分	(人)				
	基幹定点				成人麻しん
	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	
0歳		2	3		
1～4歳	1	2	60		
5～9歳	1	7	48		
10～14歳		1	25		
15～19歳			3		
20～24歳		1			
25～29歳		1			
30～34歳		1			
35～39歳					
40～44歳			1		
45～49歳					
50～54歳					
55～59歳					
60～64歳	1				
65～69歳					
70歳以上	2		2		
合計	5	15	142		

表2-2-4 月報対象疾患 - 月別患者報告数

(人)

月	STD定点												基幹定点									定点数	
	性器クラミジア感染症			性器ヘルペスウイルス感染症			尖圭コンジローマ			淋菌感染症			メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症			ペニシリン耐性肺炎球菌感染症			薬剤耐性緑膿菌感染症			STD	基幹
	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女		
1	16	3	13	13	7	6	8	1	7	12	12		30	25	5	1		1				11	6
2	21	4	17	7	5	2	6	4	2	9	7	2	18	13	5	2	1	1				11	6
3	19	7	12	7	1	6	3	3		14	14		23	12	11							11	6
4	11	6	5	7	6	1	2	1	1	12	10	2	19	12	7	1	1					11	6
5	12	6	6	3	3		8	6	2	14	12	2	19	14	5							11	6
6	16	9	7	4	3	1	6	2	4	8	6	2	20	13	7							11	6
7	16	7	9	6	5	1	5	2	3	10	9	1	23	13	10							11	6
8	13	3	10	8	5	3	4	3	1	7	7		20	14	6	1		1				11	6
9	11	7	4	4	4		7	6	1	16	16		19	15	4				1		1	11	6
10	13	6	7	4	4		11	4	7	15	14	1	20	12	8	1		1	2	2		11	6
11	12	5	7	4	1	3	8	3	5	9	9		15	7	8	1	1					11	6
12	17	9	8	6	4	2	5	2	3	10	10		23	13	10	1	1					11	6
合計	177	72	105	73	48	25	73	37	36	136	126	10	249	163	86	8	4	4	3	2	1		

表2-2-5 月報対象疾患 - 月別定点当たり患者報告数

(人/定点当たり)

月	STD定点												基幹定点									定点数		
	性器クラミジア感染症			性器ヘルペスウイルス感染症			尖圭コンジローマ			淋菌感染症			メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症			ペニシリン耐性肺炎球菌感染症			薬剤耐性緑膿菌感染症			STD	基幹	
	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女			
1	1.45	0.27	1.18	1.18	0.64	0.55	0.73	0.09	0.64	1.09	1.09		5.00	4.17	0.83	0.17		0.17					11	6
2	1.91	0.36	1.55	0.64	0.45	0.18	0.55	0.36	0.18	0.82	0.64	0.18	3.00	2.17	0.83	0.33	0.17	0.17					11	6
3	1.73	0.64	1.09	0.64	0.09	0.55	0.27	0.27		1.27	1.27		3.83	2.00	1.83								11	6
4	1.00	0.55	0.45	0.64	0.55	0.09	0.18	0.09	0.09	1.09	0.91	0.18	3.17	2.00	1.17	0.17	0.17						11	6
5	1.09	0.55	0.55	0.27	0.27		0.73	0.55	0.18	1.27	1.09	0.18	3.17	2.33	0.83								11	6
6	1.45	0.82	0.64	0.36	0.27	0.09	0.55	0.18	0.36	0.73	0.55	0.18	3.33	2.17	1.17								11	6
7	1.45	0.64	0.82	0.55	0.45	0.09	0.45	0.18	0.27	0.91	0.82	0.09	3.83	2.17	1.67								11	6
8	1.18	0.27	0.91	0.73	0.45	0.27	0.36	0.27	0.09	0.64	0.64		3.33	2.33	1.00	0.17		0.17					11	6
9	1.00	0.64	0.36	0.36	0.36		0.64	0.55	0.09	1.45	1.45		3.17	2.50	0.67				0.17		0.17		11	6
10	1.18	0.55	0.64	0.36	0.36		1.00	0.36	0.64	1.36	1.27	0.09	3.33	2.00	1.33	0.17		0.17	0.33	0.33			11	6
11	1.09	0.45	0.64	0.36	0.09	0.27	0.73	0.27	0.45	0.82	0.82		2.50	1.17	1.33	0.17	0.17						11	6
12	1.55	0.82	0.73	0.55	0.36	0.18	0.45	0.18	0.27	0.91	0.91		3.83	2.17	1.67	0.17	0.17						11	6
合計	16.09	6.55	9.55	6.64	4.36	2.27	6.64	3.36	3.27	12.36	11.45	0.91	41.50	27.17	14.33	1.33	0.67	0.67	0.50	0.33	0.17			

表2-2-6 月報対象疾患 - 年齢区分別患者報告数

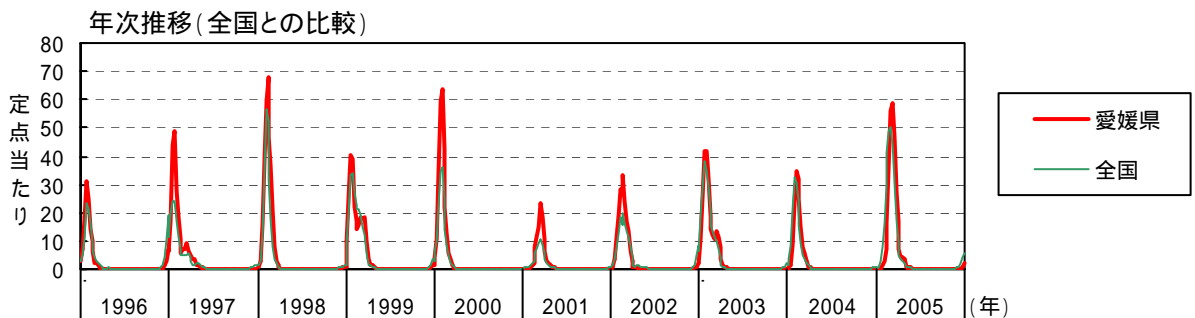
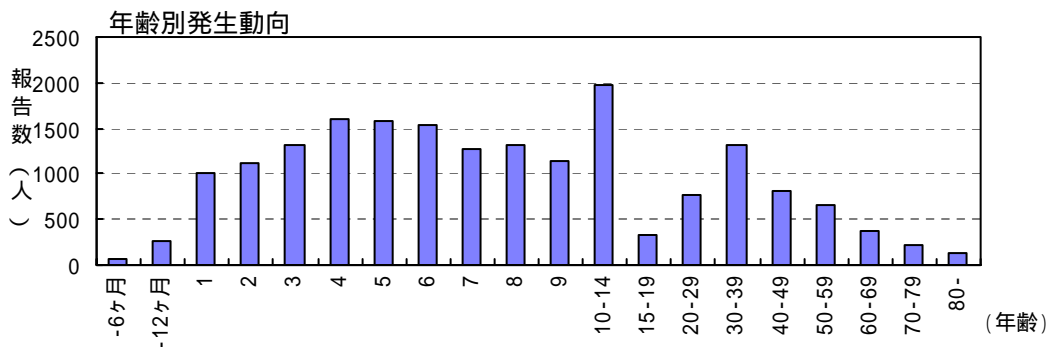
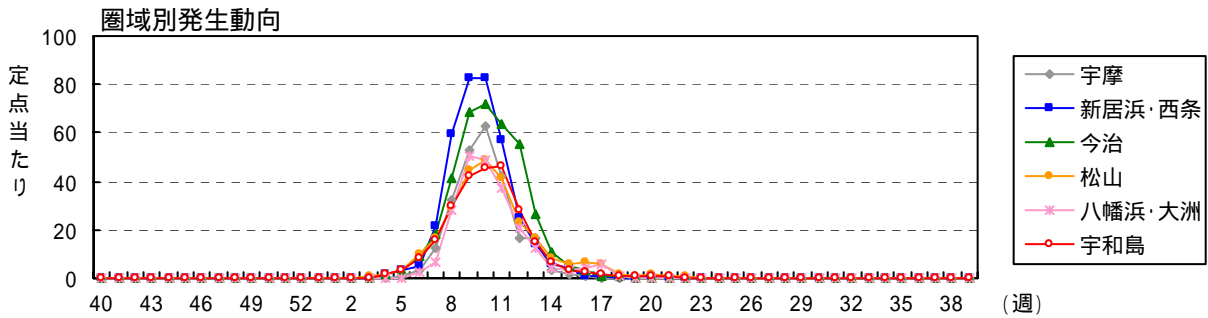
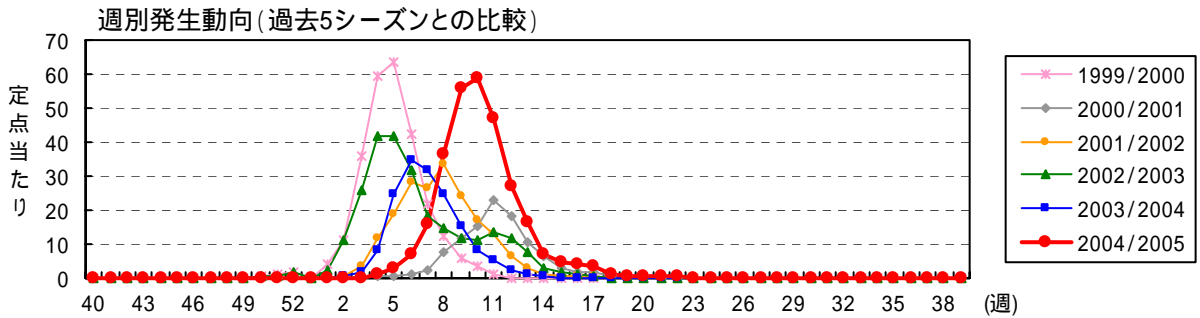
(人)

年齢区分	STD定点												基幹定点									
	性器クラミジア感染症			性器ヘルペスウイルス感染症			尖圭コンジローマ			淋菌感染症			メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症			ペニシリン耐性肺炎球菌感染症			薬剤耐性緑膿菌感染症			
	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	
0歳													5	4	1							
1～4歳													1		1	3	3					
5～9歳													1	1								
10～14歳																						
15～19歳	18	4	14				10	3	7	6	5	1										
20～24歳	51	18	33	5	4	1	17	8	9	36	33	3	2	2								
25～29歳	48	26	22	16	6	10	12	3	9	27	27											
30～34歳	25	9	16	9	8	1	9	7	2	31	27	4										
35～39歳	12	5	7	8	6	2	12	7	5	11	10	1	4	3	1							
40～44歳	12	5	7	8	5	3	6	4	2	8	8		4	4								
45～49歳	4	3	1	4	2	2				7	7		2	1	1	2			2			
50～54歳	3	2	1	4	3	1	1		1	4	4		8	5	3							
55～59歳	4		4	6	5	1	3	2	1	5	5		13	9	4							
60～64歳							2	2		1		1	24	17	7	1			1			
65～69歳				3	1	2							22	14	8	1	1		2	2		
70歳以上				10	8	2	1	1					163	103	60	1		1	1			1
合計	177	72	105	73	48	25	73	37	36	136	126	10	249	163	86	8	4	4	3	2	1	

(2)インフルエンザ定点対象疾患(週報)

インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)

2004/2005シーズンの患者報告数は18,604人(定点当たり291.63人/シーズン)で、過去10シーズンでは1994/1995シーズン(定点当たり361.10人/シーズン)1997/1998シーズン(定点当たり305.10人/シーズン)に次いで大規模な流行であった。ウイルス型は流行初期にはB型が中心であったが、患者数の増加に伴いA香港型の割合も増加し、2種類の型が同時に流行していたことが推察された。県内では第46週(11月上旬)に今シーズン初めての患者報告があり、年始まで中南予でごく少数例の報告が続いた後、第4週(1月下旬)に流行開始の基準とされる定点当たり1.0人を超え、例年に比べ約1ヶ月遅れて本格的な流行シーズンを迎えた。県下全域で患者報告数が急激に増加し、第10週(3月上旬)に定点当たり58.59人/週と流行のピークに達した後、減少に転じた。地域別では今治地区(380.63人/シーズン)西条地区(365.20人/シーズン)が多く、東予で大規模な流行が確認された。年齢別では乳児から高齢者まで全年齢にわたって報告があった。



インフルエンザ

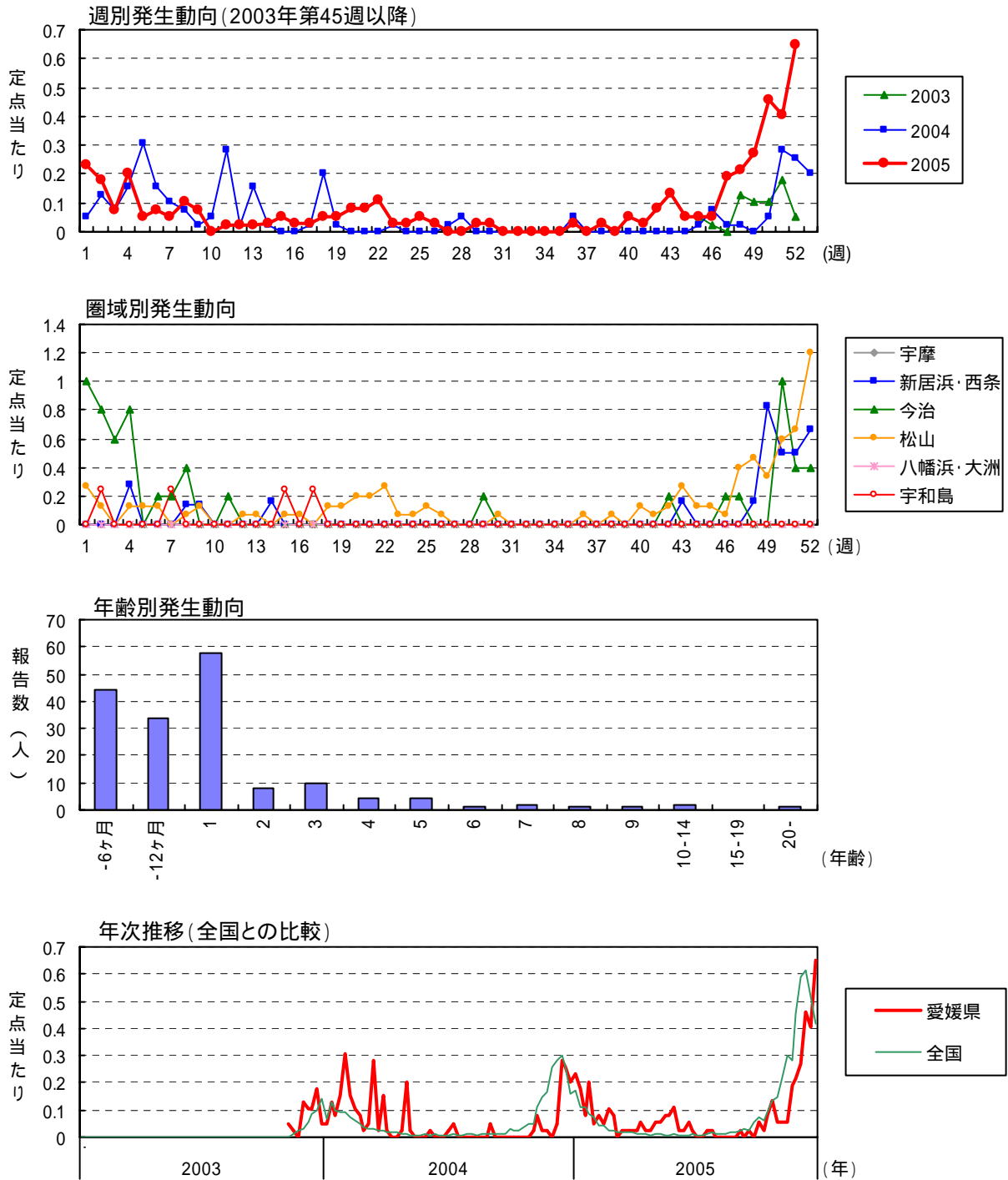
月	週	患者報告数												定点あたり報告数																	
		2004/2005シーズン保健所別							愛媛県					全国					2004/2005シーズン保健所別							愛媛県			全国		
		四国中央	西条	今治	松山市	松山	八幡浜	宇和島	2004 / 2005	2003 / 2004	2002 / 2003	2004 / 2005	2003 / 2004	2002 / 2003	四国中央	西条	今治	松山市	松山	八幡浜	宇和島	2004 / 2005	2003 / 2004	2002 / 2003	2004 / 2005	2003 / 2004	2002 / 2003				
10	40										13	4	28													0.00	0.00	0.01			
	41										35	7	53													0.01	0.00	0.01			
	42									1	44	16	57									0.02			0.01	0.00	0.01				
	43										60	19	77												0.01	0.00	0.02				
	44										116	32	98												0.02	0.01	0.02				
11	45										135	23	122												0.02	0.03	0.00				
	46								2	2	220	58	202						0.25			0.03			0.02	0.05	0.01				
	47										295	144	333									0.03			0.06	0.06	0.03				
	48										488	302	1,048												0.02	0.10	0.06				
12	49									1	2	2	733	754	2,810										0.02	0.03	0.03				
	50										3	1	23	1,132	1,797	7,635									0.05	0.02	0.36				
	51										3	2	47	1,685	4,030	24,939									0.05	0.03	0.73				
	52													2,398	8,389	41,280										0.52	1.79	8.78			
	53										7	9	124	1,764											0.11	0.14	1.94				
1	1										9	153	1,640	5,533	29,610										0.14	2.39	0.35				
	2										5	698	3,267	17,318	90,319										0.08	0.39	10.91				
	3										16	105	1,674	13,198	39,586	138,639									0.25	1.64	26.16				
	4										91	532	2,671	37,332	100,849	183,091									1.42	8.31	41.73				
	5										182	1,592	2,672	77,397	152,423	166,368	1.00								2.84	24.88	41.75				
2	6										454	2,206	2,018	139,771	144,313	137,786	3.20								7.09	34.47	31.53				
	7										1,026	2,051	1,177	191,948	112,337	96,637	12.20								16.03	32.05	18.39				
	8										2,321	1,592	924	231,596	74,828	73,710	32.60								36.27	24.88	14.44				
	9										3,573	964	756	235,343	44,025	62,234	52.60								55.83	15.06	11.81				
3	10										3,750	521	699	207,306	24,891	52,723	62.60								58.59	8.14	10.92				
	11										3,010	345	850	143,993	16,941	46,067	42.00								47.03	5.39	13.28				
	12										1,731	169	738	78,911	9,574	33,653	16.80								27.71	27.05	2.64				
	13										1,068	62	481	46,874	5,584	19,649	16.80								16.69	0.97	7.52				
4	14										439	27	204	24,589	2,953	7,536	3.40								7.20	0.42	3.19				
	15										272	1	98	17,632	1,658	3,376	1.60								4.46	0.02	1.53				
	16										204	2	62	14,549	1,524	2,402	1.00								3.97	0.03	0.97				
	17										204		23	11,141	1,471	1,223	0.20								2.00	3.34	0.36				
	18										55		13	4,809	1,026	646									0.90	0.20	1.02				
5	19										19		2	3,044	470	288									0.71	0.31	0.03				
	20										52		2	3,248	464	217									0.86	0.85	0.03				
	21										26		1	2,182	238	120									0.43	0.43	0.02				
	22										20			1,178	198	87									0.29	0.33	0.25				
6	23										5			644	97	57									0.08	0.14	0.02				
	24										4			366	53	45									0.07	0.07	0.08				
	25										4			327	31	24									0.07	0.07	0.07				
	26										2			330	9	27									0.03	0.03	0.07				
7	27										2			712	19	25									0.03		0.15				
	28													866	11	17											0.18				
	29													808	15	21											0.17				
	30													560	17	15											0.12				
	31													321	14	13											0.07				
8	32													234	9	17											0.05				
	33													143	2	6											0.03				
	34													101	6	8											0.02				
	35													113	7	10											0.02				
9	36													110	4	8											0.02				
	37													190	2	9											0.04				
	38													103	12	12											0.02				
	39													97	7	20											0.02				
合計																															

注1)2004年、2005年の全国患者報告数及び定点あたり報告数は、各週の還元データを転記したものであり、確定値とは異なる。
 注2)2004年第40週～2005年第13週の新居浜保健所のデータは西条保健所へ、大洲保健所のデータは八幡浜保健所へそれぞれ含め集計した。

(3)小児科定点対象疾患(週報)

RS ウイルス感染症

2005年の患者報告数は170人(定点当たり4.53人/年)で、前年(定点当たり2.97人/年)に比べ大幅に増加した。前年11月からの流行が今治地区を中心に2月まで続いたあと、松山市で6月まで散発した。その後10月から松山市、今治地区、西条地区で再び増加しはじめ、年末(第52週)に県全体で定点当たり0.65人/週と流行のピークを迎えた。地域別では松山市(定点当たり9.91人/年)、今治地区(定点当たり6.80人/年)、西条地区(定点当たり3.57人/年)が多く、四国中央地区と八幡浜地区からの報告はなかった。年齢別では1歳以下が136人で、全体の80.0%を占めた。



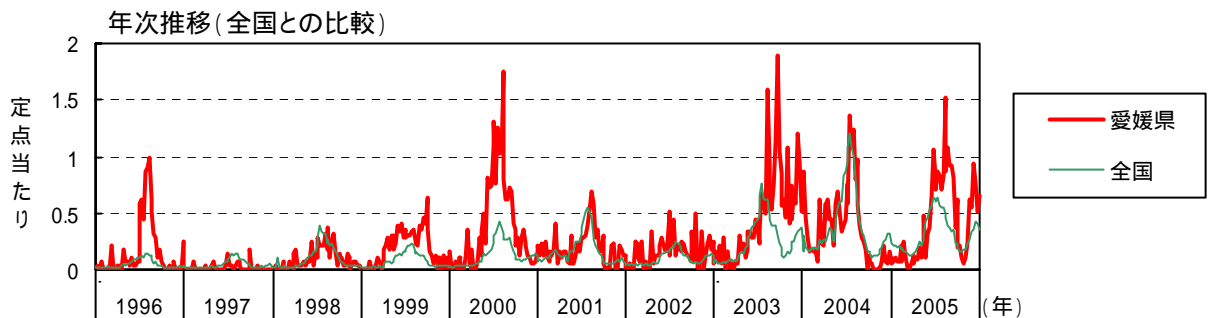
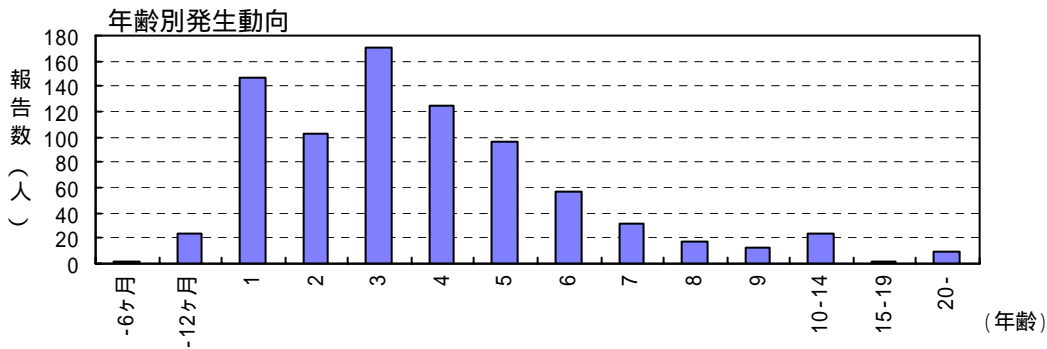
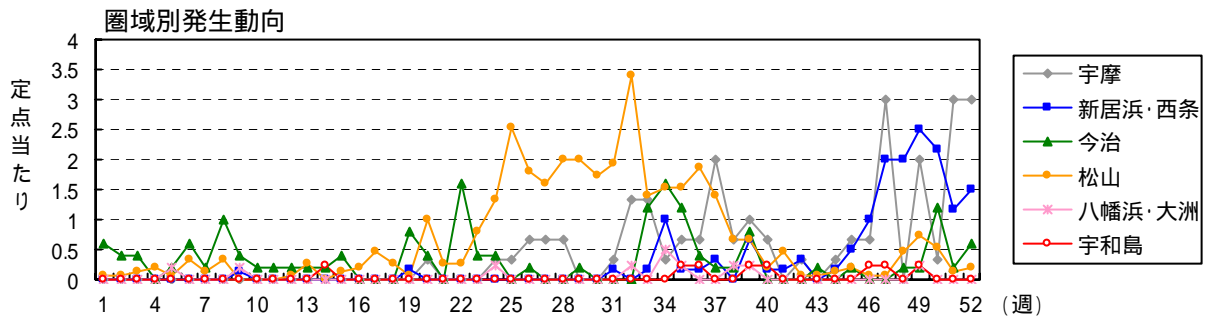
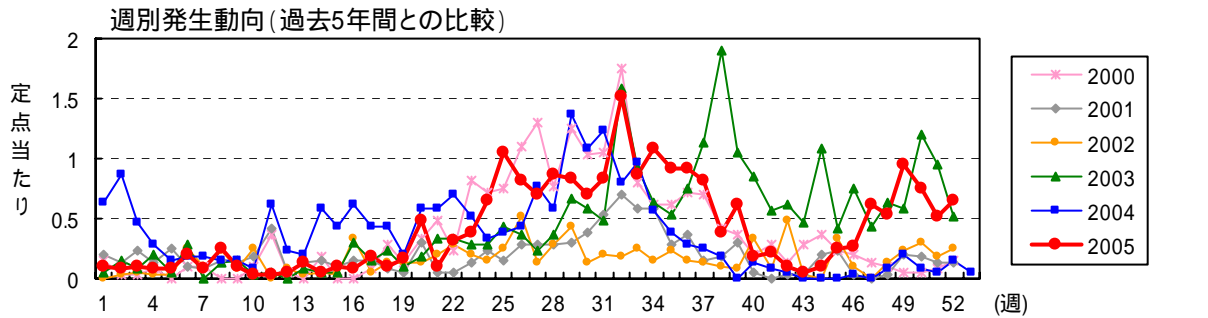
RSウイルス感染症

月	週	患者報告数															定点あたり報告数														
		2005年 保健所別								愛媛県			全国			2005年 保健所別								愛媛県			全国				
		四国中央	西条	今治	松山市	松山	八幡浜	宇和島		2005	2004	2003	2005	2004	2003	四国中央	西条	今治	松山市	松山	八幡浜	宇和島		2005	2004	2003	2005	2004	2003		
1	1			5	4				9	2		517	204				1.00	0.36				0.25	0.23	0.05							
1	2			4	2			1	7	5		341	395				0.80	0.18					0.18	0.13							
1	3			3					3	3		335	297				0.60						0.08	0.08							
1	4		2	4	2				8	6		257	277			0.29	0.80	0.18					0.21	0.15							
1	5				2				2	12		219	284				0.18						0.05	0.31							
2	6			1	2				3	6		123	217				0.20	0.18				0.25	0.08	0.15							
2	7			1				1	2	4		128	194				0.20						0.05	0.10							
2	8		1	2	1				4	3		79	157			0.14	0.40	0.09					0.10	0.08							
2	9		1		2				3	1		80	110			0.14	0.18						0.08	0.03							
3	10									2		65	102										0.03	0.05							
3	11			1					1	11		48	98			0.20							0.03	0.28							
3	12				1				1	1		63	76				0.09						0.03	0.03							
3	13				1				1	6		60	76				0.09						0.03	0.15							
4	14		1						1	1		44	56			0.17							0.03	0.03							
4	15				1			1	2			34	62					0.09			0.25	0.05									
4	16				1				1			40	50					0.09				0.03									
4	17							1	1	1		24	42								0.25	0.03	0.03								
4	18				2				2	8		29	38					0.18				0.05	0.21								
5	19				2				2	1		33	17					0.18				0.05	0.03								
5	20				3				3			25	15					0.27				0.08									
5	21				3				3			22	15					0.27				0.08									
5	22				4				4			32	29					0.36				0.11									
6	23				1				1	1		22	21					0.09				0.03	0.03								
6	24				1				1			19	31					0.09				0.03									
6	25				2				2			24	17					0.18				0.05									
6	26				1				1			30	20					0.09				0.03									
7	27									1		16	15											0.03							
7	28									2		18	40										0.05								
7	29			1					1			30	28					0.20				0.03									
7	30				1				1			47	15					0.09				0.03									
7	31											36	31																		
8	32											31	43																		
8	33											28	19																		
8	34											51	28																		
8	35											56	33																		
9	36				1				1	2		74	45					0.09				0.03	0.05								
9	37											94	42																		
9	38				1				1			79	39					0.09				0.03									
9	39											171	46																		
9	40				2				2			224	88					0.18				0.05									
10	41				1				1			195	68					0.09				0.03									
10	42			1	2				3			279	68					0.20				0.08									
10	43		1		4				5			412	105			0.17		0.36				0.14									
10	44				2				2			444	149					0.18				0.05									
11	45				2				2	1	2	674	151	15				0.18				0.05	0.03	0.05							
11	46			1	1				2	3	1	908	331	56				0.20	0.09			0.05	0.08	0.03							
11	47			1	6				7	1		853	453	99				0.20	0.55			0.19	0.03								
11	48		1		7				8	1	5	1,379	506	148			0.17	0.64			0.22	0.03	0.13								
12	49		5		5				10		4	1,804	789	216			0.83	0.45			0.27		0.10								
12	50		3	5	8		1		17	2	4	1,864	855	316			0.50	1.00	0.73	0.25	0.46	0.05	0.10								
12	51		3	2	10				15	11	7	1,563	921	381			0.50	0.40	0.91		0.41	0.28	0.18								
12	52		4	2	18				24	10	2	1,263	780	472			0.67	0.40	1.64		0.65	0.26	0.05								
12	53											486										0.21									
合計			22	34	109	1		4	170	116	25	15,286	9,074	1,703			3.57	6.80	9.91	0.25	1.00	4.53	2.97	0.64							

注1)2004年、2005年の全国患者報告数は各週の還元データを転記したものであり、確定値とは異なる。また、定点あたり報告数は国から情報還元されていないため、報告数のみ掲載した。
 注2)2005年第13週までの新居浜保健所のデータは西条保健所へ、大洲保健所のデータは八幡浜保健所へそれぞれ含め集計した。

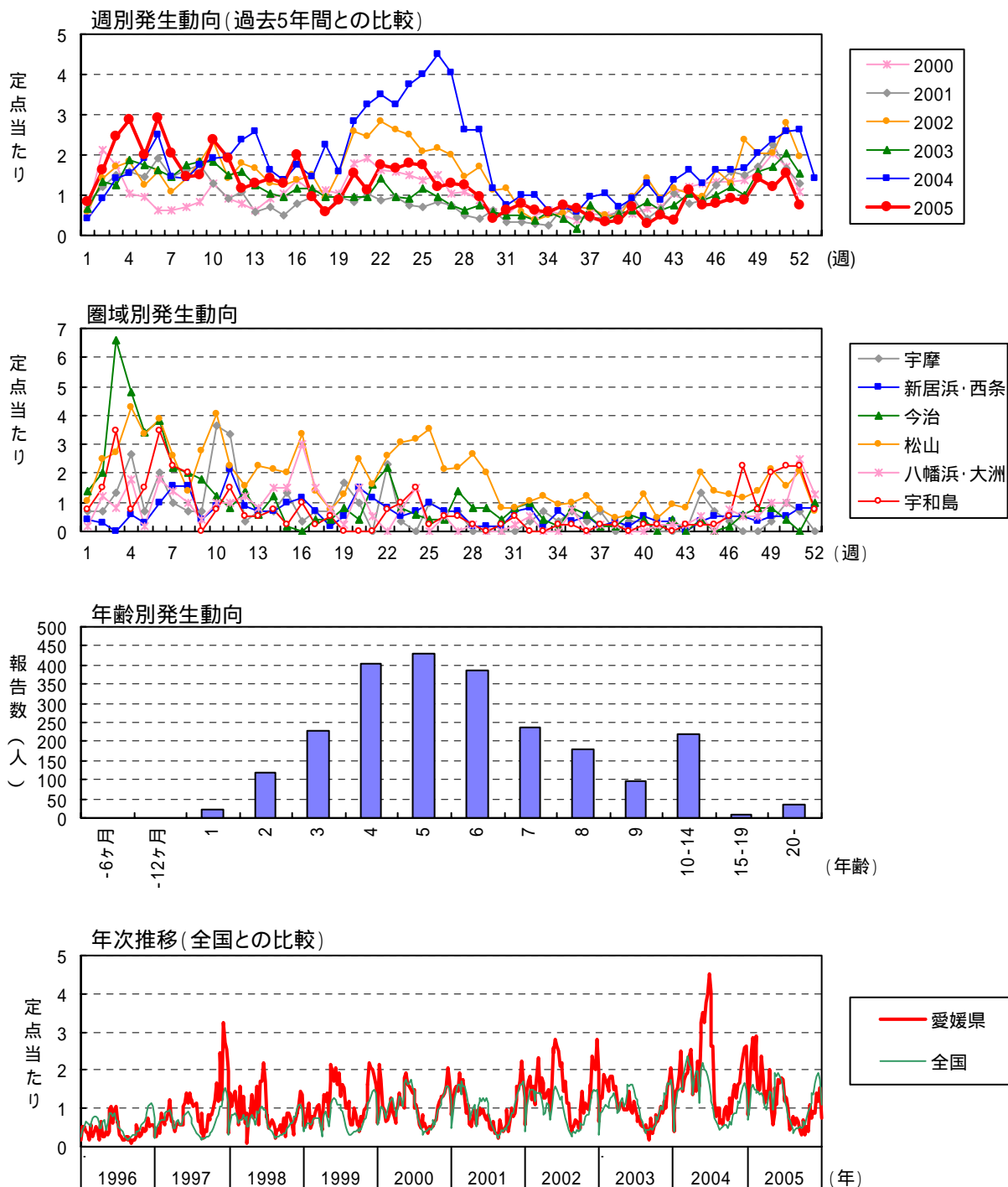
咽頭結膜熱

2005年の患者報告数は820人(定点当たり22.09人/年)で、過去10年間では2003年(946人 定点当たり24.26人/年)に次ぐ大きな流行規模であった。6月以降中予で増加し、第32週(8月上旬)に定点当たり3.40人/週(松山市3.55人/週 松山地区3.00人/週)と他地区と比べ突出して大きなピークを形成した。同時期に東予でも増加が始まり、県全体で定点当たり1.51人/週と流行のピークに達した。その後減少したが、10月下旬以降四国中央地区と西条地区で再び増加に転じ、第49週(12月上旬)に定点当たり0.95人/週と第2のピークを形成した。地域別では松山市(38.82人/年)、松山地区(27.75人/年)、四国中央地区(25.33人/年)が多く、南予(八幡浜地区2.40人/年 宇和島地区2.00人/年)では散發程度の発生にとどまった。年齢別では1歳から6歳の幼児が697人で、全体の85.0%を占めた。



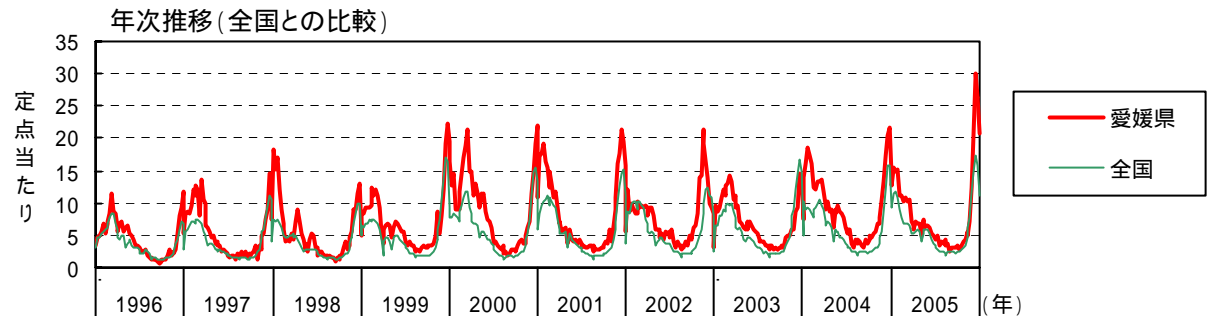
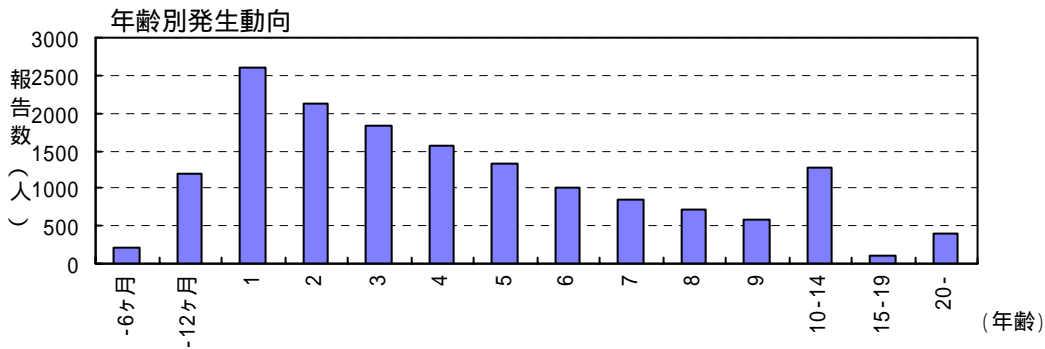
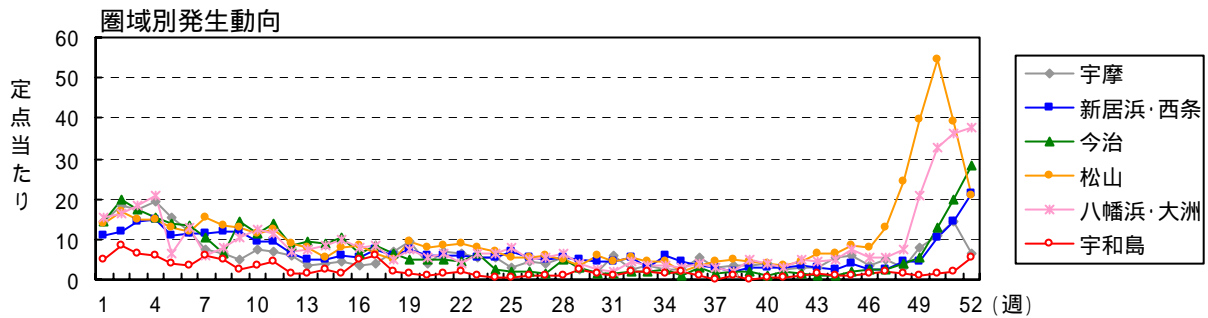
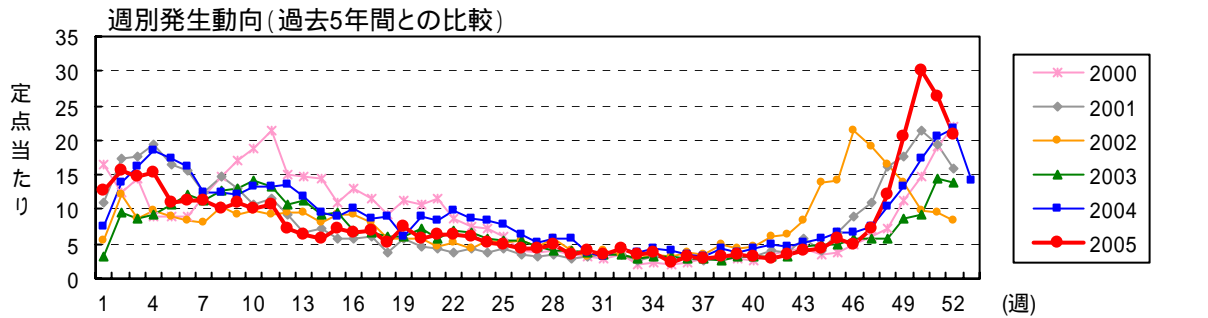
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2005年の患者報告数は2,365人(定点当たり62.60人/年)で、前年(3,838人 定点当たり98.41人/年)に比べ大幅に減少したが、過去10年間では平均的な流行規模であった。前年以降多発していた今治地区は第3週(1月中旬)に定点当たり6.60人/週、松山地区は第4週(1月下旬)に定点当たり12.00人/週とピークを迎えた後、減少に転じた。例年9月以降増加し始めるが、本年は緩やかな増加にとどまった。地域別では松山地区(定点当たり172.25人/年)が突出して多く、松山市(定点当たり69.45人/年)、今治地区(定点当たり54.60人/年)も多かった。年齢別では5歳が431人(18.2%)で最も多く、4~6歳が1,221人で全体の51.6%を占めた。



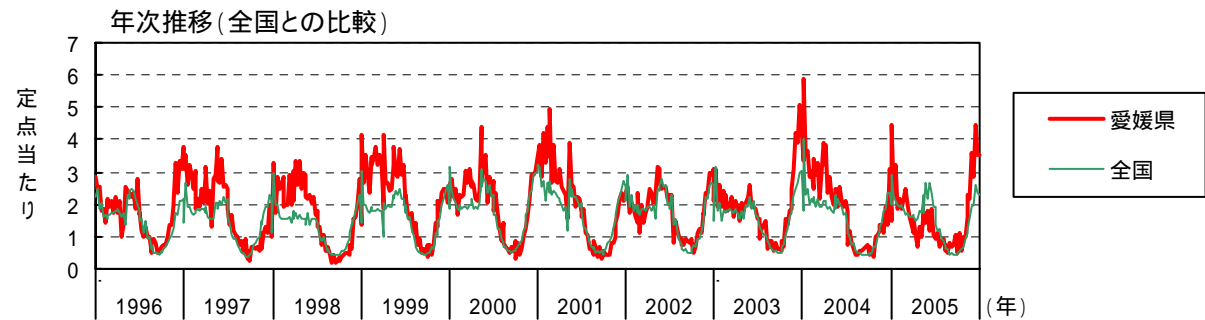
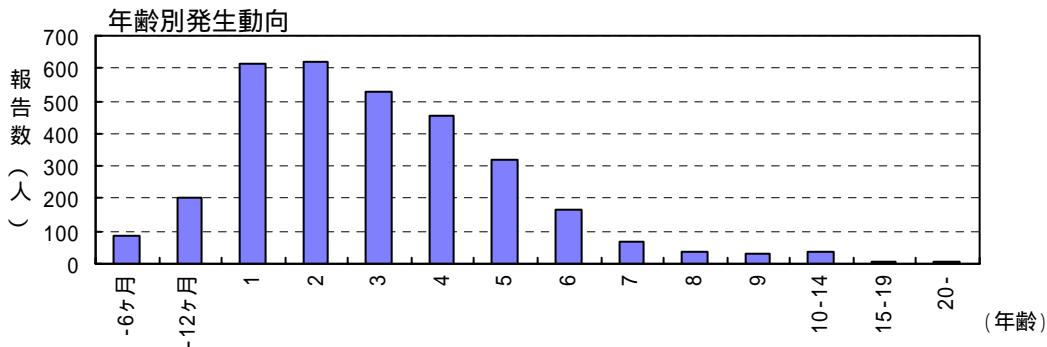
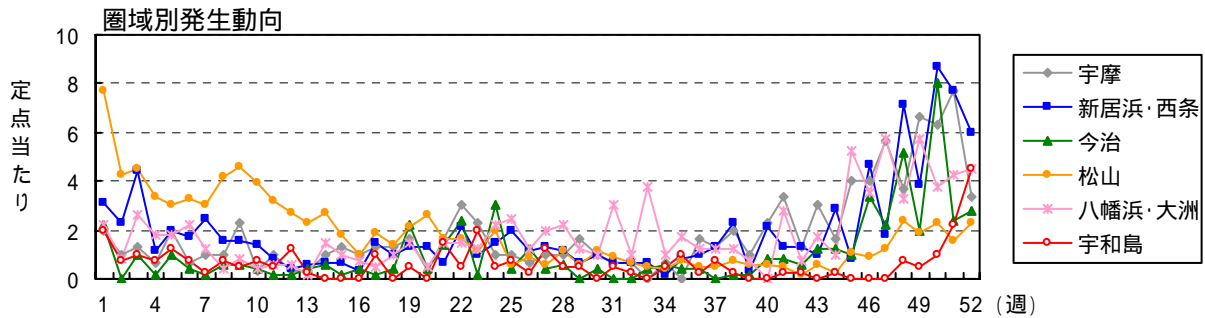
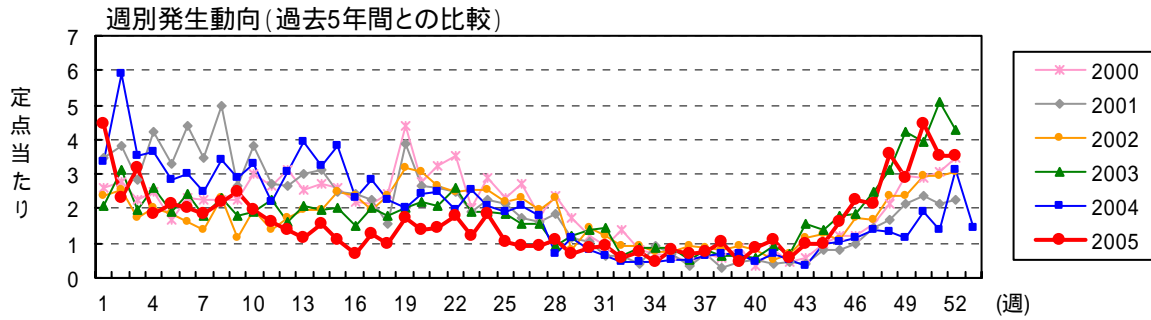
感染性胃腸炎

2005年の患者報告数は15,762人(定点当たり418.04人/年)で、前年(18,991人 定点当たり486.95人/年)に比べ減少したが、過去10年間では平均的な流行規模であった。本疾患は例年3～4月の緩やかなピークと冬季の急峻なピークが見られるが、本年は3～4月に顕著な増加が見られず、11月まで低位で推移した。その後中予で急激に増加し、第50週(12月上旬)に他地区を大きく上回るピーク(松山市57.09人/週 松山地区48.00人/週)を形成した。同時期に宇和島地区を除く県下全域で増加し、県全体で30.16人/週と過去10年間では最も大きな流行のピークとなった。地域別では松山地区(定点当たり566.75人/年)、松山市(定点当たり546.73人/年)で特に多かった。年齢別では乳幼児から成人まで全年齢層にわたって報告があり、1～6歳の幼児が10,452人で全体の66.3%を占めた。



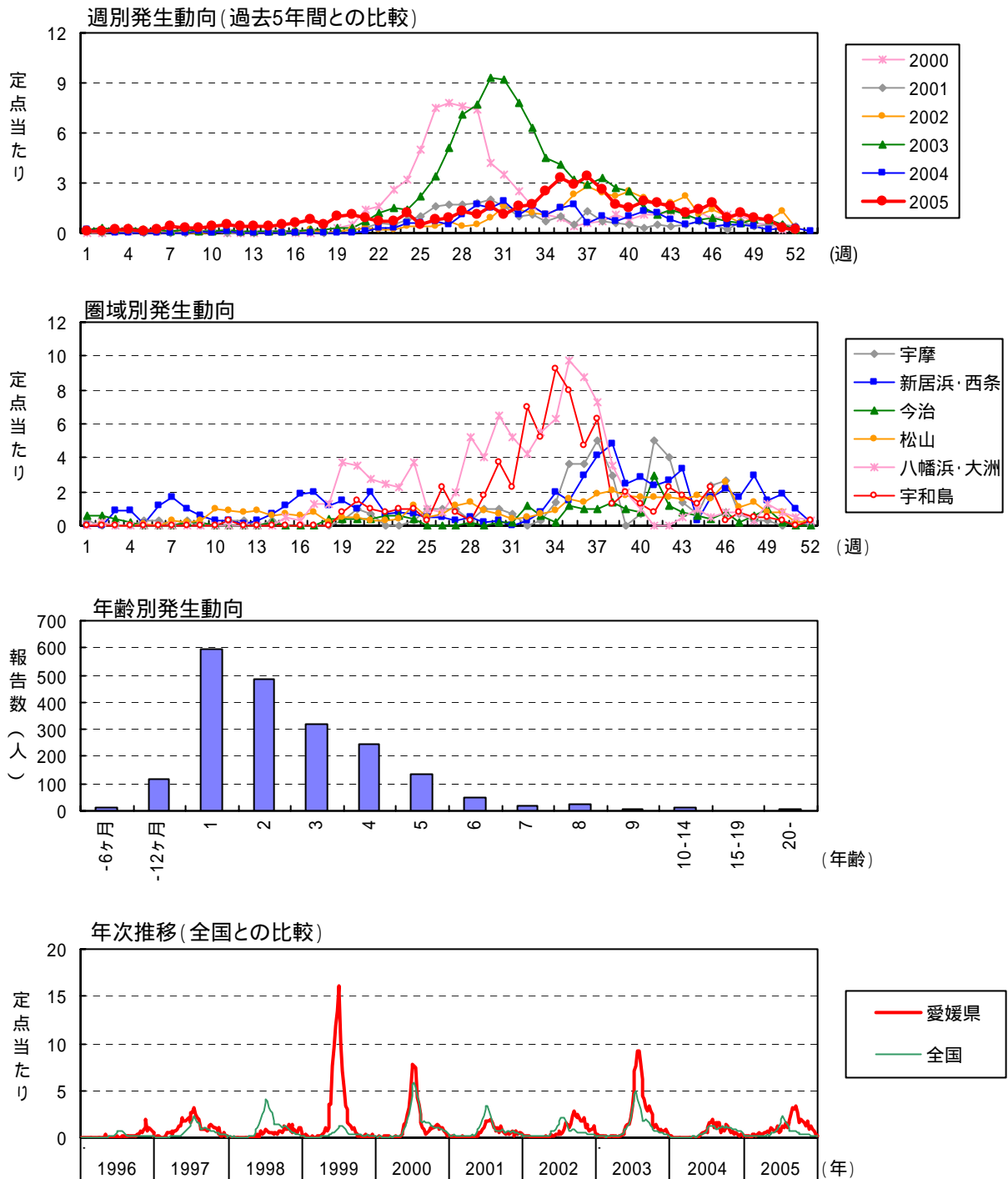
水痘

2005年の患者報告数は3,171人(定点当たり84.15人/年)で、前年(3,982人 定点当たり102.12人/年)に比べ大幅に減少し、過去10年間では最も小規模な流行となった。本疾患は例年、初夏(5~6月)に小さなピークを形成した後、9月に最低となり、冬季(12~1月)に再びピークを形成する流行形態をとるが、本年は初夏に顕著な増加が見られず、例年と比較し低位で推移した。11月以降、東予と八幡浜地区を中心に増加し、第50週(12月上旬)に定点当たり4.46人/週と流行のピークを迎えた。地域別では西条地区(定点当たり100.40人/年)、松山市(定点当たり99.45人/年)が多かった。年齢別では1~5歳の報告が2,535人と多く、全体の80.1%を占めた。



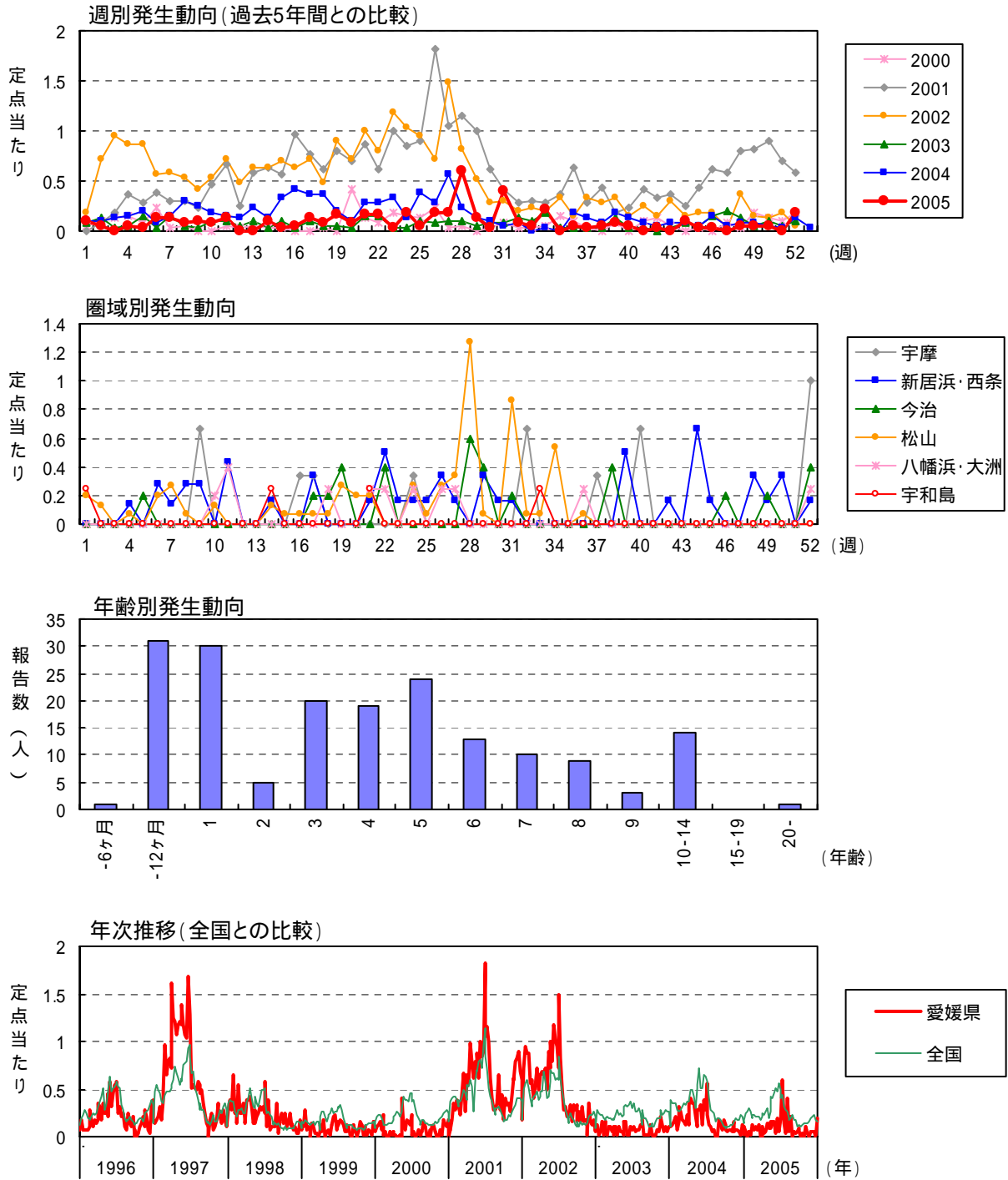
手足口病

2005年の患者報告数は2,028人(定点当たり54.62人/年)で、前年(1,063人 定点当たり27.26人/年)よりも増加したが、過去10年間では平均的な流行規模であった。例年よりも約2ヶ月早い3月から県下各地で散発し始めたが、顕著な増加は見られなかった。7月に入り南予で急激に増加し、宇和島地区が第34週(8月下旬)に定点当たり9.25人/週、八幡浜地区が第35週(8月下旬)に定点当たり9.75人/週と、他地区に比べ突出して大きな流行のピークを形成した。同時期に東中予でも増加が始まり、県全体では第37週(9月中旬)に定点当たり3.43人/週となり、全国平均(第28週 定点当たり2.30人/週)と比べ約2ヶ月遅れて流行のピークを迎えた。その後減少に転じたが、東中予での散発が続き、11月中旬までほぼ横ばいで推移した。地域別では八幡浜地区(定点当たり101.45人/年)が突出して多く、次いで宇和島地区(定点当たり73.25人/年)と、南予で大規模な流行となった。年齢別では1歳が596人(29.4%)と最も多く、5歳以下が1,903人で全体の93.8%を占めた。



伝染性紅斑

2005年の患者報告数は180人(定点当たり4.82人/年)で、前年(334人 定点当たり8.56人/年)よりも減少した。2003年以降は非流行期に入ったと考えられ、県下各地で散發程度の発生が続いている。地域別では松山市(定点当たり7.64人/年)、西条地区(定点当たり6.90人/年)が多かった。年齢別では0歳から9歳を中心に幅広く分布しているが、例年に比べると年少児の割合が多く、0歳が32人(17.8%)、1~4歳が74人(41.1%)、5~9歳が59人(32.8%)であった。本疾患は過去1992年、1997年および2001~2002年と、4~5年おきに流行期を迎えている。



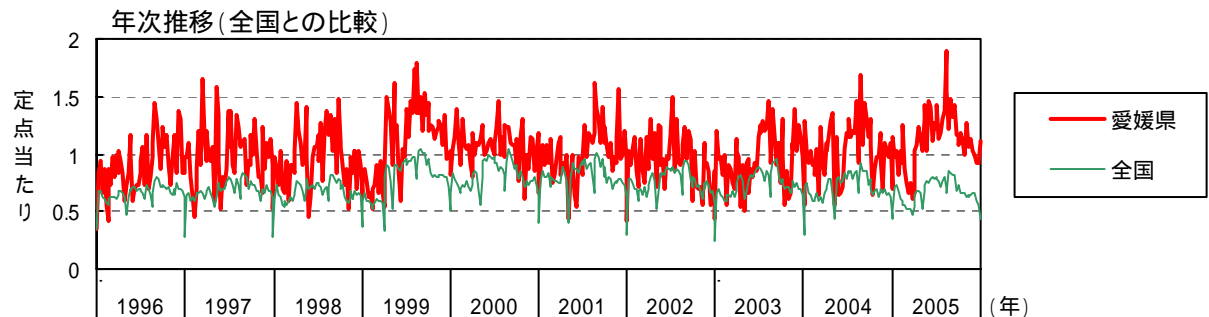
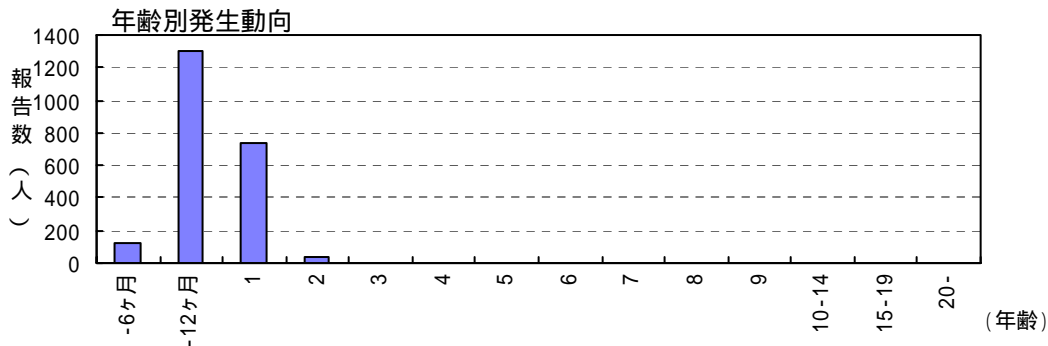
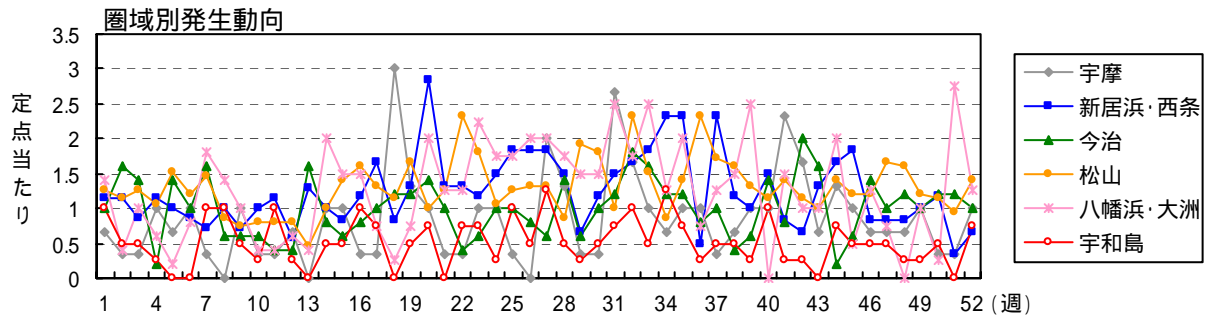
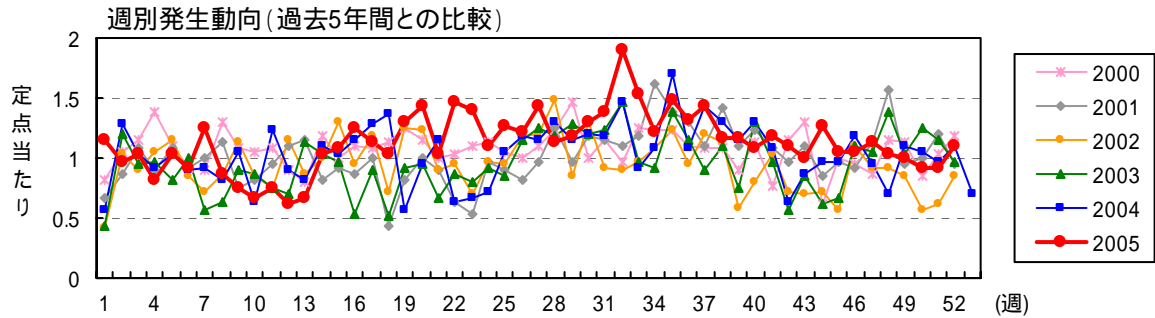
伝染性紅斑

月	週	患者報告数															定点あたり報告数														
		2005年 保健所別								愛媛県			全国				2005年 保健所別								愛媛県			全国			
		四国中央	西条	今治	松山市	松山	八幡浜	宇和島		2005	2004	2003	2005	2004	2003	四国中央	西条	今治	松山市	松山	八幡浜	宇和島		2005	2004	2003	2005	2004	2003		
1	1				1	2		1	4	4	3	560	299	271				0.09	0.50		0.25	0.10	0.10	0.08	0.18	0.10	0.09				
	2				2				2	4	5	763	1,148	850				0.18				0.05	0.10	0.13	0.25	0.38	0.28				
	3									5	1	822	1,067	756									0.13	0.03	0.27	0.35	0.25				
	4		1		1				2	6	2	908	1,091	710		0.14		0.09				0.05	0.15	0.05	0.30	0.36	0.23				
	5			1					1	8	6	779	1,052	696			0.20					0.03	0.21	0.15	0.26	0.35	0.23				
2	6		2		2	1			5	3	1	609	862	602		0.29		0.18	0.25			0.13	0.08	0.03	0.20	0.28	0.20				
	7		1		4				5	6	6	670	786	519		0.14		0.36				0.13	0.15	0.15	0.22	0.26	0.17				
	8		2		1				3	12	2	699	782	572		0.29		0.09				0.08	0.31	0.05	0.23	0.26	0.19				
	9	2	2						4	10	1	629	871	620	0.67	0.29						0.10	0.26	0.03	0.21	0.29	0.20				
3	10				2		1		3	7	4	628	939	573				0.18		0.20		0.08	0.18	0.10	0.21	0.31	0.19				
	11		3				2		5	6	4	637	1,050	583		0.43				0.40		0.13	0.15	0.10	0.21	0.35	0.19				
	12									5	2	539	999	522									0.13	0.05	0.18	0.33	0.17				
	13									9	4	645	1,103	603									0.23	0.10	0.21	0.36	0.20				
4	14		1		2		1		4	5	1	754	1,125	558		0.17		0.18			0.25	0.11	0.13	0.03	0.25	0.37	0.18				
	15				1				1	13	4	685	1,171	699				0.09				0.03	0.33	0.10	0.22	0.38	0.23				
	16	1			1				2	16	1	816	1,487	855	0.33			0.09				0.05	0.41	0.03	0.27	0.49	0.28				
	17	1	2	1	1				5	14	4	883	1,477	714	0.33	0.33	0.20	0.09				0.14	0.36	0.10	0.29	0.49	0.23				
	18			1	1		1		3	14	2	586	1,258	728			0.20	0.09		0.25		0.08	0.36	0.05	0.19	0.41	0.24				
5	19			2	1	3			6	8	2	799	909	648			0.40	0.09	0.75			0.16	0.21	0.05	0.26	0.30	0.21				
	20				3				3	4	1	1,275	1,572	672				0.27				0.08	0.10	0.03	0.42	0.52	0.22				
	21		1		3		1	1	6	11	6	1,227	1,671	960		0.17		0.27		0.25	0.25	0.16	0.28	0.15	0.40	0.55	0.31				
	22		3	2			1		6	11	6	1,372	2,212	1,032		0.50	0.40			0.25		0.16	0.28	0.15	0.45	0.73	0.34				
6	23		1						1	13	1	1,540	1,558	964			0.17					0.03	0.33	0.03	0.51	0.51	0.32				
	24	1			4		1		7	5	1	1,445	1,572	1,006	0.33		0.17		0.36		0.25	0.19	0.13	0.03	0.47	0.52	0.33				
	25		1		1				2	15	4	1,685	1,981	1,117			0.17		0.09			0.05	0.38	0.10	0.55	0.65	0.37				
	26		2		4		1		7	11	3	1,485	1,910	931			0.33	0.36		0.25		0.19	0.28	0.08	0.49	0.63	0.31				
7	27		1		5		1		7	22	4	1,217	1,757	1,081		0.17		0.45		0.25		0.19	0.56	0.10	0.40	0.58	0.35				
	28			3	19				22	9	4	1,338	1,746	1,052				1.73				0.59	0.23	0.10	0.44	0.57	0.35				
	29		2	2	1				5	5	2	980	1,240	818			0.40	0.09				0.14	0.13	0.05	0.32	0.41	0.27				
	30		1						1	4	3	871	881	776		0.17						0.03	0.10	0.08	0.29	0.29	0.25				
	31		1	1	13				15	2	3	827	801	892		0.17	0.20	1.18				0.41	0.05	0.08	0.27	0.26	0.29				
8	32	2			1				3	3	5	556	742	734	0.67			0.09			0.25	0.08	0.08	0.13	0.18	0.24	0.24				
	33				1		1		2		4	508	465	380				0.09				0.05	0.10	0.10	0.17	0.15	0.13				
	34				8				8	1	7	598	461	842				0.73				0.22	0.03	0.18	0.20	0.15	0.28				
	35								1		1	696	591	608									0.03	0.23	0.19	0.20	0.20				
9	36		1		1		1		2	7	1	539	577	613		0.33		0.09		0.25		0.05	0.18	0.03	0.18	0.19	0.20				
	37								1	5	1	513	539	490								0.03	0.13	0.03	0.17	0.18	0.16				
	38			2					2	3	1	339	446	329			0.40					0.05	0.08	0.03	0.11	0.15	0.11				
	39		3						3	7	5	391	301	302		0.50						0.08	0.18	0.13	0.13	0.10	0.10				
	40	2							2	5	1	384	310	402	0.67							0.05	0.13	0.03	0.13	0.10	0.13				
10	41									3	1	325	278	343									0.08	0.03	0.11	0.09	0.11				
	42		1						1	2		386	312	339		0.17						0.03	0.05		0.13	0.10	0.11				
	43									3	1	414	340	476									0.08	0.03	0.13	0.11	0.16				
	44		4						4	3	3	448	364	594		0.67						0.11	0.08	0.08	0.15	0.12	0.20				
11	45		1						1	2	2	447	395	563		0.17						0.03	0.05	0.05	0.15	0.13	0.18				
	46			1					1	6	6	436	475	615			0.20					0.03	0.15	0.15	0.14	0.16	0.20				
	47								2	2	8	508	487	838									0.05	0.21	0.17	0.16	0.28				
	48		2						2	3	5	594	578	673		0.33						0.05	0.08	0.13	0.19	0.19	0.22				
12	49		1	1					2	3	2	651	533	766			0.20					0.05	0.08	0.05	0.21	0.18	0.25				
	50		2						2	2	4	708	558	869		0.33						0.05	0.05	0.10	0.23	0.18	0.29				
	51								1	2	2	553	703	823									0.03	0.05	0.18	0.23	0.27				
	52	3	1	2			1		7	5	4	461	656	823	1.00	0.17	0.40		0.25			0.19	0.13	0.10	0.15	0.22	0.27				
	53									1		436											0.03			0.14					
合計		13	43	19	84	6	11	4	180	334	157	39,128	48,924	35,802	4.33	6.90	3.80	7.64	1.50	2.60	1.00	4.82	8.56	4.03	12.84	16.09	11.77				

注1)2004年、2005年の全国患者報告数及び定点あたり報告数は、各週の還元データを転記したものであり、確定値とは異なる。
 注2)2005年第13週までの新居浜保健所のデータは西条保健所へ、大洲保健所のデータは八幡浜保健所へそれぞれ含め集計した。

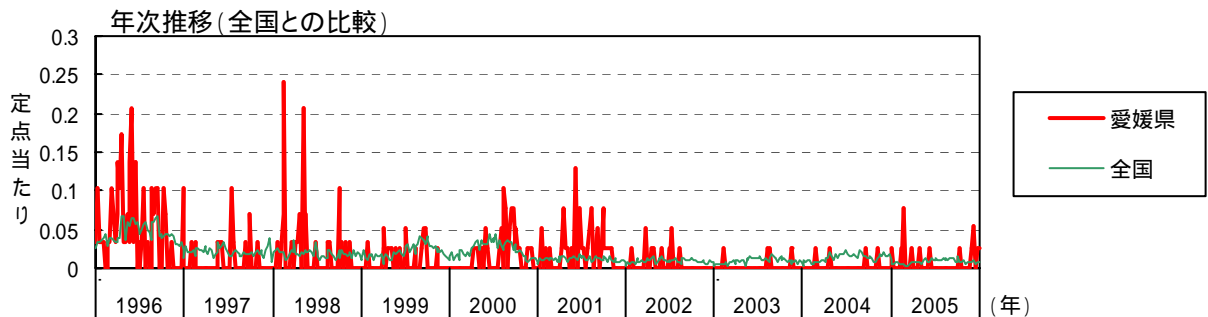
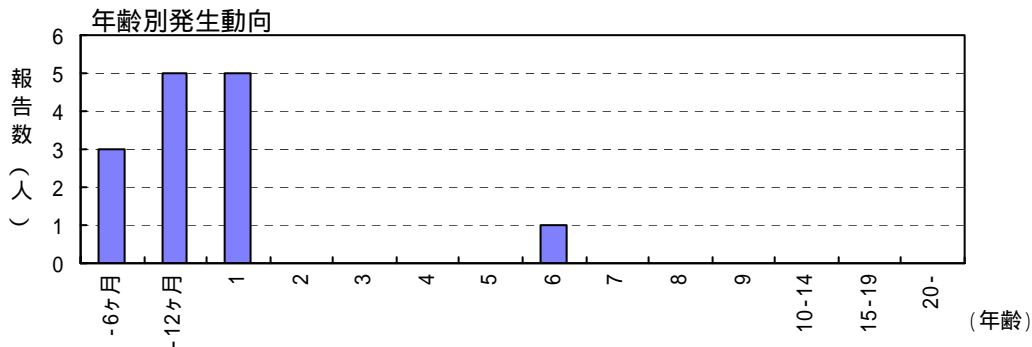
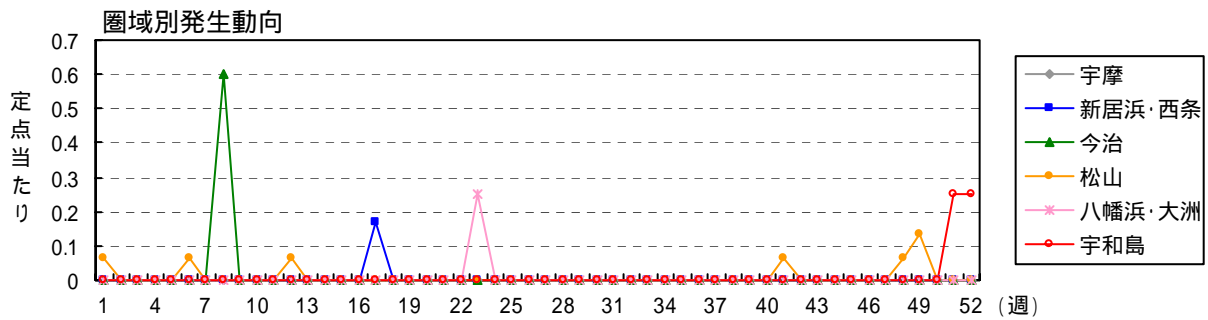
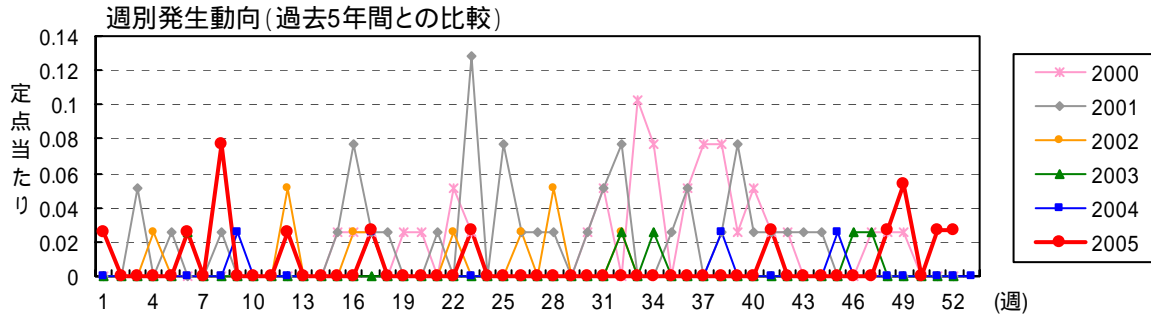
突発性発しん

2005年の患者報告数は2,196人(定点当たり58.73人/年)で、前年(2,132人 定点当たり54.67人/年)に比べ増加し、過去10年間では最も多かった。年間を通じほぼ一定の報告があり、例年に比べ夏季の報告が多かった。地域別では松山市(定点当たり70.64人/年)が他地区に比べ多く、宇和島地区(定点当たり27.25人/年)は少なかった。年齢別では2歳以下2,190人で全体の99.7%を占めた。



百日咳

2005年の患者報告数は14人(定点当たり0.37人/年)で、2003年5人、2004年4人と比べると増加したが、依然患者報告数の極めて少ない状況で推移している。地域別では松山市7人、今治地区3人、宇和島地区2人、西条地区と八幡浜地区が各1人で、年齢別では0歳8人、1歳5人、6歳1人であった。本疾患は1995年以降、県内において流行的な発生は確認されていない。



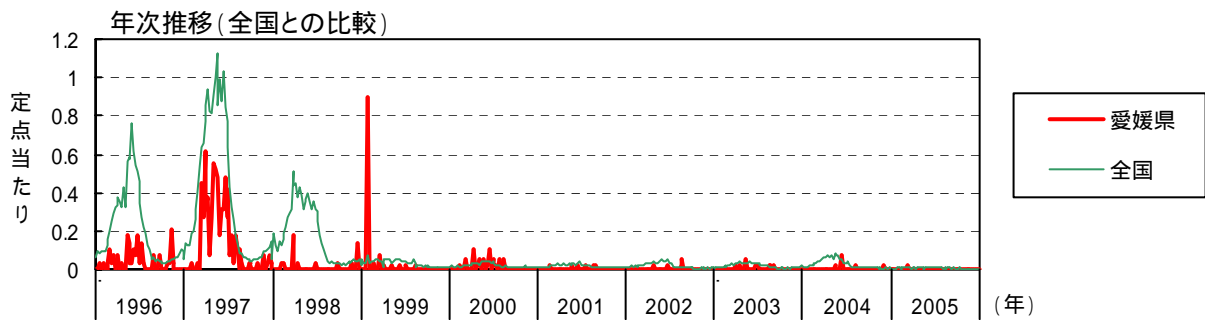
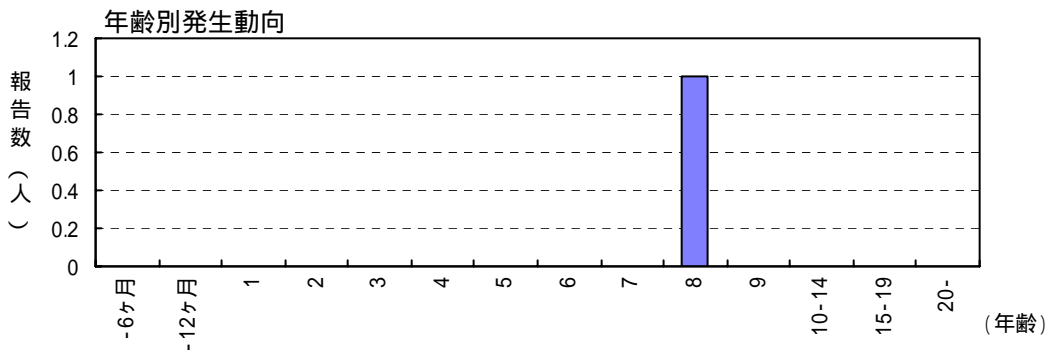
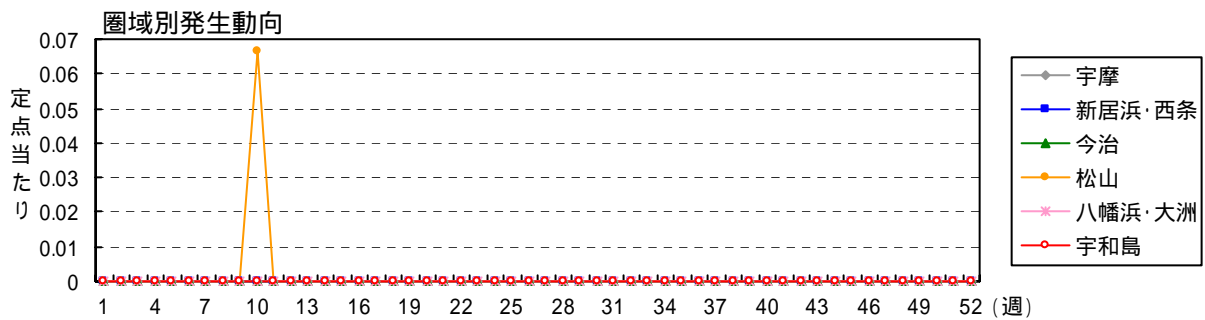
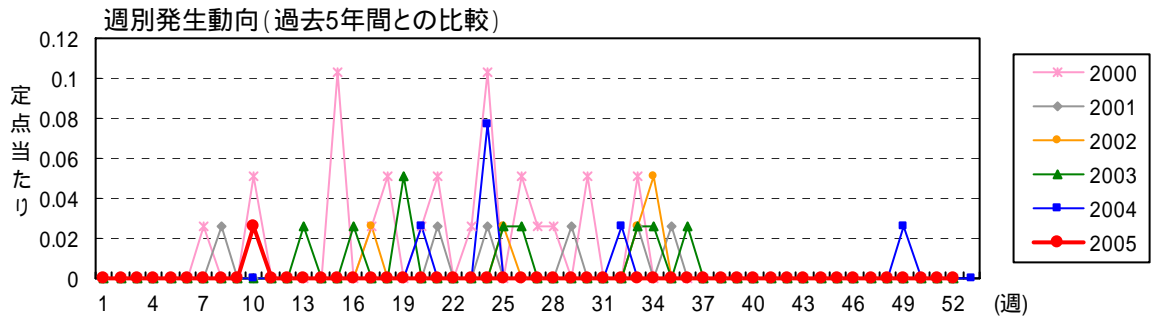
百日咳

月	週	患者報告数													定点あたり報告数														
		2005年 保健所別								愛媛県			全国			2005年 保健所別								愛媛県			全国		
		四国中央	西条	今治	松山市	松山	八幡浜	宇和島		2005	2004	2003	2005	2004	2003	四国中央	西条	今治	松山市	松山	八幡浜	宇和島		2005	2004	2003	2005	2004	2003
1	1				1				1			19	7	6				0.09					0.03			0.01	0.00	0.00	
1	2											19	29	19											0.01	0.01	0.01		
1	3											27	21	15											0.01	0.01	0.00		
1	4											24	32	16											0.01	0.01	0.01		
1	5											18	29	13											0.01	0.01	0.00		
2	6				1				1		1	12	18	18				0.09					0.03		0.03	0.00	0.01	0.01	
2	7											12	19	16											0.00	0.01	0.01		
2	8								3			16	25	27									0.08		0.01	0.01	0.01		
2	9									1		9	26	10										0.03		0.00	0.01	0.00	
3	10											10	26	24											0.00	0.01	0.01		
3	11											13	26	27											0.00	0.01	0.01		
3	12				1				1			27	31	28				0.09					0.03		0.01	0.01	0.01		
3	13											24	28	18											0.01	0.01	0.01		
4	14											20	26	32											0.01	0.01	0.01		
4	15											25	40	29											0.01	0.01	0.01		
4	16											24	39	23											0.01	0.01	0.01		
4	17		1						1	1		23	61	28				0.17					0.03	0.03	0.01	0.02	0.01		
4	18											18	46	30											0.01	0.02	0.01		
5	19											33	33	11											0.01	0.01	0.00		
5	20											30	55	41											0.01	0.02	0.01		
5	21											42	55	32											0.01	0.02	0.01		
5	22											23	41	50											0.01	0.01	0.02		
6	23								1			26	54	38						0.25			0.03		0.01	0.02	0.01		
6	24											38	52	43											0.01	0.02	0.01		
6	25											30	52	38											0.01	0.02	0.01		
6	26											29	69	36											0.01	0.02	0.01		
7	27											42	53	37											0.01	0.02	0.01		
7	28											28	55	47											0.01	0.02	0.02		
7	29											32	49	29											0.01	0.02	0.01		
7	30											29	45	35											0.01	0.01	0.01		
7	31											36	52	42											0.01	0.02	0.01		
8	32											33	46	34											0.03	0.01	0.02	0.01	
8	33											37	36	20											0.01	0.01	0.01		
8	34											34	42	39											0.01	0.01	0.01		
8	35											42	73	55											0.01	0.02	0.02		
9	36											41	63	46											0.01	0.02	0.02		
9	37											36	46	39											0.01	0.02	0.01		
9	38									1		25	44	34									0.03		0.01	0.01	0.01		
9	39											27	41	43											0.01	0.01	0.01		
9	40											45	43	49											0.01	0.01	0.02		
10	41				1				1			24	48	34				0.09					0.03		0.01	0.02	0.01		
10	42											27	39	39											0.01	0.01	0.01		
10	43											34	26	28											0.01	0.01	0.01		
10	44											17	26	22											0.01	0.01	0.01		
11	45									1		27	39	28										0.03	0.01	0.01	0.01		
11	46											27	47	19											0.01	0.02	0.01		
11	47											23	53	30										0.03	0.01	0.02	0.01		
11	48				1				1			22	51	23				0.09					0.03		0.01	0.02	0.01		
12	49				2				2			29	61	30				0.18					0.05		0.01	0.02	0.01		
12	50											19	47	19											0.01	0.02	0.01		
12	51								1	1		22	49	32									0.03		0.01	0.02	0.01		
12	52								1	1		23	56	23									0.03		0.01	0.02	0.01		
12	53											35													0.01	0.02	0.01		
合計			1	3	7		1	2	14	4	5	1,372	2,205	1,544			0.17	0.60	0.64		0.25	0.50	0.37	0.10	0.13	0.45	0.73	0.51	

注1) 2004年、2005年の全国患者報告数及び定点あたり報告数は、各週の還元データを転記したものであり、確定値とは異なる。
 注2) 2005年第13週までの新居浜保健所のデータは西条保健所へ、大洲保健所のデータは八幡浜保健所へそれぞれ含め集計した。

風しん

2005年の患者報告数は1人(定点当たり0.03人/年)で、過去10年間では最も患者報告数の少ない年であった。県内では1995年(定点当たり41.7人/年)の大流行以降、患者報告数が減少しており、2002年5人、2003年9人、2004年6人と極めて少ない状況が続いている。

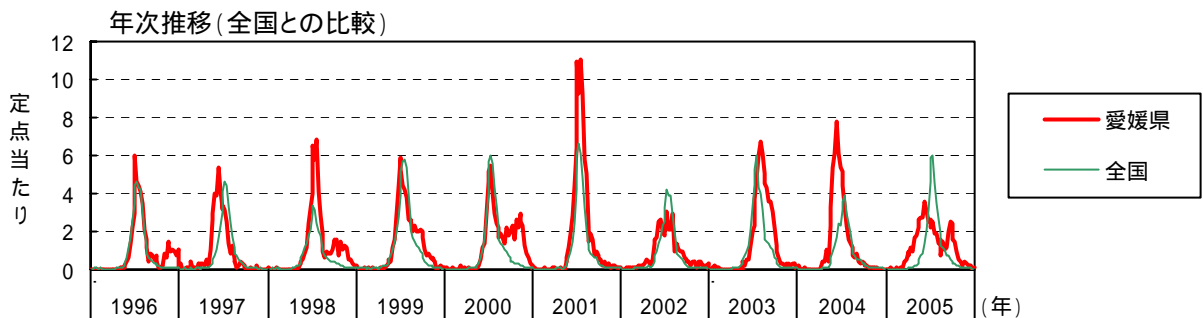
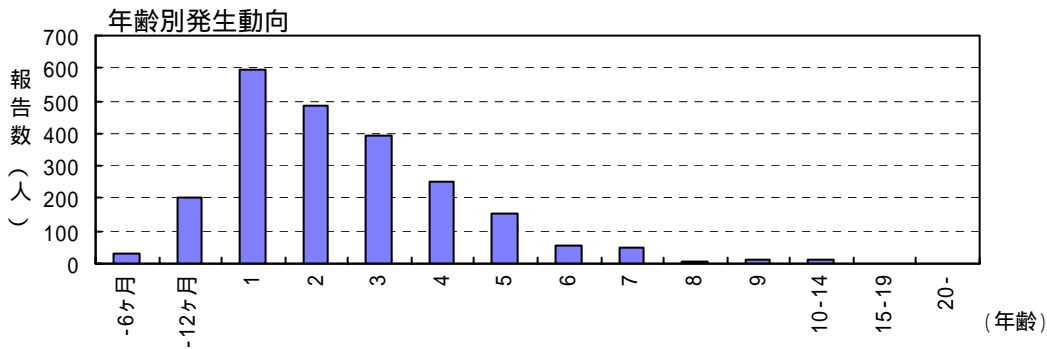
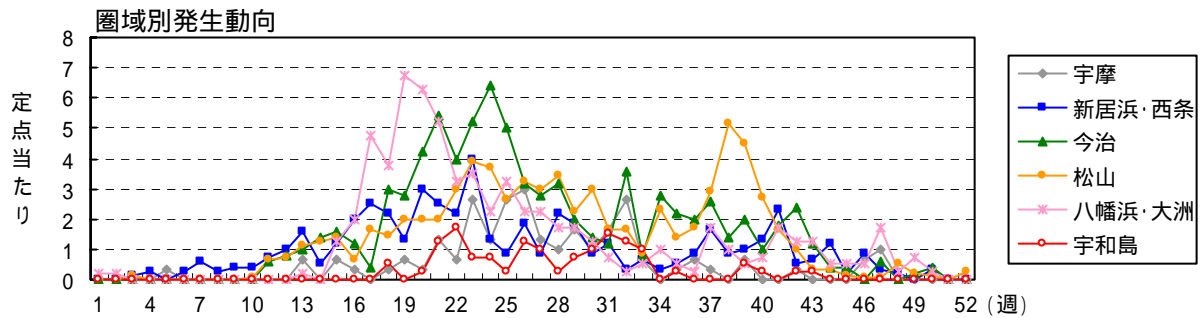
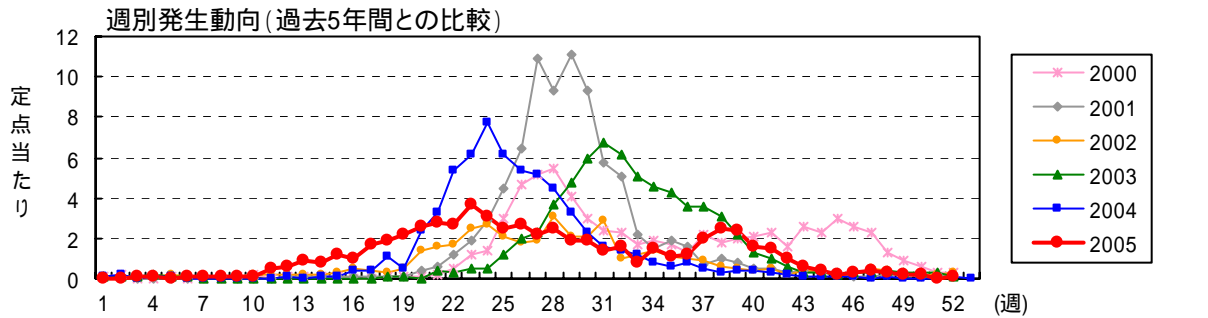


月	週	患者報告数											定点あたり報告数															
		2005年 保健所別							愛媛県			全国			2005年 保健所別							愛媛県			全国			
		四国中央	西条	今治	松山市	松山	八幡浜	宇和島	2005	2004	2003	2005	2004	2003	四国中央	西条	今治	松山市	松山	八幡浜	宇和島	2005	2004	2003	2005	2004	2003	
1	1										14	25	11											0.00	0.01	0.00		
1	2										10	33	28											0.00	0.01	0.01		
1	3										11	27	22											0.00	0.01	0.01		
1	4										17	32	36											0.01	0.01	0.01		
1	5										16	59	45											0.01	0.02	0.01		
2	6										14	65	23											0.00	0.02	0.01		
2	7										23	65	57											0.01	0.02	0.02		
2	8										20	110	37											0.01	0.04	0.01		
2	9										16	93	50											0.01	0.03	0.02		
3	10				1				1		33	116	52				0.09					0.03			0.01	0.04	0.02	
3	11										17	117	88											0.01	0.04	0.03		
3	12										12	150	63											0.00	0.05	0.02		
3	13									1	18	194	93										0.03	0.01	0.06	0.03		
4	14										18	183	108											0.01	0.06	0.04		
4	15										14	189	88											0.00	0.06	0.03		
4	16									1	26	232	131										0.03	0.01	0.08	0.04		
4	17										21	203	111											0.01	0.07	0.04		
4	18										17	218	97											0.01	0.07	0.03		
5	19										21	156	111											0.01	0.05	0.04		
5	20								1		14	243	107									0.03		0.05	0.00	0.08	0.04	
5	21										18	220	97											0.01	0.07	0.03		
5	22										25	217	118											0.01	0.07	0.04		
6	23										31	147	87											0.01	0.05	0.03		
6	24								3		32	148	90											0.01	0.05	0.03		
6	25									1	31	98	96											0.01	0.03	0.03		
6	26									1	22	105	106											0.01	0.03	0.03		
7	27										24	88	86											0.01	0.03	0.03		
7	28										37	111	67											0.01	0.04	0.02		
7	29										22	62	63											0.01	0.02	0.02		
7	30										23	36	62											0.01	0.01	0.02		
7	31										13	30	49											0.00	0.01	0.02		
8	32								1		23	31	33											0.03	0.01	0.01	0.01	
8	33										13	21	25											0.00	0.01	0.01	0.01	
8	34										21	33	25											0.01	0.01	0.01	0.01	
8	35										16	29	24											0.01	0.01	0.01	0.01	
9	36										13	21	24											0.03	0.00	0.01	0.01	
9	37										22	24	26											0.01	0.01	0.01	0.01	
9	38										13	36	15											0.00	0.01	0.00	0.00	
9	39										13	26	14											0.00	0.01	0.00	0.00	
9	40										12	31	23											0.00	0.01	0.01	0.01	
10	41										18	25	17											0.01	0.01	0.01	0.01	
10	42										10	18	7											0.00	0.01	0.00	0.00	
10	43										8	22	13											0.00	0.01	0.00	0.00	
10	44										9	21	29											0.00	0.01	0.01	0.01	
11	45										13	21	11											0.00	0.01	0.00	0.00	
11	46										7	14	22											0.00	0.00	0.01	0.01	
11	47										10	16	30											0.00	0.01	0.01	0.01	
11	48										8	12	20											0.00	0.00	0.01	0.01	
12	49									1	8	14	26											0.03	0.00	0.00	0.01	
12	50										9	17	42											0.00	0.01	0.01	0.01	
12	51										12	12	38											0.00	0.00	0.01	0.01	
12	52										10	22	52											0.00	0.01	0.02	0.02	
12	53										10	22	52											0.00	0.01	0.02	0.02	
合計					1					1	6	9	898	4,248	2,795				0.09				0.03	0.15	0.23	0.29	1.40	0.92

注1) 2004年、2005年の全国患者報告数及び定点あたり報告数は、各週の還元データを転記したものであり、確定値とは異なる。
 注2) 2005年第13週までの新居浜保健所のデータは西条保健所へ、大洲保健所のデータは八幡浜保健所へそれぞれ含め集計した。

ヘルパンギーナ

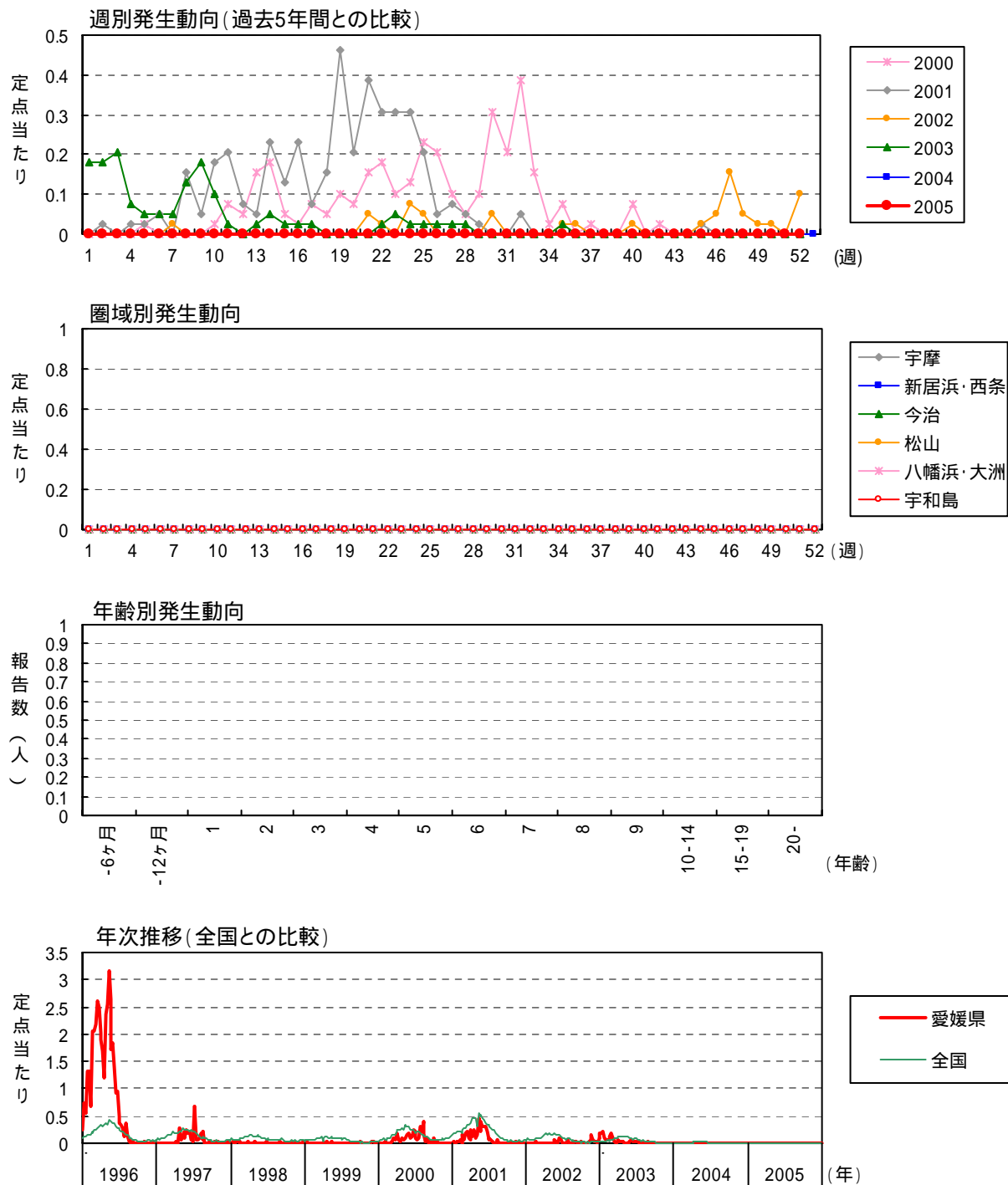
2005年の患者報告数は2,248人(定点当たり60.62人/年)で、前年(2,477人 定点当たり63.51人/年)に比べ減少し、1999年以降では2002年に次いで小規模な流行であった。本年の流行開始時期は例年に比べ2ヶ月程度早く、全国的に見ても本県に特徴的な動向であった。3月中旬から県下各地で散発し、4月には西条～八幡浜地区、5月には四国中央地区と宇和島地区でそれぞれ増加したが、例年に比べると緩やかな増加で、県全体では第23週(6月上旬)に定点当たり3.62人/週と流行のピークを迎えた。その後一旦減少したが、9月以降中予を中心に再び増加に転じ、第38週(9月下旬)に県全体で定点当たり2.51人/週と第2のピークを形成した。地域別では今治地区(定点当たり82.60人/年)、松山市(定点当たり74.00人/年)、松山地区(定点当たり71.00人/年)が多かった。年齢別では1歳が597人(26.6%)と最も多く、1～4歳が1,729人で全体の76.9%を占めた。



麻しん（成人麻しんを除く）

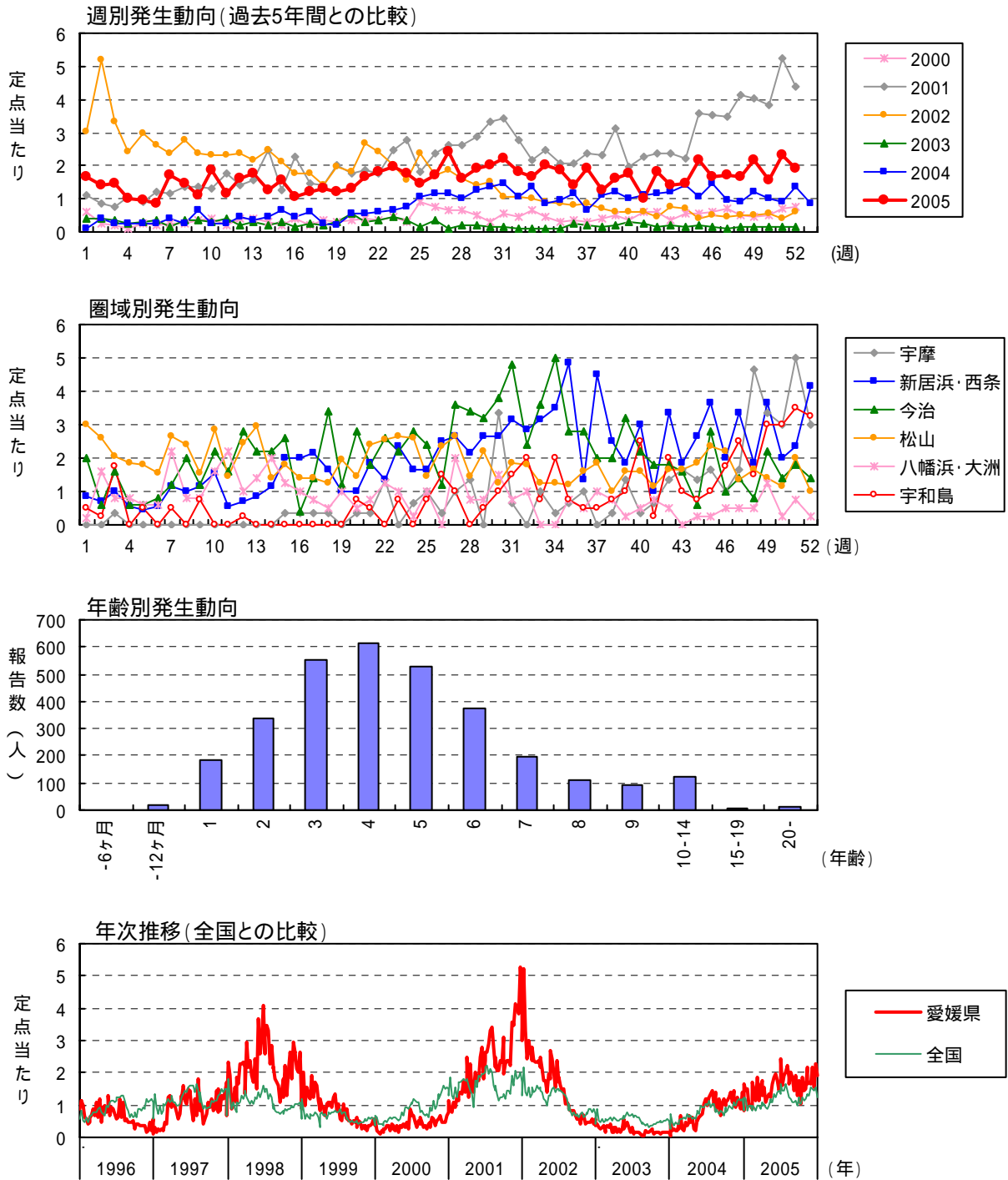
2005年の患者報告はなかった。本疾患は1996年に県下全域で流行して以来、局地的な小流行に留まっており患者報告の少ない状況が続いていた。2002年10月～2003年7月に麻しん・成人麻しんの流行が発生したが、2003年第35週以降新たな患者報告はない。

全国的に見ても、この10年間春季を中心とする流行を繰り返してきたが、2004年以降は全国単位で流行と呼べる程の患者報告数の増加は見られなかった。



流行性耳下腺炎

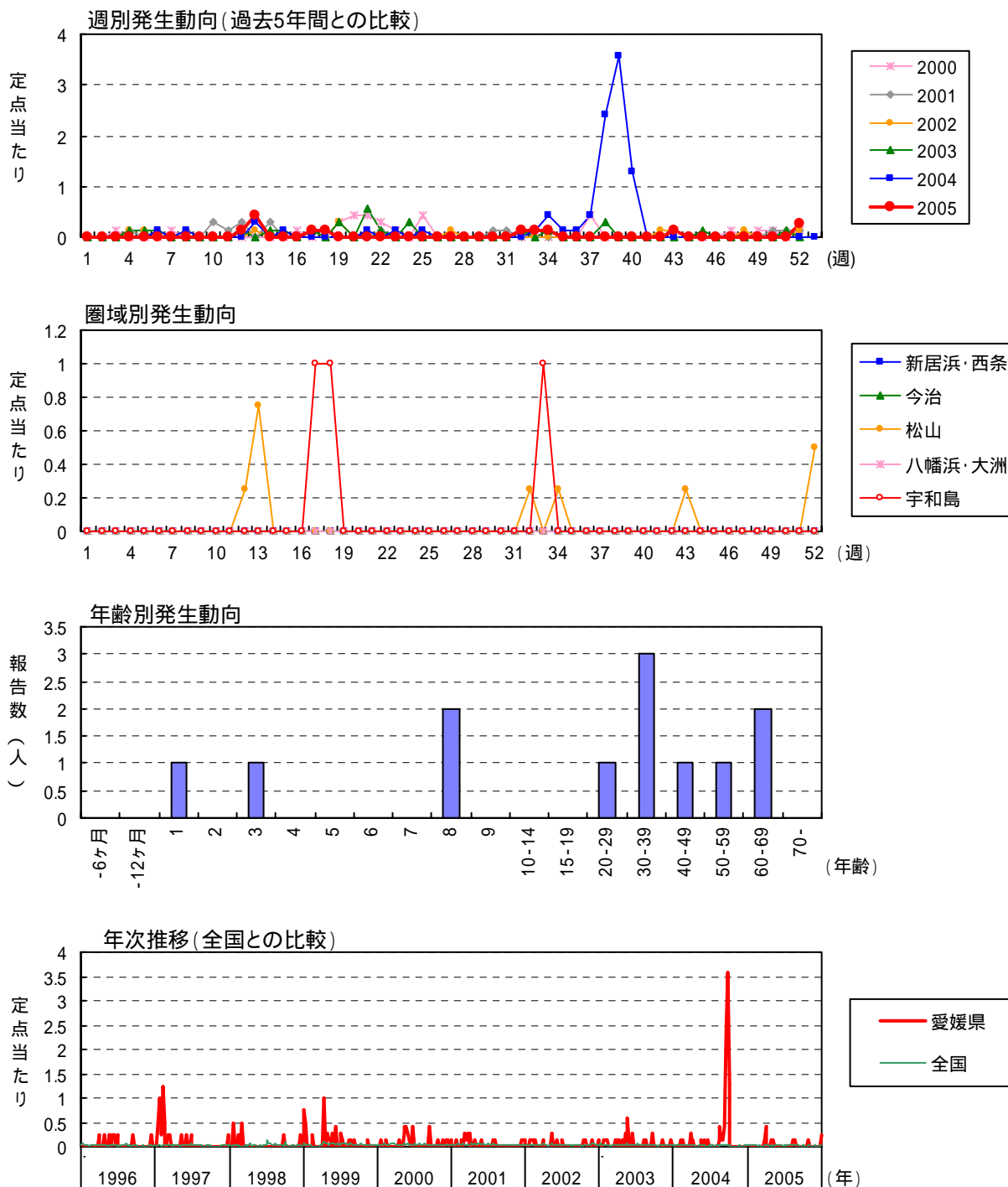
2005年の患者報告数は3,143人(定点当たり83.97人/年)で、前年(1,656人 定点当たり42.46人/年)に比べ大幅に増加した。前年から中予で増加傾向が見られたが、年始以降西条地区と今治地区で、6月に入り宇和島地区と四国中央地区でも増加し始めた。地域別では今治地区(定点当たり109.80人/年)、松山市(定点当たり106.18人/年)、西条地区(定点当たり106.14人/年)が多かった。年齢別では乳幼児から成人の幅広い年齢層にわたっているが、特に4歳児が612人(19.5%)と多く、1~6歳の幼児が2,586人で全体の82.3%を占めた。過去の推移を見ると、本疾患は3~4年周期で流行しており、本年は流行期であったと考えられる。



(4)眼科定点対象疾患(週報)

急性出血性結膜炎

2005年の患者報告数は12人(定点当たり1.57人/年)で、地域流行が発生した前年(68人 定点当たり9.71人/年)に比べ大幅に減少し、過去10年間では最も小さな発生規模であった。地域別では、宇和島地区が定点当たり3.00人/年、松山市が定点当たり2.67人/年、松山地区が定点当たり1.00人/年と、いずれの地区も散發程度の発生にとどまった。年齢別では9歳以下が4人、20歳以上が8人と成人の割合が多く、前年増加した10歳代の患者報告はなかった。



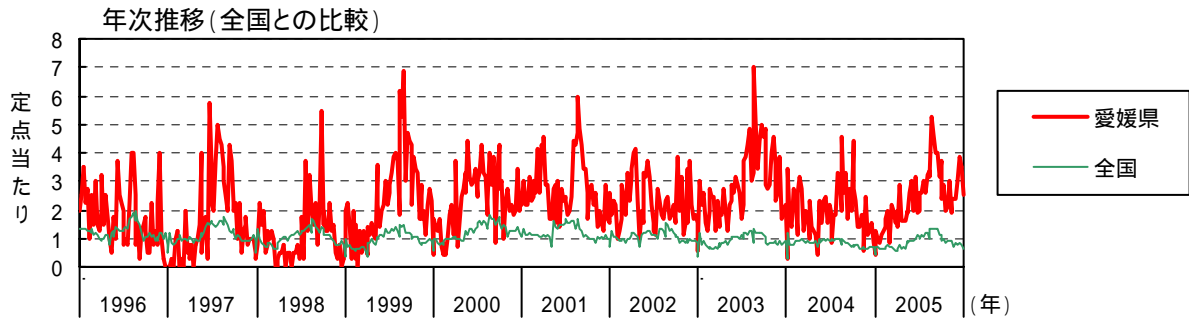
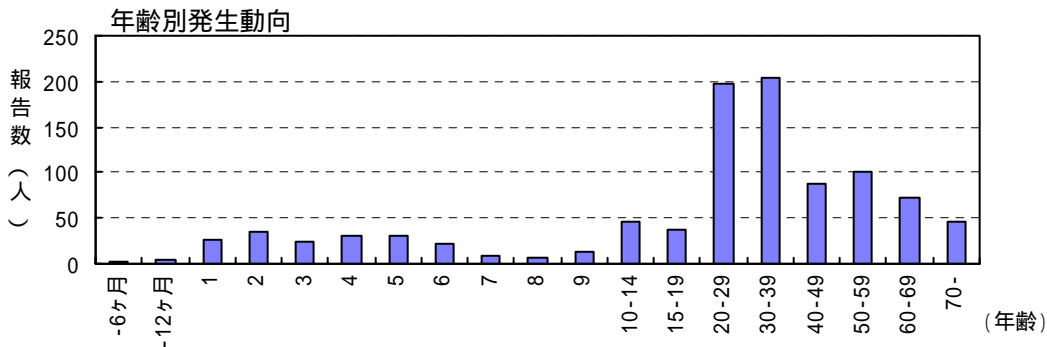
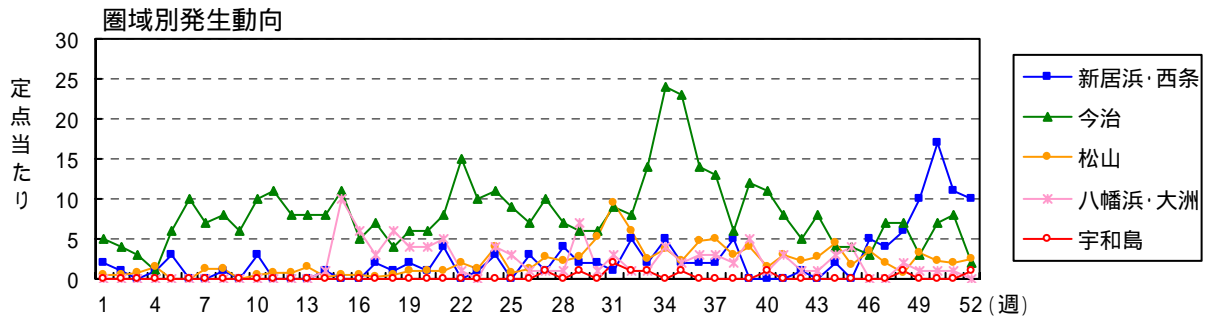
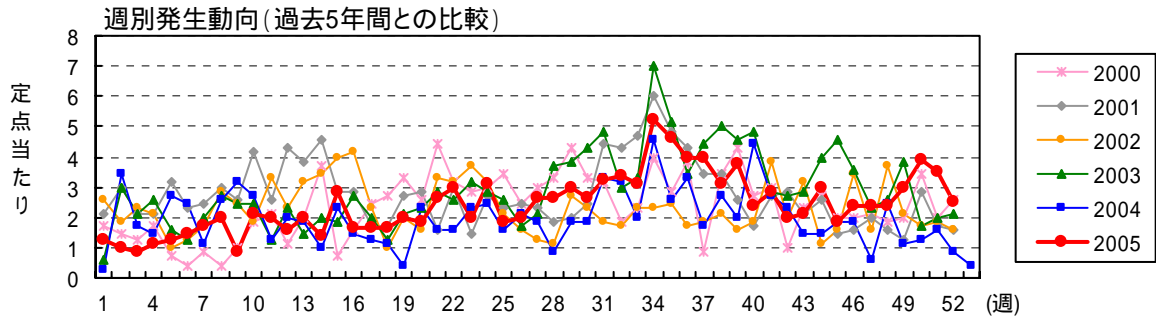
急性出血性結膜炎

月	週	患者報告数											定点あたり報告数											
		2005年 保健所別						愛媛県			全 国		2005年 保健所別						愛媛県			全 国		
		西条	今治	松山市	松山	八幡浜	宇和島	2005	2004	2003	2005	2004	2003	西条	今治	松山市	松山	八幡浜	宇和島	2005	2004	2003	2005	2004
1	1								21	6	5											0.03	0.01	0.01
1	2								15	20	32											0.02	0.03	0.05
1	3								12	15	22											0.02	0.02	0.03
1	4								14	11	21										1	0.02	0.02	0.03
1	5								1	15	14										1	0.14	0.02	0.02
2	6								16	19	26											0.14	0.14	0.02
2	7								12	23	21											0.14	0.02	0.03
2	8								4	26	14											0.14	0.01	0.04
2	9								19	12	11											0.03	0.02	0.02
3	10								10	20	13											0.14	0.14	0.02
3	11								10	22	20											0.02	0.03	0.03
3	12								16	17	11											0.14	0.03	0.02
3	13								13	19	12											0.43	0.29	0.02
4	14								12	22	27											0.14	0.14	0.02
4	15								17	20	27											0.14	0.14	0.03
4	16								11	14	23											0.14	0.14	0.02
4	17								16	9	12											0.13	0.14	0.02
4	18								5	9	26											1.00	1.00	0.01
5	19								22	14	23											0.13	0.14	0.01
5	20								21	14	38											0.29	0.03	0.02
5	21								18	11	28											0.03	0.02	0.04
5	22								1	4	18											0.14	0.57	0.03
6	23								21	14	21											0.14	0.14	0.03
6	24								12	5	21											0.14	0.29	0.02
6	25								11	9	20											0.14	0.29	0.02
6	26								15	17	30											0.02	0.03	0.05
7	27								9	6	17											0.01	0.01	0.03
7	28								17	11	34											0.03	0.02	0.05
7	29								18	18	26											0.03	0.03	0.04
7	30								15	10	21											0.02	0.02	0.03
7	31								24	21	28											0.04	0.03	0.04
8	32								19	13	27											0.13	0.14	0.03
8	33								1	1	13											0.13	0.14	0.03
8	34								1	3	27											0.13	0.43	0.14
8	35								1	1	25											0.13	0.14	0.14
9	36								24	15	25											0.14	0.14	0.04
9	37								1	13	17											0.14	0.14	0.04
9	38								3	7	13											0.43	0.29	0.01
9	39								17	8	24											2.43	0.29	0.01
9	40								25	12	18											3.57	0.29	0.02
10	41								9	15	17											1.29	0.29	0.02
10	42								7	10	17											0.01	0.02	0.03
10	43								11	9	5											0.02	0.01	0.01
10	44								12	10	13											0.13	0.13	0.02
11	45								18	6	14											0.13	0.13	0.02
11	46								10	5	18											0.13	0.13	0.02
11	47								7	9	15											0.13	0.13	0.02
11	48								14	16	17											0.13	0.13	0.02
12	49								8	7	17											0.13	0.13	0.02
12	50								9	10	12											0.13	0.13	0.02
12	51								10	9	14											0.13	0.13	0.02
12	52								13	12	17											0.13	0.13	0.02
12	53								11	18	17											0.13	0.13	0.02
合計									2	11	17											0.25	0.14	0.03
合計									8	1	3											1.57	9.71	3.14
合計									12	68	22											1.13	1.19	1.61
合計									728	759	1,019											2.67	1.00	3.00

注1) 2004年、2005年の全国患者報告数及び定点あたり報告数は、各週の還元データを転記したものであり、確定値とは異なる。
 注2) 2005年第13週までの新居浜保健所のデータは西条保健所として集計した。

流行性角結膜炎

2005年の患者報告数は993人(定点当たり126.54人/年)で、前年(729人 定点当たり104.14人/年)に比べ増加したが、過去10年間では平均的な流行規模であった。例年どおり8月を中心に県下全域で患者数の増加が見られたが、西条地区では12月に再度増加に転じた。地域別では今治地区(定点当たり423.00人/年)が他地区と比べ顕著に多く、12月に多発した西条地区も定点当たり128.00人/年まで増加した。第14週(4月)から定点観測を開始した八幡浜地区では定点当たり100.00人/年の報告があった。年齢別では乳児から高齢者まで幅広い年齢層にわたっているが、小児に比べ成人が多く、20歳以上の患者が705人で全体の71.0%を占めた。



流行性角結膜炎

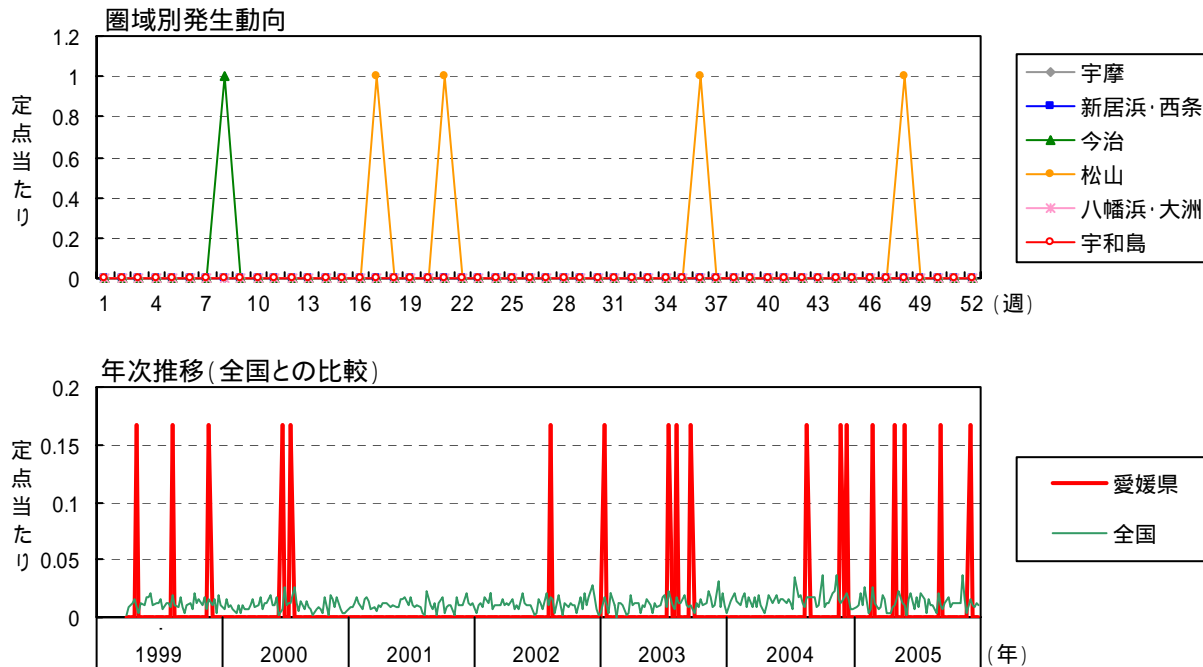
月	週	患者報告数											定点あたり報告数												
		2005年 保健所別						愛媛県			全国		2005年 保健所別						愛媛県			全国			
		西条	今治	松山市	松山	八幡浜	宇和島	2005	2004	2003	2005	2004	2003	西条	今治	松山市	松山	八幡浜	宇和島	2005	2004	2003	2005	2004	2003
1	1	2	5	2			9	2	4	451	173	208	2.00	5.00	0.67				1.29	0.29	0.57	0.70	0.28	0.34	
1	2	1	4	2			7	24	21	442	762	746	1.00	4.00	0.67				1.00	3.43	3.00	0.68	1.21	1.18	
1	3		3	3			6	12	15	395	510	499		3.00	1.00				0.86	1.71	2.14	0.62	0.80	0.79	
1	4	1	1	5	1		8	10	18	399	491	564	1.00	1.00	1.67	1.00			1.14	1.43	2.57	0.62	0.77	0.89	
1	5	3	6				9	19	11	402	491	502	3.00	6.00					1.29	2.71	1.57	0.63	0.77	0.79	
2	6		10				10	17	9	398	593	462		10.00					1.43	2.43	1.29	0.62	0.93	0.72	
2	7		7	5			12	8	14	453	562	426		7.00	1.67				1.71	1.14	2.00	0.71	0.88	0.67	
2	8	1	8	5			14	18	19	477	566	452	1.00	8.00	1.67				2.00	2.57	2.71	0.74	0.89	0.71	
2	9		6				6	22	17	434	564	398		6.00					0.86	3.14	2.43	0.68	0.89	0.63	
3	10	3	10	2			15	19	17	443	623	427	3.00	10.00	0.67				2.14	2.71	2.43	0.69	0.98	0.67	
3	11		11	3			14	9	9	408	562	428		11.00	1.00				2.00	1.29	1.29	0.64	0.88	0.67	
3	12		8	2	1		11	14	16	381	518	415		8.00	0.67	1.00			1.57	2.00	2.29	0.60	0.81	0.66	
3	13		8	5	1		14	13	10	378	591	524		8.00	1.67	1.00			2.00	1.86	1.43	0.59	0.93	0.83	
4	14	1	8	1		1	11	7	14	391	546	447	1.00	8.00	0.33		1.00		1.38	1.00	2.00	0.61	0.86	0.70	
4	15		11	2		10	23	16	13	479	547	555		11.00	0.67		10.00		2.88	2.29	1.86	0.74	0.86	0.87	
4	16		5	2		6	13	10	19	420	553	518		5.00	0.67		6.00		1.63	1.43	2.71	0.65	0.87	0.81	
4	17	2	7	1		3	13	9	14	442	554	567	2.00	7.00	0.33		3.00		1.63	1.29	2.00	0.69	0.87	0.89	
4	18	1	4	2		6	13	8	9	423	573	503	1.00	4.00	0.67		6.00		1.63	1.14	1.29	0.66	0.91	0.79	
5	19	2	6	4		4	16	3	15	597	462	581	2.00	6.00	1.33		4.00		2.00	0.43	2.14	0.92	0.73	0.92	
5	20	1	6	4		4	15	16	16	530	612	650	1.00	6.00	1.33		4.00		1.88	2.29	2.29	0.82	0.96	1.02	
5	21	4	8	4		5	21	11	20	580	545	670	4.00	8.00	1.33		5.00		2.63	1.57	2.86	0.90	0.86	1.06	
5	22		15	8		1	24	11	18	580	579	661		15.00	2.67		1.00		3.00	1.57	2.57	0.90	0.91	1.04	
6	23	1	10	5			16	16	22	570	628	686	1.00	10.00	1.67				2.00	2.29	3.14	0.88	0.99	1.08	
6	24	3	11	4	3	4	25	17	20	619	576	685	3.00	11.00	1.33	3.00	4.00		3.13	2.43	2.86	0.96	0.91	1.08	
6	25		9	3		3	15	11	18	728	627	656		9.00	1.00		3.00		1.88	1.57	2.57	1.13	0.99	1.03	
6	26	3	7	5		1	16	15	12	676	582	696	3.00	7.00	1.67		1.00		2.00	2.14	1.71	1.05	0.92	1.10	
7	27	1	10	7	1	1	21	13	15	643	572	648	1.00	10.00	2.33	1.00	1.00	1.00	2.63	1.86	2.14	1.00	0.90	1.02	
7	28	4	7	9		1	21	6	26	718	611	763	4.00	7.00	3.00		1.00		2.63	0.86	3.71	1.11	0.96	1.20	
7	29	2	6	7	1	7	24	13	27	684	566	784	2.00	6.00	2.33	1.00	7.00	1.00	3.00	1.86	3.86	1.06	0.89	1.23	
7	30	2	6	9	3	1	21	13	30	775	611	706	2.00	6.00	3.00	3.00	1.00		2.63	1.86	4.29	1.20	0.96	1.11	
7	31	1	9	2	9	3	26	23	34	766	643	795	1.00	9.00	0.67	9.00	3.00	2.00	3.25	3.29	4.86	1.19	1.01	1.25	
8	32	5	8	8	4	1	27	22	21	635	635	780	5.00	8.00	2.67	4.00	1.00	1.00	3.38	3.14	3.00	1.00	1.00	1.24	
8	33	2	14	6	1	1	25	14	23	835	465	540	2.00	14.00	2.00	1.00	1.00	1.00	3.13	2.00	3.29	1.30	0.75	0.87	
8	34	5	24	7	2	4	42	32	49	847	623	857	5.00	24.00	2.33	2.00	4.00		5.25	4.57	7.00	1.31	0.98	1.35	
8	35	2	23	9		2	37	18	36	884	573	750	2.00	23.00	3.00		2.00	1.00	4.63	2.57	5.14	1.37	0.90	1.18	
9	36	2	14	11	2	3	32	23	24	856	547	748	2.00	14.00	3.67	2.00	3.00		4.00	3.29	3.43	1.32	0.86	1.18	
9	37	2	13	12	2	3	32	12	31	844	553	753	2.00	13.00	4.00	2.00	3.00		4.00	1.71	4.43	1.31	0.87	1.19	
9	38	5	6	12		2	25	19	35	707	502	771	5.00	6.00	4.00		2.00		3.13	2.71	5.00	1.09	0.79	1.21	
9	39		12	12	1	5	30	14	32	748	460	697		12.00	4.00	1.00	5.00		3.75	2.00	4.57	1.15	0.72	1.10	
9	40		11	6		1	19	31	34	593	474	674		11.00	2.00		1.00	1.00	2.38	4.43	4.86	0.92	0.75	1.06	
10	41		8	12		3	23	19	20	633	467	574		8.00	4.00		3.00		2.88	2.71	2.86	0.98	0.74	0.90	
10	42	1	5	9		1	16	16	19	544	477	524	1.00	5.00	3.00		1.00		2.00	2.29	2.71	0.84	0.75	0.82	
10	43		8	7	1	1	17	10	20	596	471	557		8.00	2.33	1.00	1.00		2.13	1.43	2.86	0.92	0.74	0.88	
10	44	2	4	14	1	3	24	10	28	585	413	535	2.00	4.00	4.67	1.00	3.00		3.00	1.43	4.00	0.90	0.65	0.84	
11	45		4	7		4	15	13	32	583	406	544		4.00	2.33		4.00		1.88	1.86	4.57	0.90	0.64	0.86	
11	46	5	3	10	1		19	13	25	568	431	577	5.00	3.00	3.33	1.00			2.38	1.86	3.57	0.88	0.68	0.91	
11	47	4	7	8			19	4	16	446	413	534	4.00	7.00	2.67				2.38	0.57	2.29	0.69	0.65	0.84	
11	48	6	7	3		2	19	17	18	564	407	510	6.00	7.00	1.00		2.00	1.00	2.38	2.43	2.57	0.87	0.64	0.80	
12	49	10	3	9	1	1	24	8	27	513	396	593	10.00	3.00	3.00	1.00	1.00		3.00	1.14	3.86	0.79	0.62	0.93	
12	50	17	7	5	1	1	31	9	12	540	426	517	17.00	7.00	1.67	1.00	1.00		3.88	1.29	1.71	0.84	0.67	0.81	
12	51	11	8	8		1	28	11	14	487	448	524	11.00	8.00	2.67				3.50	1.57	2.00	0.75	0.70	0.82	
12	52	10	2	6	1		20	6	15	399	454	577	10.00	2.00	2.00	1.00		1.00	2.50	0.86	2.14	0.62	0.71	0.90	
12	53																			0.43					
合計		128	423	294	38	100	993	729	1,053	29,489	27,692	30,758	128.00	423.00	98.00	38.00	100.00	10.00	126.54	104.14	150.43	45.71	43.58	48.51	

注1) 2004年、2005年の全国患者報告数及び定点あたり報告数は、各週の還元データを転記したものであり、確定値とは異なる。
注2) 2005年第13週までの新居浜保健所のデータは西条保健所として集計した。

(5) 基幹定点対象疾患(週報)

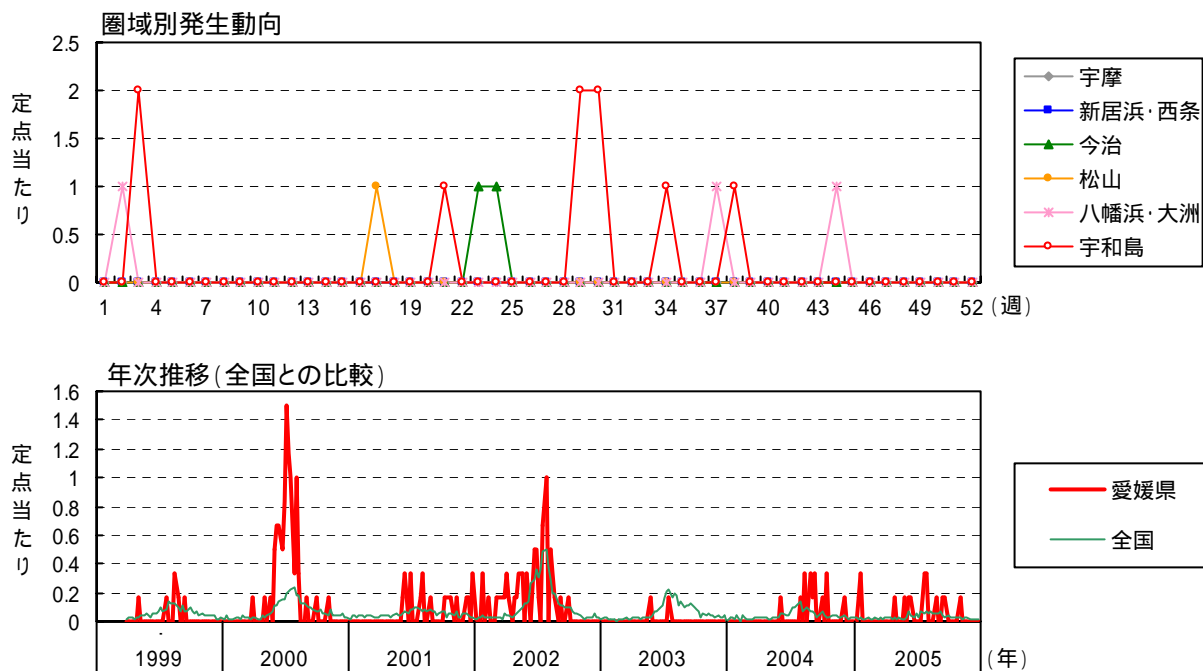
細菌性髄膜炎(真菌性を含む)

2005年は5人(細菌性3人 真菌性2人)の患者報告があり、1999年以降では最も多かった。地域別では松山地区が4人、今治地区が1人で、年齢別では1~9歳が2人、60歳代1人、70歳以上2人であった。



無菌性髄膜炎

2005年の患者報告数は15人(定点当たり2.50人/年)で、前年(13人 定点当たり2.17人/年)と同程度の報告であり、1999年以降では平均的な発生規模であった。地域別では宇和島地区が9人、八幡浜地区が3人、今治地区2人、松山地区1人で、南予からの報告が多かった。年齢別では9歳以下が11人、20歳代が2人、10歳代と30歳代が各1人であった。



細菌性髄膜炎

月週	患者報告数											定点あたり報告数						
	2005年 保健所別					愛媛県			全国			愛媛県			全国			
	四国中央	西条	今治	松山	八幡浜	宇和島	2005	2004	2003	2005	2004	2003	2005	2004	2003	2005	2004	2003
1																		
2																		
3																		
4																		
5																		
6																		
7																		
8																		
9																		
10																		
11																		
12																		
13																		
14																		
15																		
16																		
17																		
18																		
19																		
20																		
21																		
22																		
23																		
24																		
25																		
26																		
27																		
28																		
29																		
30																		
31																		
32																		
33																		
34																		
35																		
36																		
37																		
38																		
39																		
40																		
41																		
42																		
43																		
44																		
45																		
46																		
47																		
48																		
49																		
50																		
51																		
52																		
53																		
合計																		

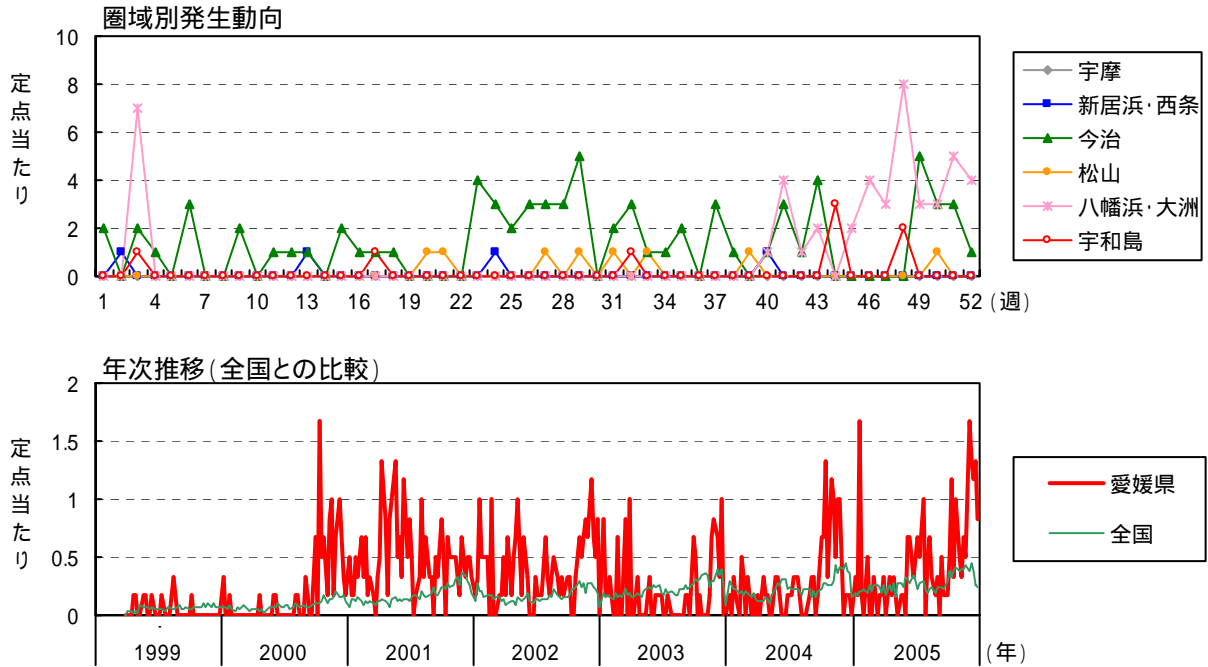
無菌性髄膜炎

月週	患者報告数											定点あたり報告数						
	2005年 保健所別					愛媛県			全国			愛媛県			全国			
	四国中央	西条	今治	松山	八幡浜	宇和島	2005	2004	2003	2005	2004	2003	2005	2004	2003	2005	2004	2003
1																		
2																		
3																		
4																		
5																		
6																		
7																		
8																		
9																		
10																		
11																		
12																		
13																		
14																		
15																		
16																		
17																		
18																		
19																		
20																		
21																		
22																		
23																		
24																		
25																		
26																		
27																		
28																		
29																		
30																		
31																		
32																		
33																		
34																		
35																		
36																		
37																		
38																		
39																		
40																		
41																		
42																		
43																		
44																		
45																		
46																		
47																		
48																		
49																		
50																		
51																		
52																		
53																		
合計																		

注1) 2004年、2005年の全国患者報告数及び定点あたり報告数は、各週の還元データを転記したものであり、確定値とは異なる。
 注2) 2005年第13週までの新居浜保健所のデータは西条保健所として集計した。

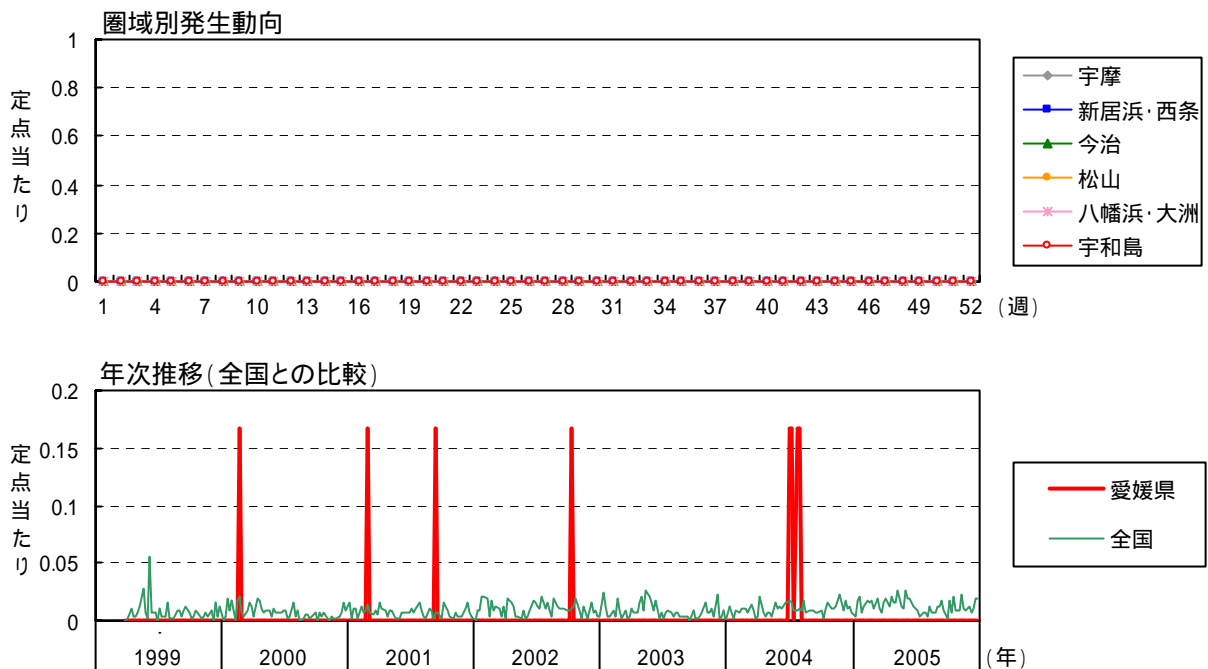
マイコプラズマ肺炎

2005年の患者報告数は142人(定点当たり23.67人/年)で、前年(65人 定点当たり14.17人/年)に比べ大幅に増加し、1999年以降では2001年(151人 定点当たり25.17人/年)に次いで多かった。地域別では今治地区が年間を通じ75人、八幡浜地区が10~12月を中心に47人と突出して多く、これら2地区からの報告が全体の85.9%を占めた。年齢別では1~4歳が60人、5~9歳が48人と多く、9歳以下が全体の78.2%を占めた。



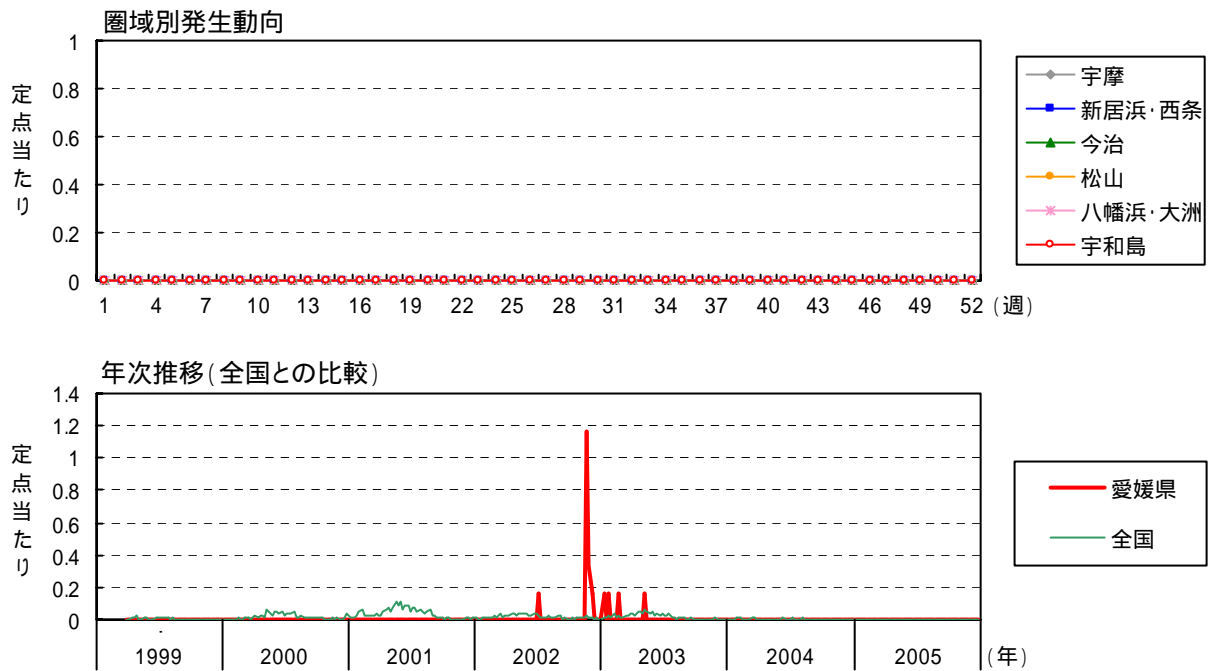
クラミジア肺炎(オウム病を除く)

2005年の患者報告はなかった。県内では、前年7月に4人の患者報告があった以外は、年間0~2人とごく少数例の報告で推移している。



成人麻疹

2005年の患者報告はなかった。2002年10月から2003年7月にかけて東予を中心とする県内各地で成人麻疹の流行が発生したが、2003年第19週(5月上旬)を最後に新たな患者報告はない。



成人麻疹

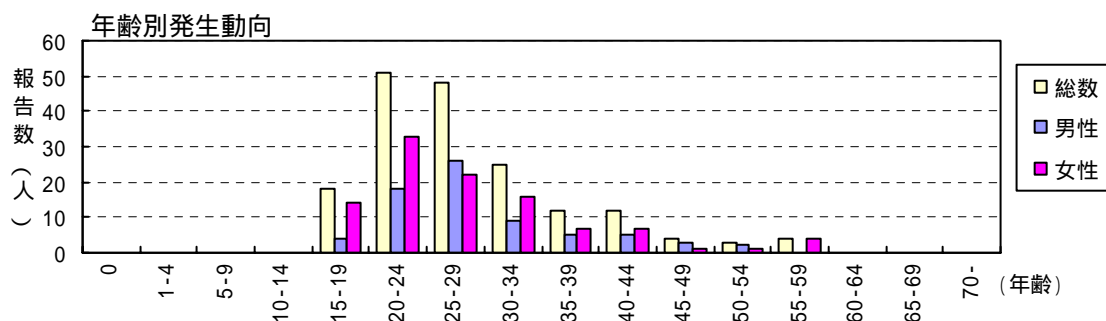
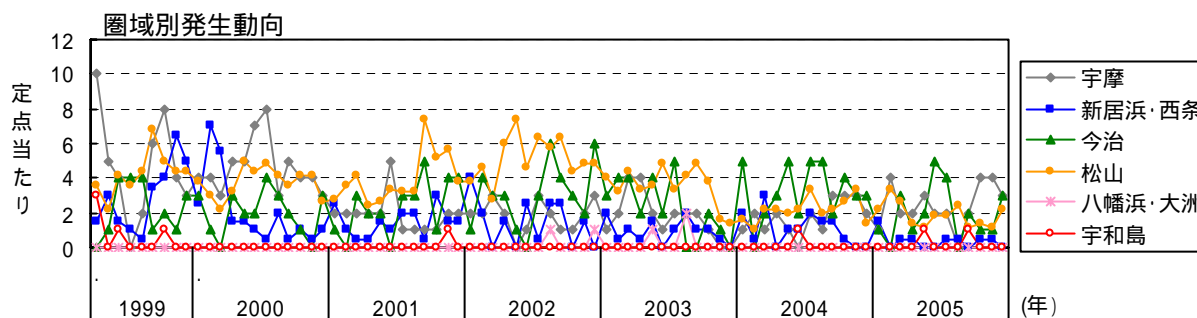
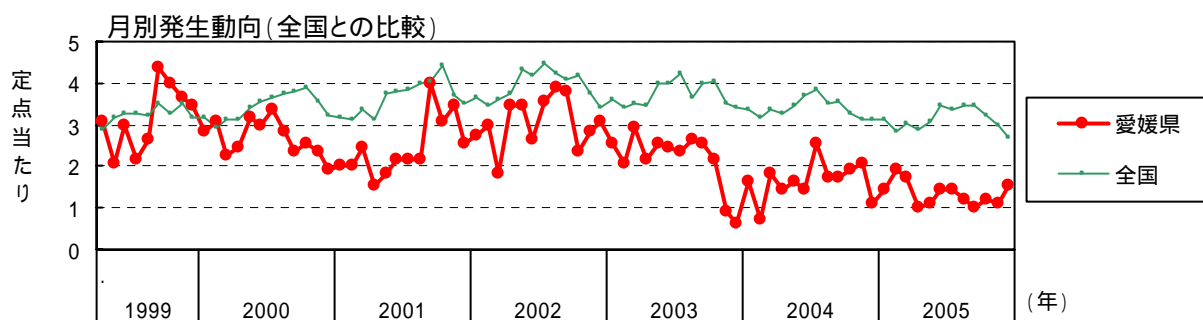
月	週	患者報告数									定点あたり報告数												
		2005年 保健所別					愛媛県			全国			愛媛県			全国							
		四国中央	西条	今治	松山	八幡浜	宇和島	2005	2004	2003	2005	2004	2003	2005	2004	2003	2005	2004	2003				
1	1									1								0.00					
	2												1	2	5			0.17		0.00			
	3														5					0.01			
	4														17			0.17		0.04			
	5												4	5						0.01			
	6												4	19						0.04			
	7												1	7						0.01			
	8												1	12				0.17		0.03			
	9												2	8						0.02			
	10												2	7						0.01			
	11												4	15						0.03			
	12												3	10						0.02			
	13												2	14						0.03			
	14													17						0.04			
	15												1	14				0.00		0.03			
	16												2	23						0.05			
	17												1	25				0.00		0.05			
	18												1	14				0.00		0.03			
	19													28				0.17		0.06			
	20													26						0.06			
	21													17						0.04			
	22												1	20					0.00	0.04			
	23													1	13					0.03			
	24													3	20					0.04			
	25													13						0.03			
	26													18						0.04			
	27													2	13					0.03			
	28												1	5	12				0.00	0.01			
	29													1	21					0.04			
	30												1	7				0.00		0.01			
	31													2	3					0.01			
	32													3	1					0.01			
	33													3						0.01			
	34													1	4					0.01			
	35												1	7					0.00	0.01			
	36													1						0.00			
	37													2	1					0.00			
	38													1	4				0.00	0.01			
	39																			0.00			
	40													1	1					0.00			
	41																			0.00			
	42														1					0.00			
	43													1						0.00			
	44													1	1					0.00			
	45													1	1					0.00			
	46																			0.00			
	47														2					0.00			
	48													2	3				0.00	0.01			
	49														2					0.00			
	50													1	2				0.00	0.00			
	51																			0.00			
	52																			0.00			
	53													2						0.00			
	合計													4	12	59	462			0.67	0.03	0.12	0.98

注1) 2004年、2005年の全国患者報告数及び定点あたり報告数は、各週の選元データを転記したものであり、確定値とは異なる。
 注2) 2005年第13週までの新居浜保健所のデータは西条保健所として集計した。

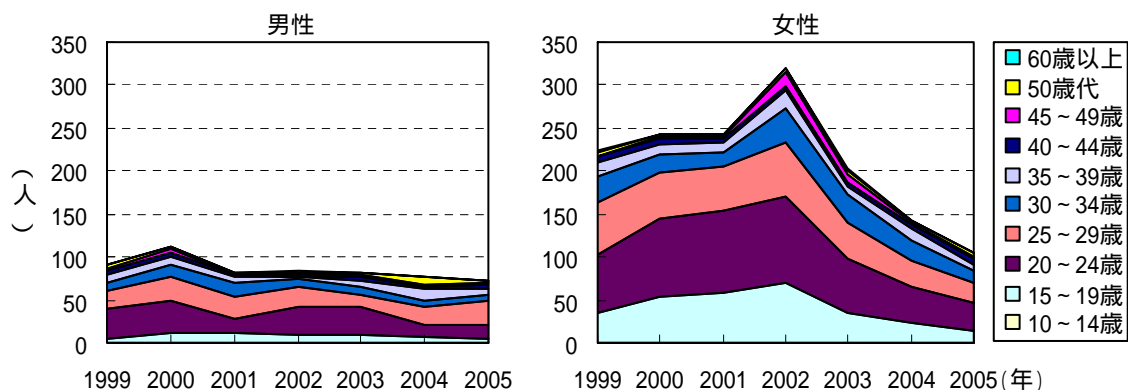
(6)STD 定点対象疾患(月報)

性器クラミジア感染症

2005年の患者報告数は177人(定点当たり16.09人/年)であり、前年(218人 定点当たり19.82人/年)に比べ減少した。県内の報告数は2002年の403人(定点当たり36.64人/年)をピークに減少傾向にあり、1999年4月の定点観測開始以降では最も少ない患者報告であった。性別は男性72人、女性105人で女性が59.3%を占め、男女とも20歳代の報告が多かった。男女別・年齢別の推移を見ると、男性の報告数には大きな変動はないが、女性では2002年以降大幅な減少が認められた。特に15~29歳の年齢層において2002年の233人をピークに、2003年140人、2004年95人、2005年69人と著しく減少している。

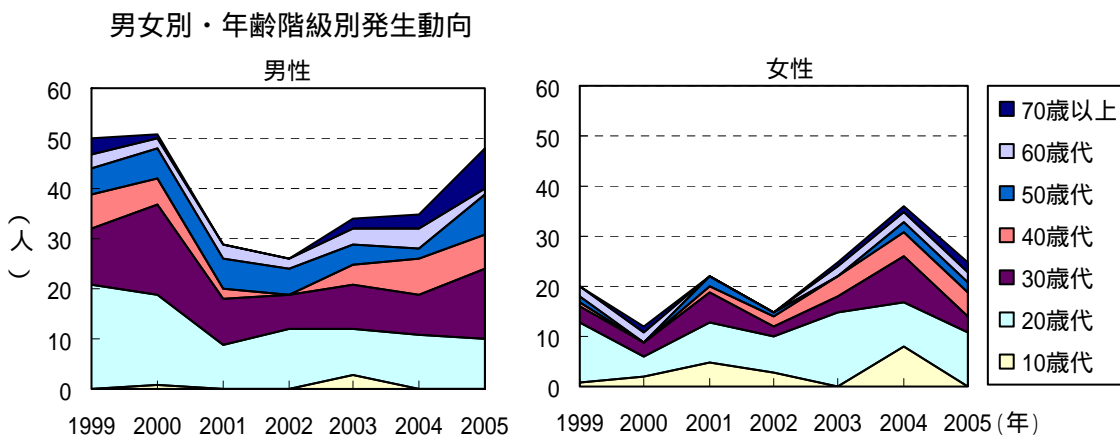
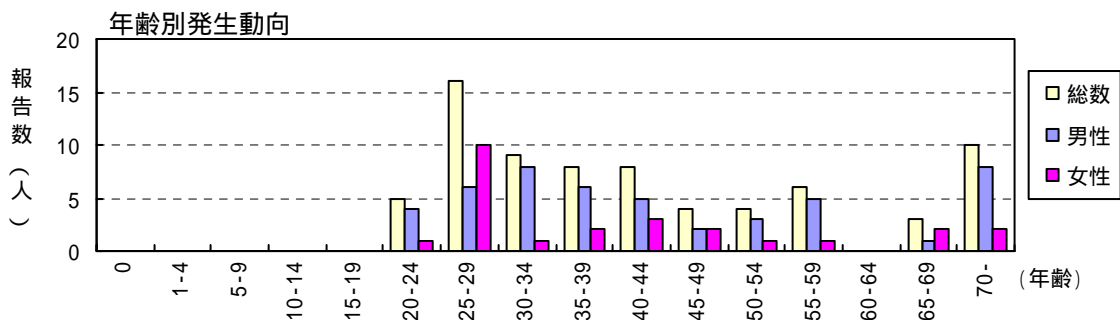
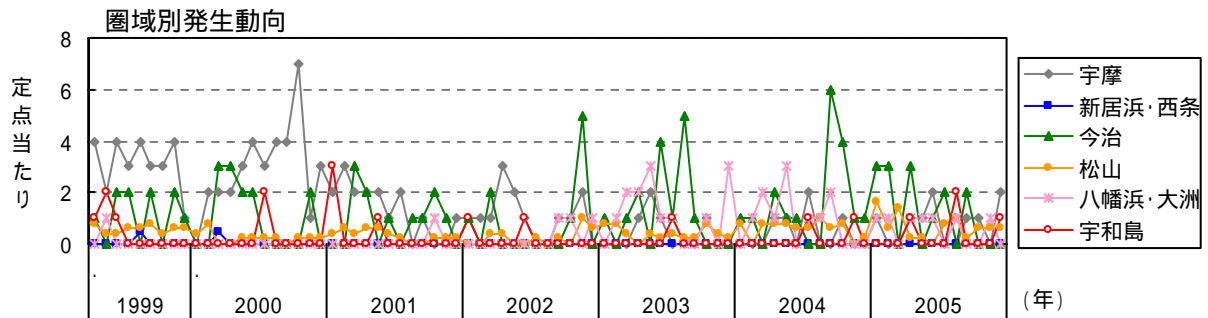
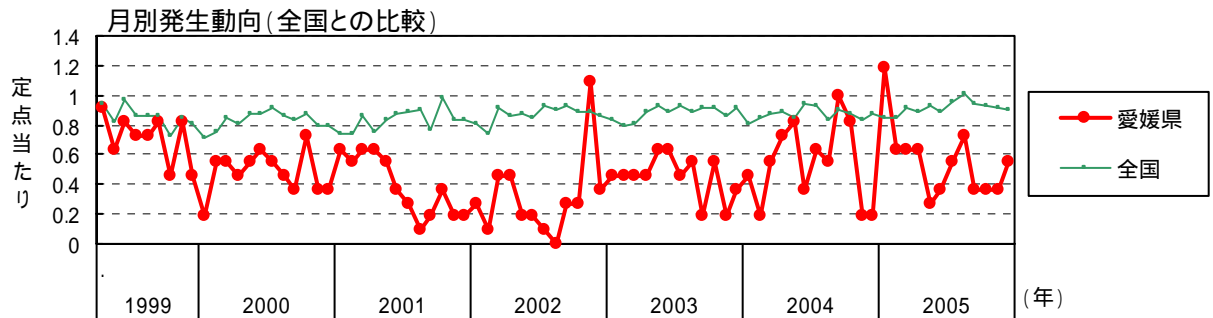


男女別・年齢階級別発生動向



性器ヘルペスウイルス感染症

2005年の患者報告数は73人(定点当たり6.64人/年)であり、前年(71人 定点当たり6.45人/年)と同程度の報告であった。県内の報告数は1999年70人、2000年63人、2001年51人、2002年41人と減少傾向にあったが、その後2003年59人、2004年71人と増加に転じている。性別は男性48人、女性25人で、男性が65.8%を占めた。男性は20歳以上の各年齢層に幅広く見られたが、女性は20歳代、特に25～29歳が10人と突出して多かった。男女別・年齢別の推移を見ると、男性においては2002年までは減少しその後やや増加しているが、女性は年々増加しており、特に20歳代において著しい増加傾向が認められる。



性器クラミジア感染症

月	患者報告数											定点あたり報告数														
	2005年 保健所別							愛媛県			全国			2005年 保健所別							愛媛県			全国		
	四国中央	西条	今治	松山市	松山	八幡浜	宇和島	2005	2004	2003	2005	2004	2003	四国中央	西条	今治	松山市	松山	八幡浜	宇和島	2005	2004	2003	2005	2004	2003
1	1	3	1	10	1			16	18	28	2,867	3,092	3,374	1.00	1.50	1.00	2.50	1.00			1.45	1.64	2.55	3.11	3.37	3.66
2	4			17				21	8	23	2,610	2,897	3,181	4.00			4.25				1.91	0.73	2.09	2.84	3.16	3.45
3	2	1	3	11	2			19	20	32	2,787	3,088	3,297	2.00	0.50	3.00	2.75	2.00			1.73	1.82	2.91	3.04	3.34	3.58
4	2	1	1	6	1			11	16	24	2,649	3,019	3,280	2.00	0.50	1.00	1.50	1.00			1.00	1.45	2.18	2.87	3.27	3.58
5	3		2	6			1	12	18	28	2,855	3,177	3,731	3.00		2.00	1.50			1.00	1.09	1.64	2.55	3.09	3.44	4.06
6	2		5	7	2			16	16	27	3,193	3,404	3,816	2.00		5.00	1.75	2.00			1.45	1.45	2.45	3.46	3.68	4.17
7	2	1	4	8	1			16	28	26	3,105	3,560	3,898	2.00	0.50	4.00	2.00	1.00			1.45	2.55	2.36	3.38	3.87	4.24
8		1		9	3			13	19	29	3,197	3,255	3,481		0.50		2.25	3.00			1.18	1.73	2.64	3.47	3.53	3.78
9	2		2	4	2		1	11	19	28	3,161	3,262	3,683	2.00		2.00	1.00	2.00		1.00	1.00	1.73	2.55	3.44	3.53	4.02
10	4	1	1	5	2			13	21	24	2,981	3,013	3,769	4.00	0.50	1.00	1.25	2.00			1.18	1.91	2.18	3.24	3.27	4.08
11	4	1	1	5	1			12	23	10	2,728	2,909	3,262	4.00	0.50	1.00	1.25	1.00			1.09	2.09	0.91	2.97	3.14	3.53
12	3		3	8	3			17	12	7	2,457	2,889	3,173	3.00		3.00	2.00	3.00			1.55	1.09	0.64	2.69	3.14	3.44
合計	29	9	23	96	18		2	177	218	286	34,590	37,565	41,945	29.00	4.50	23.00	24.00	18.00		2.00	16.09	19.82	26.00	37.60	40.75	45.59

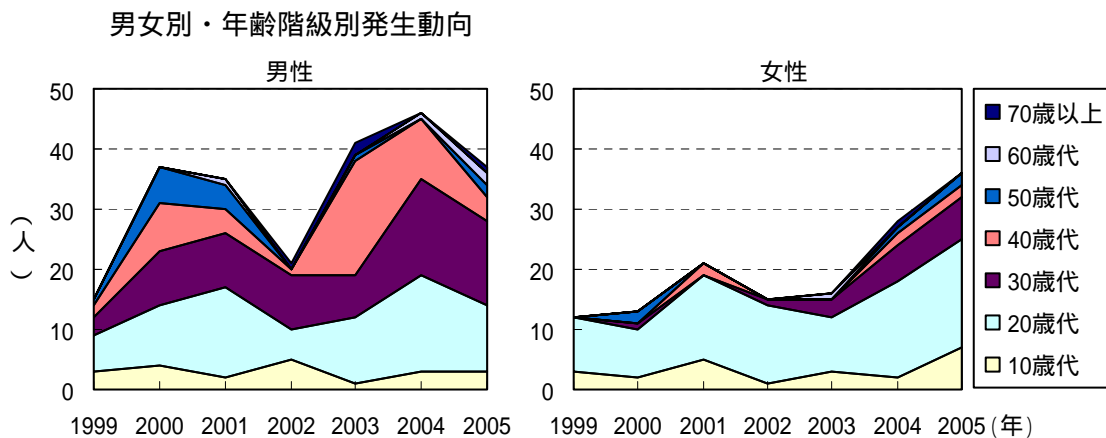
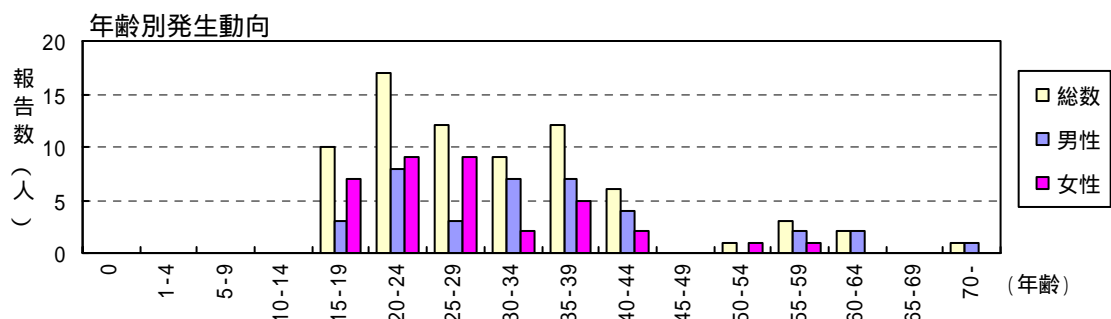
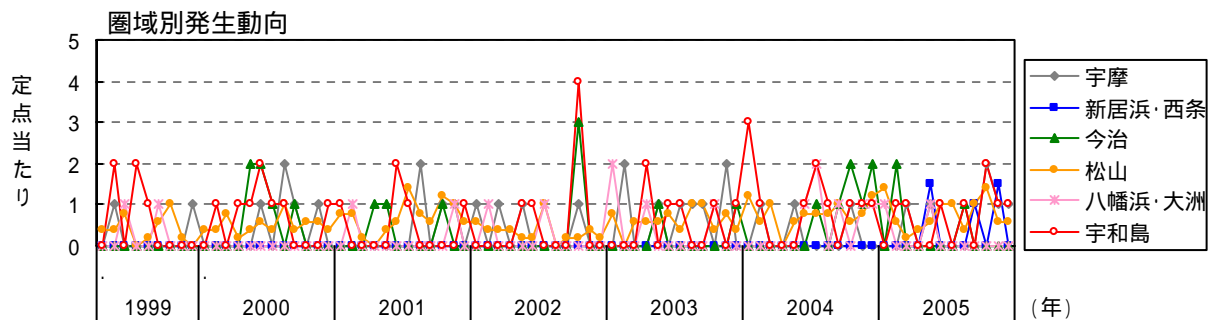
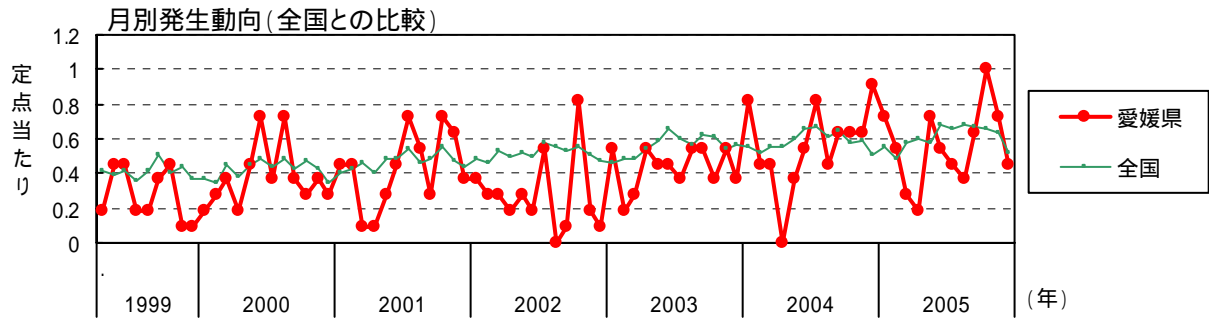
性器ヘルペスウイルス感染症

月	患者報告数											定点あたり報告数														
	2005年 保健所別							愛媛県			全国			2005年 保健所別							愛媛県			全国		
	四国中央	西条	今治	松山市	松山	八幡浜	宇和島	2005	2004	2003	2005	2004	2003	四国中央	西条	今治	松山市	松山	八幡浜	宇和島	2005	2004	2003	2005	2004	2003
1	1		3	6	2	1		13	5	5	783	745	779	1.00		3.00	1.50	2.00	1.00		1.18	0.45	0.45	0.85	0.81	0.85
2			3	1	2	1		7	2	5	777	775	740			3.00	0.25	2.00	1.00		0.64	0.18	0.45	0.84	0.84	0.80
3				5	2			7	6	5	845	811	759				1.25	2.00			0.64	0.55	0.45	0.92	0.88	0.83
4	1		3	1		1	1	7	8	5	813	824	819	1.00		3.00	0.25		1.00	1.00	0.64	0.73	0.45	0.88	0.89	0.89
5	1				1	1		3	9	7	857	779	850	1.00				1.00	1.00		0.27	0.82	0.64	0.93	0.84	0.92
6	2		1			1		4	4	7	820	865	859	2.00		1.00			1.00		0.36	0.36	0.64	0.89	0.94	0.94
7			2	1	3			6	7	5	881	851	854			2.00	0.25	3.00			0.55	0.64	0.45	0.96	0.92	0.93
8				3	2	1	2	8	6	6	931	766	827				0.75	2.00	1.00	2.00	0.73	0.55	0.55	1.01	0.83	0.90
9	1		2			1		4	11	2	866	827	847	1.00		2.00		1.00			0.36	1.00	0.18	0.94	0.90	0.92
10	1				3			4	9	6	851	803	851	1.00				3.00			0.36	0.82	0.55	0.93	0.87	0.92
11				3		1		4	2	2	837	778	803				0.75		1.00		0.36	0.18	0.18	0.91	0.84	0.87
12	2			1	2		1	6	2	4	820	805	844	2.00			0.25	2.00		1.00	0.55	0.18	0.36	0.90	0.88	0.91
合計	9		14	21	18	7	4	73	71	59	10,081	9,629	9,832	9.00		14.00	5.25	18.00	7.00	4.00	6.64	6.45	5.36	10.96	10.44	10.69

注1)2004年、2005年の全国患者報告数及び定点あたり報告数は、各週の還元データを転記したものであり、確定値とは異なる。
注2)2005年3月までの新居浜保健所のデータは西条保健所へ含め集計した。

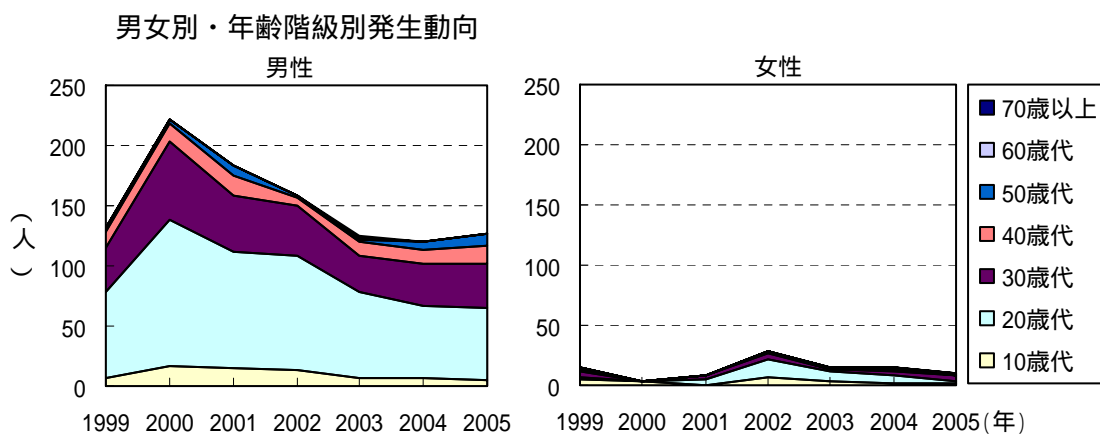
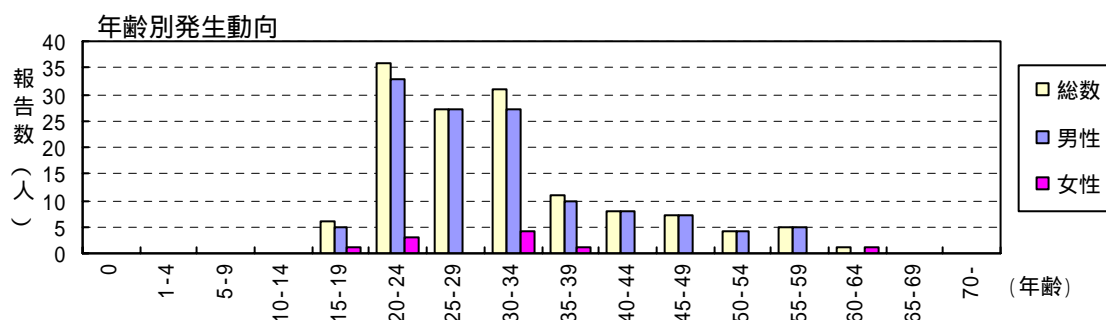
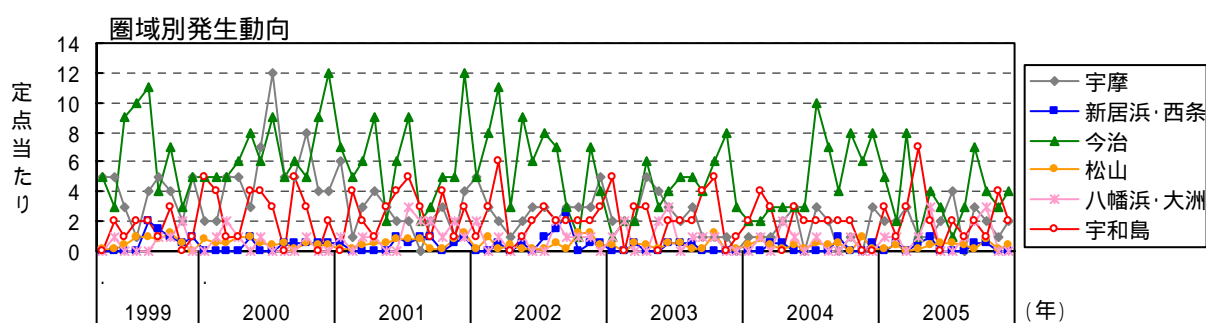
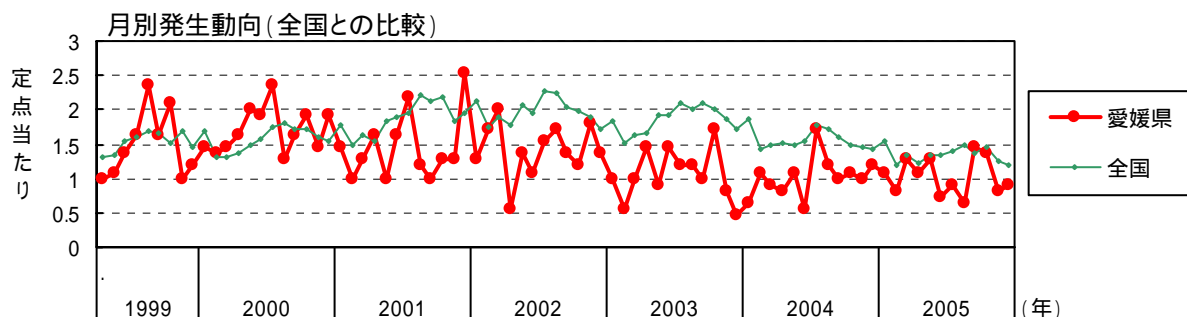
尖圭コンジローマ

2005年の患者報告数は73人(定点当たり6.64人/年)で、前年(74人 定点当たり6.73人/年)と同程度の報告あった。県内の報告数は1999年4月の調査開始以降、増減を繰り返しながら緩やかな増加傾向を示している。性別は男性37人、女性36人で大きな差は見られなかった。年齢別では男女とも15～19歳区分から40～44歳区分に多く、女性では特に20歳代の報告が目立った。男女別・年齢別の動向を見ると、男性では20～40歳代、女性では20～30歳代を中心に増加傾向が見られ、特に女性の増加が顕著である。



淋菌感染症

2005年の患者報告数は136人(定点当たり12.36人/年)であった。県内の報告数は1999年4月の定点観測開始以降、増減を繰り返しながら徐々に減少していたが、前年(135人 定点当たり12.27人/年)とほぼ同数となり、減少幅に鈍化が見られた。性別は男性126人、女性10人で男性が92.6%と圧倒的に多く、年齢分布は20歳代、30歳代が全体の75.7%を占めた。



尖圭コンジローマ

月	患者報告数												定点あたり報告数													
	2005年 保健所別							愛媛県			全国			2005年 保健所別							愛媛県			全国		
	四国中央	西条	今治	松山市	松山	八幡浜	宇和島	2005	2004	2003	2005	2004	2003	四国中央	西条	今治	松山市	松山	八幡浜	宇和島	2005	2004	2003	2005	2004	2003
1				7		1		8	9	6	508	505	437				1.75		1.00		0.73	0.82	0.55	0.55	0.55	0.47
2			2	3			1	6	5	2	448	481	445			2.00	0.75		1.00		0.55	0.45	0.18	0.49	0.52	0.48
3	1			1			1	3	5	3	532	517	450	1.00			0.25		1.00		0.27	0.45	0.27	0.58	0.56	0.49
4				2				2		6	556	507	501				0.50				0.18		0.55	0.60	0.55	0.55
5	1	3		3		1		8	4	5	538	551	548	1.00	1.50		0.75		1.00		0.73	0.36	0.45	0.58	0.60	0.60
6				5			1	6	6	5	625	606	624				1.25		1.00		0.55	0.55	0.45	0.68	0.66	0.68
7				5				5	9	4	601	620	554				1.25				0.45	0.82	0.36	0.65	0.67	0.60
8			1	2			1	4	5	6	623	566	519			1.00	0.50		1.00		0.36	0.45	0.55	0.68	0.61	0.56
9		2		2	3			7	7	6	616	597	573		1.00		0.50	3.00			0.64	0.64	0.55	0.67	0.65	0.62
10	2			7			2	11	7	4	604	532	570	2.00			1.75		2.00		1.00	0.64	0.36	0.66	0.58	0.62
11	1	3		3			1	8	7	6	584	549	508	1.00	1.50		0.75		1.00		0.73	0.64	0.55	0.64	0.59	0.55
12	1			3			1	5	10	4	476	468	524	1.00			0.75		1.00		0.45	0.91	0.36	0.52	0.51	0.57
合計	6	8	3	43	3	2	8	73	74	57	6,711	6,499	6,253	6.00	4.00	3.00	10.75	3.00	2.00	8.00	6.64	6.73	5.18	7.29	7.05	6.80

淋菌感染症

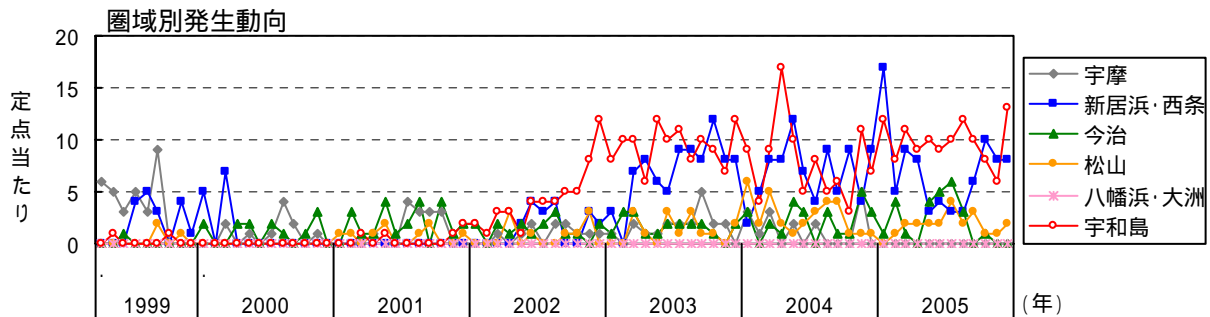
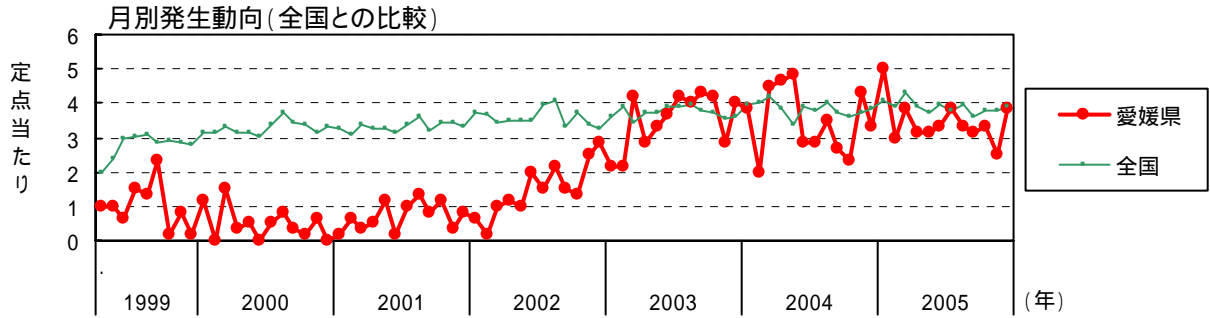
月	患者報告数												定点あたり報告数													
	2005年 保健所別							愛媛県			全国			2005年 保健所別							愛媛県			全国		
	四国中央	西条	今治	松山市	松山	八幡浜	宇和島	2005	2004	2003	2005	2004	2003	四国中央	西条	今治	松山市	松山	八幡浜	宇和島	2005	2004	2003	2005	2004	2003
1	2		5		1	1	3	12	7	11	1,410	1,706	1,725	2.00		5.00		1.00	1.00	3.00	1.09	0.64	1.00	1.53	1.86	1.87
2	2	1	2	2		1	1	9	12	6	1,099	1,305	1,402	2.00	0.50	2.00	0.50		1.00	1.00	0.82	1.09	0.55	1.19	1.42	1.52
3	3		8				3	14	10	11	1,221	1,377	1,531	3.00		8.00			3.00	1.27	0.91	1.00	1.33	1.49	1.66	
4	1	1	1	1		1	7	12	9	16	1,137	1,399	1,542	1.00	0.50	1.00	0.25		1.00	7.00	1.09	0.82	1.45	1.23	1.51	1.68
5	1	2	4	2		3	2	14	12	10	1,227	1,371	1,757	1.00	1.00	4.00	0.50		3.00	2.00	1.27	1.09	0.91	1.33	1.48	1.91
6	2		3	2	1			8	6	16	1,246	1,427	1,797	2.00		3.00	0.50	1.00			0.73	0.55	1.45	1.35	1.54	1.96
7	4		1	1	2		2	10	19	13	1,278	1,639	1,944	4.00		1.00	0.25	2.00		2.00	0.91	1.73	1.18	1.39	1.78	2.12
8			3		2	1	1	7	13	13	1,371	1,582	1,844			3.00		2.00	1.00	1.00	0.64	1.18	1.18	1.49	1.72	2.00
9	3	1	7		1	2	2	16	11	11	1,250	1,477	1,934	3.00	0.50	7.00		1.00	2.00	2.00	1.45	1.00	1.00	1.36	1.60	2.11
10	2	1	4	1	3	3	1	15	12	19	1,336	1,380	1,884	2.00	0.50	4.00	0.25	3.00	3.00	1.00	1.36	1.09	1.73	1.45	1.50	2.04
11	1		3		1		4	9	11	9	1,141	1,346	1,739	1.00		3.00		1.00		4.00	0.82	1.00	0.82	1.24	1.46	1.88
12	2		4		2		2	10	13	5	1,091	1,311	1,598	2.00		4.00		2.00		2.00	0.91	1.18	0.45	1.19	1.43	1.73
合計	23	6	45	9	13	12	28	136	135	140	14,807	17,320	20,697	23.00	3.00	45.00	2.25	13.00	12.00	28.00	12.36	12.27	12.73	16.09	18.79	22.50

注1) 2004年、2005年の全国患者報告数及び定点あたり報告数は、各週の還元データを転記したものであり、確定値とは異なる。
注2) 2005年3月までの新居浜保健所のデータは西条保健所へ含め集計した。

(7) 基幹定点対象疾患(月報)

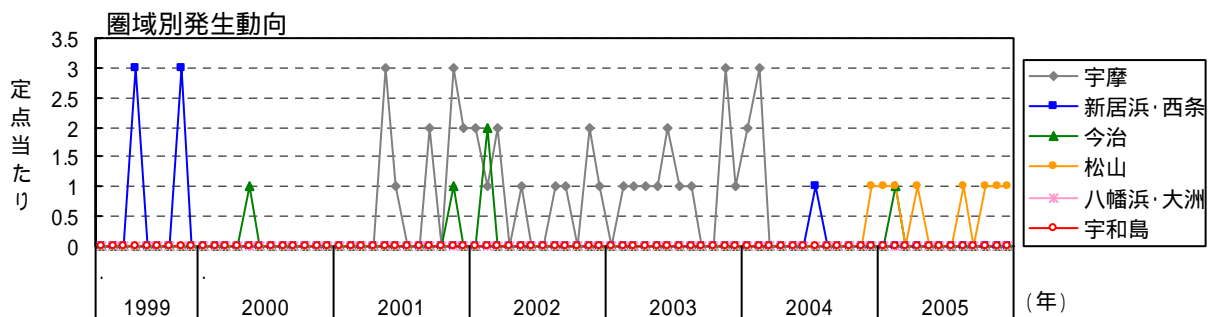
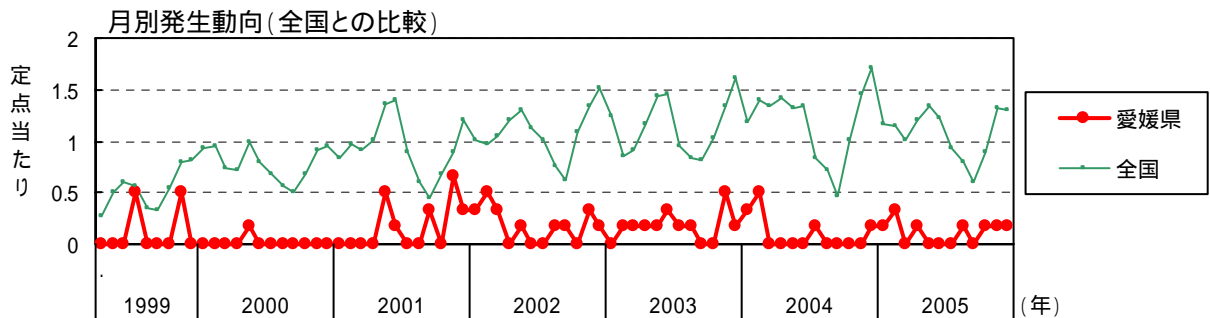
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

2005年の報告数は249人(定点当たり41.50人/年)であった。2001年までは年間50人前後で推移していたが、2002年107人(定点当たり17.83人/年)、2003年251人(定点当たり41.83人/年)と大幅に増加した。2003年以降は年間約250人の報告で一定化しており、全国の患者報告数(定点当たり45~46人/年)とほぼ同レベルで推移している。性別は男性163人、女性86人と2:1の割合で男性が多く、年齢別では70歳以上の報告数が163人で、全体の65.5%を占めた。



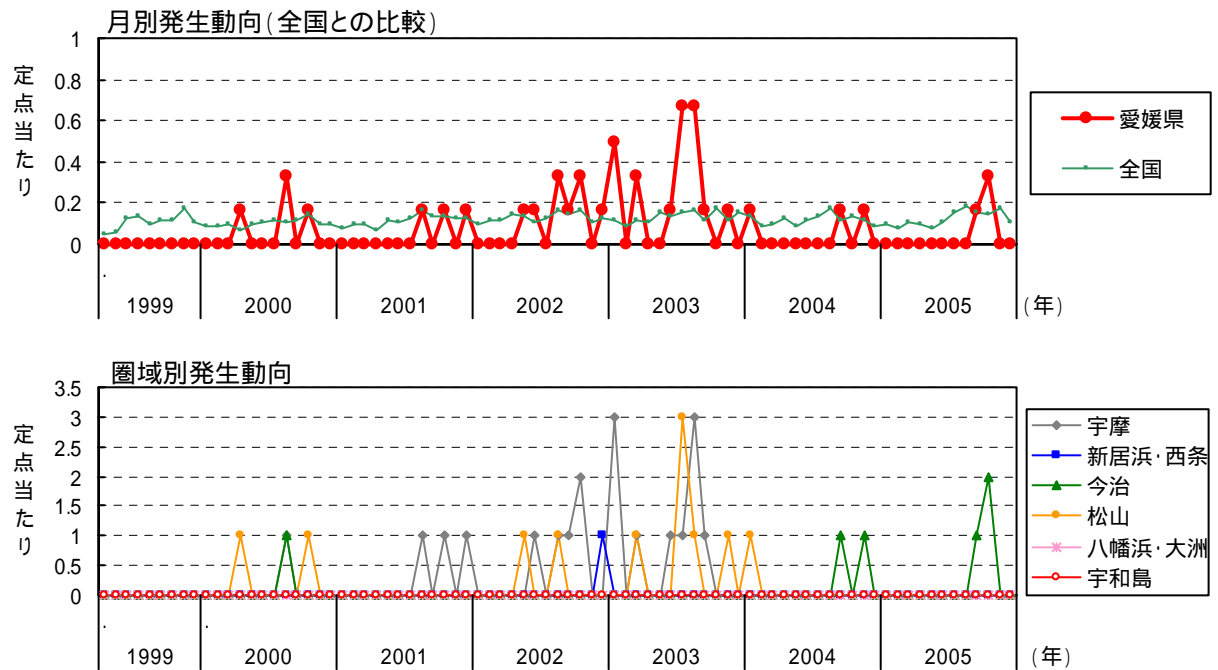
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

2005年の患者報告数は8人(定点当たり1.33人/年)であり、男女各4人ずつの報告であった。2001~2003年は12~13人(定点当たり2.人/年)の報告数があったが、2004年に7人と減少しており、本年は2004年に次いで少ない年であった。全国の定点当たり報告数は2002年以降13~14人/年で推移しており、県内の報告数は全国と比べかなり低いレベルである。年齢別では1~4歳が3人、45~49歳が2人、60歳以上が3人であった。



薬剤耐性緑膿菌感染症

2005年の患者報告数は3人(定点当たり0.50人/年)であり、年齢及び性別は60歳代男性2人、70歳代以上女性1人であった。2002年、2003年はそれぞれ8人、16人と増加する傾向にあったが、2004年以降は2001年以前と同レベル(年間3人)の報告数となった。全国の定点当たり報告数は1.4~1.6人/年で推移しており、県内の報告数は全国と比べかなり低いレベルである。



メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

月	患者報告数										定点あたり報告数														
	2005年 保健所別						愛媛県				全 国			2005年 保健所別						愛媛県			全 国		
	四国中央	西条	今治	松山	八幡浜	宇和島	2005	2004	2003	2005	2004	2003	四国中央	西条	今治	松山	八幡浜	宇和島	2005	2004	2003	2005	2004	2003	
1		17	1			12	30	23	13	1,903	1,846	1,701		17.00	1.00			12.00	5.00	3.83	2.17	4.05	3.95	3.65	
2		5	4	1		8	18	12	13	1,824	1,861	1,814		5.00	4.00	1.00		8.00	3.00	2.00	2.17	3.88	3.99	3.90	
3		9	1	2		11	23	27	25	2,025	1,965	1,659		9.00	1.00	2.00		11.00	3.83	4.50	4.17	4.32	4.18	3.57	
4		8		2		9	19	28	17	1,828	1,817	1,780		8.00		2.00		9.00	3.17	4.67	2.83	3.89	3.85	3.81	
5		3	4	2		10	19	29	20	1,765	1,587	1,755		3.00	4.00	2.00		10.00	3.17	4.83	3.33	3.76	3.36	3.75	
6		4	5	2		9	20	17	22	1,868	1,840	1,860		4.00	5.00	2.00		9.00	3.33	2.83	3.67	3.97	3.92	3.98	
7		3	6	4		10	23	17	25	1,771	1,764	1,852		3.00	6.00	4.00		10.00	3.83	2.83	4.17	3.77	3.76	3.95	
8		3	3	2		12	20	21	24	1,868	1,886	1,865		3.00	3.00	2.00		12.00	3.33	3.50	4.00	3.97	4.01	3.96	
9		6		3		10	19	16	26	1,705	1,758	1,797		6.00		3.00		10.00	3.17	2.67	4.33	3.64	3.74	3.82	
10		10	1	1		8	20	14	25	1,789	1,708	1,781		10.00	1.00	1.00		8.00	3.33	2.33	4.17	3.81	3.62	3.79	
11		8		1		6	15	26	17	1,787	1,763	1,692		8.00		1.00		6.00	2.50	4.33	2.83	3.81	3.74	3.60	
12		8		2		13	23	20	24	1,828	1,819	1,746		8.00		2.00		13.00	3.83	3.33	4.00	3.90	3.86	3.73	
合計		84	25	22		118	249	250	251	21,961	21,614	21,302		84.00	25.00	22.00		118.00	41.50	41.67	41.83	46.77	46.00	45.52	

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

月	患者報告数										定点あたり報告数														
	2005年 保健所別						愛媛県				全 国			2005年 保健所別						愛媛県			全 国		
	四国中央	西条	今治	松山	八幡浜	宇和島	2005	2004	2003	2005	2004	2003	四国中央	西条	今治	松山	八幡浜	宇和島	2005	2004	2003	2005	2004	2003	
1				1			1	2		552	556	580				1.00			0.17	0.33		1.17	1.19	1.24	
2			1	1			2	3	1	542	649	410			1.00	1.00			0.33	0.50	0.17	1.15	1.39	0.88	
3									1	473	627	421									0.17	1.01	1.33	0.91	
4				1			1		1	565	669	556				1.00			0.17		0.17	1.20	1.42	1.19	
5									1	629	621	692									0.17	1.34	1.32	1.48	
6								2		574	626	674									0.33	1.22	1.33	1.44	
7								1	1	437	395	450								0.17	0.93	0.84	0.96		
8				1			1		1	377	339	395				1.00			0.17	0.17	0.17	0.80	0.72	0.84	
9										286	222	382										0.61	0.47	0.81	
10				1			1			415	480	489				1.00			0.17			0.88	1.02	1.04	
11				1			1		3	615	683	634				1.00			0.17		0.50	1.31	1.45	1.35	
12				1			1	1	1	612	808	764				1.00			0.17	0.17	0.17	1.30	1.72	1.63	
合計			1	7			8	7	12	6,077	6,675	6,447			1.00	7.00			1.33	1.17	2.00	12.94	14.20	13.78	

薬剤耐性緑膿菌感染症

月	患者報告数										定点あたり報告数															
	2005年 保健所別						愛媛県				全 国			2005年 保健所別						愛媛県			全 国			
	四国中央	西条	今治	松山	八幡浜	宇和島	2005	2004	2003	2005	2004	2003	四国中央	西条	今治	松山	八幡浜	宇和島	2005	2004	2003	2005	2004	2003		
1											1	3	47	64	53							0.17	0.50	0.10	0.14	0.11
2													38	39	40									0.08	0.08	0.09
3											2		52	47	54							0.33	0.11	0.10	0.12	
4													44	59	53									0.09	0.13	0.11
5													38	41	73									0.08	0.09	0.16
6											1		49	56	58							0.17	0.10	0.12	0.12	
7											4		71	65	74							0.67	0.15	0.14	0.16	
8											4		85	80	79							0.67	0.18	0.17	0.17	
9				1			1	1	1	75	56	60							1.00	0.17	0.17	0.16	0.12	0.13		
10				2			2			68	62	82								2.00	0.33		0.14	0.13	0.17	
11									1	81	53	58										0.17	0.17	0.17	0.11	0.12
12										49	43	75												0.10	0.09	0.16
合計			3				3	3	16	697	665	759			3.00						0.50	0.50	2.67	1.48	1.42	1.62

注1)2004年、2005年の全国患者報告数及び定点あたり報告数は、各週の還元データを転記したものであり、確定値とは異なる。
注2)2005年3月までの新居浜保健所のデータは西条保健所として集計した。

2005 年 (平成 17 年) 感染症発生動向調査結果
一病原体検査結果一

2005年(平成17年)感染症発生動向調査結果 - 病原体検査結果 -

1 細菌検査状況

感染症の病原体に関する情報を収集するため、愛媛県感染症発生動向調査事業病原体検査要領に基づき、病原体検査を実施した。

(1) 全数把握対象感染症

コレラ

医療機関からコレラ疑似患者の届出を受け、TCBS 寒天培地上のコロニーから直接血清型別及びコレラ毒素遺伝子 (*ctx*) の PCR 検査を実施した。その結果、O1 多価血清と抗小川型血清にのみ凝集が見られ、また PCR 法により *ctx*陽性が確認された。常法により生化学的性状試験を実施した結果、分離株は典型的な *Vibrio cholerae* の性状を示し、生物型別試験の結果と併せて、『エルトルコレラ菌 O1 小川型コレラ毒素陽性』と同定された。

薬剤感受性試験は NCCLS の方法に準じ、アンピシリン (ABPC)、セフトキシム (CTX)、カナマイシン (KM)、ゲンタマイシン (GM)、ストレプトマイシン (SM)、テトラサイクリン (TC)、クロラムフェニコール (CP)、シプロフロキサシン (CPFX)、オーグメンチン (ABPC/CVA)、ナリジクス酸 (NA)、スルファメトキサゾール・トリメトプリム合剤 (ST) の対して 1 濃度ディスク法で、また O129 は 2 濃度ディスク法で実施し、耐性の有無を判定した。その結果、コレラ菌分離株は以上の全ての薬剤に対して感受性を示した。

また、国立感染症研究所におけるファージ型別の結果、4 型であった。

なお、詳細については病原微生物検出情報 27 (1): 7-9, 2006 及び感染症週報 7 (23): 5-6, 2005 に関連記事が掲載されている。

腸管出血性大腸菌

当所においては、保健所から送付された腸管出血性大腸菌 (EHEC) 分離株の確認検査を実施するとともに、随時国立感染症研究所 (感染研) へ菌株を送付している。感染研ではパルスフィールドゲル電気泳動法 (PFGE) による型別を実施し、全国規模の同時多発的な集団発生 “diffuse outbreak” を監視している。当所においては、分離株の生化学的性状、O 抗原及び H 抗原の血清型別、ベロ毒素 (VT) の型別に加えて、PFGE 法による遺伝子検査を実施した。また、薬剤感受性試験は上記 1 濃度ディスク法の 11 薬剤にホスホマイシン (FOM) を加えた 12 薬剤を用いて実施した。

2005 年愛媛県における EHEC 感染症の患者数は計 24 名で、過去 5 年間では 2002 年以來の少数の発生に留まった。発生状況は散発、家族内及び海外旅行同行者で、集団発生はみられなかった。分離株の O 血清型別は O157 10 株、O26 8 株、O111 2 株、O91 1 株、OUT 3 株であった。松山市内の病院検査室においてベロトキシン検査が優先的に実施された結果、O 型別不能の EHEC が検出されたため、患者の臨床診断及び感染拡大予防に非常に有意義であった。

表1 愛媛県内の腸管出血性大腸菌感染症分離株

事例番号	届出月日	保健所名	疫学情報	患者感染者		血清型		VT 型別	耐性薬剤
				総数	(無症状者再掲)	O	H		
1	2月26日	松山市	散発	1	(0)	111	-	1	ABPC・KM・SM・TC
2	3月1日	松山市	散発	1	(0)	111	-	1	ABPC・KM・SM・TC
3	3月28日	松山市	散発	1	(0)	UT	agg	1	ABPC
4	3月28日	松山市	家族内	2	(0)	157	7	1,2	ABPC
5	6月20日	西条	散発	1	(1)	157	7	2	-
6	8月4日	松山市	散発	1	(0)	157	7	2	-
7	8月9日	松山市	散発	1	(0)	157	7	2	-
8	8月10日	四国中央	散発	1	(0)	157	7	2	SM
9	8月17日	宇和島	散発	1	(0)	157	7	2	-
10	8月17～20日	松山市	家族内	2	(1)	26	11	1	ABPC・SM・ABPC/CVA
11	8月22～29日	西条・松山市	家族内	4	(2)	26	11	1	ABPC・SM・ABPC/CVA
12	8月22日	宇和島	散発	1	(0)	26	11	1	-
13	8月25日	松山市	散発	1	(0)	26	11	1	ABPC・SM・ABPC/CVA
14	8月25～28日	松山市	家族内	2	(0)	157	7	1,2	ABPC・SM
15	10月15日	松山市	散発	1	(1)	91	14	1,2	-
16	11月14～18日	松山市	旅行同行者	2	(1)	UT	21	2	-
17	12月1日	松山市	散発	1	(0)	157	7	1,2	ABPC
				24	(5)				

NT:検査せず UT:型別不能

O157では、県内の事例間で関連性を示す結果は見られなかったものの、国立感染症研究所における PFGE の結果、事例 4 の分離株は、2005 年 4 月大阪府での散発事例由来株の示すパターンと、また、事例 14 の父親の分離株は、2004 年 11 月；東京都、12 月；岐阜県、2005 年 5 月；福岡県、6 月；宮崎県での散発事例由来株の示すパターンとそれぞれ一致していた。

2 月末には O111 : H - の事例が 2 例連続して発生した（事例 1、2）。この分離株の PFGE 法によるパターンと耐性薬剤が一致し、さらに 2 例とも *Campylobacter* (*C.*) *jejuni* が同時に検出されていた。

次に O26 : H11 は 8 月中旬から月末にかけて 4 事例 8 名の患者発生があった。PFGE 型別の結果、事例 12 を除いて事例 10、11、13 由来の分離株のパターンが全て一致した。3 事例に共通する感染原因は不明である。

また、事例 16 はオーストラリア旅行の同行者が感染した事例で、起因菌は O157:H21 (VT2 陽性) であった。

薬剤感受性試験の結果は、アンピシリン、ストレプトマイシン、テトラサイクリン等の単剤あるいは多剤耐性菌が半数以上みられたが、ホスホマイシン、ニューキノロン系等の第一選択薬剤に対する耐性は認められず、昨年と同様の傾向であった。

(2) 定点把握対象感染症

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

咽頭ぬぐい液から SEB 培地で増菌後、羊血液寒天培地で分離を行なった。溶血を認めた集落について、溶血性レンサ球菌（溶レン菌）の同定検査及び群別試験を実施した。A 群と同定された菌株については、市販免疫血清により 19 種の T 型を決定した。

2005 年には県下 3 地域の病原体定点で採取された 45 検体の咽頭ぬぐい液について分離培養を実施した。その結果、A 群溶レン菌は 12 件分離され、T 型別では、12 型が 6 株と最も多く半数を占め、その他 4 型等も分離された。その傾向はほぼ昨年と同様であった（表 2）。

月別分離状況を表 3 に示した。5 月から 7 月の分離数が多く、血清型別では 12 型の占める割合が高かったことから、この時期の松山地区における患者数増加の主原因であると推察された。

表2 地区別溶血レンサ球菌分離状況

血清型別	今治	松山市	八幡浜	計	%
T- 4		1	1	2	(16.7)
T- 12		6		6	(50.0)
A 群 T- 25	1			1	(8.3)
T- 28		1		1	(8.3)
T- B3264		1		1	(8.3)
型別不能		1		1	(8.3)
計	1	10	1	12	
検査数	2	3	1	45	

表3 月別溶血レンサ球菌分離状況

血清型別	月												計	%	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
T- 4	2													2	(16.7)
A 群 T- 12	1				1	1	1						2	6	(50.0)
T- 25							1							1	(8.3)
T- 28						1								1	(8.3)
T- B 3264													1	1	(8.3)
型別不能			1											1	(8.3)
計	3	0	1	0	1	2	2	0	0	0	0	3	12		
検査数	8	1	2	1	1	3	7	2	2	8	5	5	45		

感染性胃腸炎

検査対象病原体は主として赤痢菌、病原大腸菌、サルモネラ属菌、病原性ビブリオ及びカンピロバクターとし、通常 4 種類の選択分離培地上に発育した典型的な集落を釣菌し、生化学的性状試験及び血清学的試験により同定した。2004 年から EHEC の迅速かつ確実な検出を目的として、大腸菌の VT スクリーニング試験を開始した。また、大腸菌は市販免疫血清で血清型別を実施した後、各種の病原因子に関する遺伝子増幅検査(PCR法)により、EHEC、腸管侵入性大腸菌(EIEC)、腸管毒素原性大腸菌(ETEC)及び病原血清型大腸菌(EPEC)に分類した。

2005 年の病原細菌検出状況を表 4 に示す。小児を中心に 470 検体の糞便について病原菌検索を試みた。その結果、カンピロバクター 28 株、病原大腸菌 5 株、サルモネラ属菌が 4 株分離された。病原菌はほぼ年間を通じて分離されたが、6 月から 10 月の分離数が多く、夏季の感染性胃腸炎の主要原因であったことが示唆された。

大腸菌については 4 種類の腸管付着因子に關与する遺伝子(*eaeA*, *astA*, *aggR*, *bfpA*)の PCR の結果、複数陽性株を含めて、*astA* が 4 株、*eaeA* が 1 株、*aggR* が 1 株から検出された。

また、カンピロバクターは、生化学的性状試験により 28 株全て *C.jejuni* と同定され、夏季を中心に小児の感染性胃腸炎の主要な病原菌であったことが推察された。市販のカンピロバクター免疫血清(デンカ生研)を用いて Penner による易熱性抗原の血清型別を実施した結果、型別が判明した 21 株は O 群 7 株、D 群 4 株、B 群 3 株、Y 群 3 株、G 群 1 株、I 群 1 株、J 群 1 株、R 群 1 株に群別され、O 群の検出割合が高かった。

その他、赤痢菌、病原ビブリオ等は分離されなかった。

表4 感染性胃腸炎患者からの病原細菌月別検出状況

病原細菌		月												計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
病原血清型大腸菌	O1										1			1
	O25							1						1
	O26											1		1
	O55							1						1
	O126									1				1
	小計	0	0	0	0	0	0	2	0	1	1	1	0	5
<i>Campylobacter jejuni</i>		0	1	1	2	2	5	4	3	3	4	2	1	28
<i>Salmonella</i> Virchow		0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
<i>Salmonella</i> Infantis		0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	3*
計		0	1	2	2	2	5	6	4	6	5	3	1	34
検査検体数		31	42	37	23	37	40	42	44	48	35	30	61	470

* *S. Infantis* 3例は同一家族内感染

2 ウイルス検査状況

愛媛県感染症発生動向調査事業実施要綱に定められた指定届出機関のうち、病原体定点はインフルエンザ定点 12（内科 4、小児科 8）、小児科定点 8、基幹定点 6、眼科定点 2 の医療機関が設定されている。病原体検査対象疾患のうち、ウイルス性疾患はインフルエンザ定点のインフルエンザ、小児科定点では咽頭結膜熱、感染性胃腸炎、手足口病、ヘルパンギーナ、麻疹、流行性耳下腺炎、眼科定点では流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、基幹定点では無菌性髄膜炎、成人麻疹である。これらの医療機関から、病原体検査要領に基づいて採取された検体について、ウイルス学的検査を実施した。

検査材料：2005 年 1 月から 12 月の間に採取された臨床材料について、ウイルス培養用には輸送培地として 0.2%ウシ血清アルブミン加 VIB 培地を必要に応じて用い、検体は検査に供するまでは - 80 で保存した。感染性胃腸炎患者便は、密閉容器に採取され搬入されたものを検体とし、検査に供するまでは - 30 で保存した。

検査方法：ウイルス培養には FL、RD-18 s、Vero 細胞を常用し、インフルエンザ流行期には MDCK 細胞を併用した。また、夏季の急性気道疾患患者検体の一部は、哺乳マウスによるウイルス分離を行った。感染性胃腸炎起因ウイルス検索には、電子顕微鏡法（EM）、RT-PCR 法、リアルタイム PCR 法を実施した。EM で検出されたロタウイルスは、イムノクロマト法（第一化学）および SDS-PAGE 法で群別し、アストロウイルスは ELISA 法による血清型別を行った。ノロウイルス（NV）遺伝子の検出には、COGF/R プライマーと RINGTaqMan プロブを用いた、影山らのリアルタイム PCR 法を実施した。サボウイルス（SV）遺伝子の検出は、岡田らの SV 系プライマー（1st SV-F1/R1、nested SV-F21/R2）を用いた nested PCR を行った。

(1) 病原体定点種類別検体数

2005 年に、病原体定点から受付した検体数は 1,330 件で、病原体定点種類別診断名別の受付状況を表 1 に示した。

インフルエンザ定点からの検体数は 82 件で、内科定点から 21 件、小児科定点から 61 件と約 74%が小児科定点からの検体であった。小児科定点対象疾患では感染性胃腸炎が最も多く 525、流行性耳下腺炎 49、手足口病 37、ヘルパンギーナ 28、咽頭結膜熱 8 件であった。眼科定点対象疾患では流行性角結膜炎 7 件、基幹定点対象疾患では無菌性髄膜炎 13 件であった。年間を通して検体採取のなかった医療機関はインフルエンザ定点 3、小児科定点 2、基幹定点 4、眼科定点 1 施設であった。

2005 年に流行のみられた疾患であるインフルエンザ、咽頭結膜熱、感染性胃腸炎、手足口病、ヘルパンギーナなどにおいて、それぞれの主要原因と推測されるウイルスを検出して特定することが可能であった。またその他の疾患でも、それぞれの検体からウイルスを検出して、患者情報の裏付けをすることができた。サーベイランスの対象疾患に該当しない診断名である下気道炎、上気道炎、熱性疾患（不明熱）、不明発疹症などの検体数がかなりの比重を占めているが、これらの検体からもその年に流行しているウイルスが高率に検出されており、各種疾患の発生動向をみる上で、貴重な病原体情報を得ることができた。採取検体数は概ね、一年間に流行する疾患の動向を捉えるのに必要なだけの採取協力が得られていると考えられたが、医療機関ごと、地域ごとに見ると検体数に差がみられており、県内の全地区から検体が採取されるならば、対象とする疾患の地域的な流行が、より確実に把握することができるものと期待される。

表 1 定点医療機関からの臨床診断名別検体受付状況 (2005年)

保健所名	種 別	インフルエンザ	インフルエンザ様疾患	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	水痘	流行性耳下腺炎	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	下気道炎	上気道炎	血小板減少性紫斑病	出血性膀胱炎	不明熱	不明発疹症	突発性発疹	その他	不明・記載なし	合 計
四国中央	小児科	2	2	3	3	4	5	1	3				1					3	6		33
	基幹																				0
西 条	インフルエンザ	18	3																		21
	小児科	24	1	5	36	20	18		5	4		6	20		2	2	3	1	3		150
	基幹																				0
今 治	小児科	24			15	1	1		39												80
	眼科									3			1								4
	基幹																				0
松 山	インフルエンザ																				0
	小児科	5	2																		7
	基幹																				0
八 幡 浜	インフルエンザ																				0
	小児科	1				2	2														5
	基幹										5										5
宇 和 島	小児科																				0
	基幹										8								3		11
松 山 市	インフルエンザ																				0
	小児科				471	10	2		2			134	103	1	261	16	1	5	8		1014
	小児科																				0
	眼科																				0
合 計		74	8	8	525	37	28	1	49	7	13	140	125	1	2	263	19	5	17	8	1330

(2) 気道感染症等由来検体からの検出

細胞培養による月別ウイルス検出状況を表 2 に、臨床診断名別ウイルス検出状況を表 3 に示した。951 検体（定点外医療機関の検体 146 件も含む）の分離培養によって、350 株のウイルスが検出された（検出率 36.8%）。

インフルエンザウイルス：1 月～6 月および 12 月に検出され、A 香港型（AH3）が 1～6 月及び 12 月に 57 株、B 型が 1 月～4 月に 49 株分離された。本年の流行シーズン（2004/2005 シーズン）は AH3 と B 型との混合流行となり、過去 10 シーズン中 3 番目に大きい規模の流行であった。AH3 は、インフルエンザ（インフルエンザ様疾患を含む）検体からの検出が 46 株と大多数を占めたが、下気道炎、上気道炎、熱性疾患等からも 11 株が検出された。同様に B 型では、インフルエンザから 33 株、下気道炎、上気道炎、熱性疾患等から 16 株が検出された。分離株 AH3 の抗原性は、2004/2005 シーズンのワクチン株（A/ワイオミング 03/2003）

表 2 細胞培養による月別ウイルス検出状況（2005年）

ウイルス型		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
コクサッキーA群	5 型								2		1	1		4
	6 型		1	8	6	4	2	10						31
	9 型							1			4	1		6
	10 型										4	2	1	7
	16 型	1			2	1	1		1	2	7	3		18
コクサッキーB群	3 型							4	1	2	1			8
エコー	3 型			1										1
	6 型	1	1											2
	9 型								1					1
ポリオ	1 型				1		1							2
	2 型					1					1	1		3
	3 型							1	1					2
インフルエンザ	AH3	2	13	20	14	3	1						4	57
	B	3	22	19	5									49
RS		7		2			1	1	1	2	6	4	5	29
ムンプス		1	1	1	2	1	6	9	6	1	1	6	7	42
ライノ										1	1	1		3
ライノ様ウイルス			1		1	3								5
アデノ	1 型			1		2	2						1	6
	2 型	2			1	1	5	3	2	1		1	1	17
	3 型	1						3	7	4	3	11	6	35
	5 型			1	1	3	5	1						11
	6 型												1	1
	11 型								1					1
	37 型									1				1
	NT				1									1
単純ヘルペス	1 型			1		2		1					1	5
エンテロ様ウイルス												1	1	2
合計		18	39	54	34	21	24	34	23	14	29	32	28	350
検査数		70	77	99	101	88	71	89	77	58	71	89	61	951

の HI 抗体価との差で見ると、その大半が 1 管差以内であったが、流行の後半に分離された株では、2 管差以上の抗原変異を示す株が増える傾向があった。また、B 型の抗原性は、山形系統のワクチン株 (B/上海/36/2002) との HI 抗体価の差がほとんど 1 管差以内で、抗原性の変化の少ない類似株が多かった。年末に分離した AH3 型 4 株は、2005/2006 シーズンのワクチン株 (A/ニューヨーク/55/2004) と類似株であった。

RS ウイルス：例年は、インフルエンザシーズンに相前後して分離されてきたが、本年は 1～3 月に 9 株、6～8 月に 3 株、9～12 月に 17 株と、冬季の検出が多いものの昨年に続き夏季においても検出がみられ、検出されなかったのは 2、4、5 月のみであった。

ムンプスウイルス：流行性耳下腺炎は、3～4 年の周期で流行が繰り返されており、本年は

表 3 臨床診断名別ウイルス検出状況 (2005年)

ウイルス型		インフルエンザ	インフルエンザ様疾患	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	下気道炎	上気道炎	出血性膀胱炎	腸重積症	熱性けいれん	不明熱	不明発疹症	その他	不明・記載なし	合計
コクサッキー A 群	5 型						3											1		4
	6 型					4	8				2	4			1	11	1			31
	9 型			1												3	2			6
	10 型						3									2		1	1	7
	16 型					16									1	1				18
コクサッキー B 群	3 型									1	1	1				5				8
エコー	3 型																	1		1
	6 型						1					1								2
	9 型																1			1
ポリオ	1 型													1		1				2
	2 型				3															3
	3 型																1	1		2
インフルエンザ	AH3	45	1								2	1				7		1		57
	B	29	4				1				7	2				6				49
RS		1				1					15	3				6		2	1	29
ムンプス								35		3		2				2				42
ライノ											2	1								3
ライノ様ウイルス											2	2				1				5
アデノ	1 型										3	1		1		1				6
	2 型						1				2	6				8				17
	3 型			7			1		4			11				11		1		35
	5 型										3	3				5				11
	6 型															1				1
	11 型												1							1
	37 型								1											1
	NT															1				1
単純ヘルペス	1 型									1						4				5
エンテロ様ウイルス							1			1										2
合計		75	5	8	3	21	18	36	5	4	41	38	1	2	2	76	5	8	2	350

流行期に入って患者数が大幅に増加したため、原因ウイルスが昨年より多い42株分離された。これらのうち3株は、無菌性髄膜炎（AM）の咽頭ぬぐい液（2歳、4歳、6歳いずれも男児）からの検出であった。

ライノ、ライノ様ウイルス：2～5月にライノ様ウイルス5株、9～11月にライノウイルス3株が上・下気道炎、不明熱から検出された。

エンテロウイルス：エンテロウイルスは、例年夏季を中心として流行が見られ、小児における急性気道疾患の重要な原因ウイルスとなっている。

手足口病の起因ウイルスであるコクサッキーウイルス（C）A16型は、1月及び4～11月と長期間にわたって18株（手足口病16株、熱性疾患2株）が分離された。また、手足口病からCA6型も4株分離されており、このうちの1株は水疱内容物からの検出であったことより、本年の手足口病流行の原因ウイルスの1つと考えられた。本年の手足口病の流行は中規模であったが、流行前半にはCA6型、後半にはCA16型が主流となり、流行ピークが全国平均より2ヶ月遅れて晩秋まで遷延する傾向がみられた。

ヘルパンギーナからは、CA6型が8株、CA10が3株、CA5が3株分離され、本年のヘルパンギーナはCA6を主流としてCA10、CA5の3種のウイルスによる流行であったと考えられた。例年より2ヶ月早く流行が始まり前半はほとんどがCA6、後半はCA10とCA5による2峰性の流行を示した。ヘルパンギーナ以外の熱性疾患、上・下気道炎等からもCA10が4株、CA5が1株、CA9が6株分離されており、初春から晩秋にわたりCA6を主流として、多様なCA群の流行が認められた。

その他のエンテロウイルスは、主として夏季における気道感染症、発疹症、熱性疾患から7～10月にCB3型8株、1～3月と8月にエコーウイルス（E）4株（3型1、6型2、9型1株）が検出された。これらのうちAMから検出されたのは、CB3型1株（生後1ヶ月乳児）であった。ポリオウイルスは、胃腸炎症状等の6例から7株（1型2、2型3、3型2株）検出されたが、いずれもポリオ生ワクチン接種後の検体であったことが確認された。7、8月に検出された2株は、同一人から分離されたもので、生ワクチン由来株であることが確認されている。

アデノウイルス（Ad）：Adで多く検出されたのは3型35株、2型17株、5型11株、1型6株であった。Ad3型は、咽頭結膜熱の流行規模が大きかったため、患者数の増加時期・地域に相応して、8月及び11月に検出のピークが見られ、流行の主要因と考えられた。Adは、概して上・下気道炎や熱性疾患からの検出が多く、血清型も多様であったが、特徴的な診断名別の検出として、咽頭結膜熱からAd3型7株、流行性角結膜炎からAd37型1株、腸重積からAd1型1株、出血性膀胱炎からAd11型1株が分離された。

ヒト単純ヘルペス - 1型（HSV-1）：年間通して、主に熱性疾患から5株が検出された。

検体種類別ウイルス検出数：臨床検体951件の検体種類別のウイルス検出数を表4に示した。呼吸器からの検体が最も多く、咽頭ぬぐい液780件、鼻汁69件で、これらの検体から検出されたウイルスはそれぞれ276株（検出率35.4%）、54株（78.3%）であった。インフルエンザ、RSウイルスは、鼻汁から高率に検出されており、これらのウイルスを検出するためには、鼻汁がより適した検体であると考えられた。

髄液を採取された症例は、AM22、脳炎6、不明熱3、痙攣3、脳脊髄炎1、その他1例、計36例で、検出されたウイルスはムンプス1株、CB3型1株と他の検体に比較して髄液からのウイルス分離率はかなり低率であった。AM患者からの検体採取にあたっては、髄液のみでなく他の検体（便、咽頭ぬぐい液など）も同時に採取して検査する必要があると考えられた。

皮膚病巣（水疱内容物）からの検体は、手足口病患者から採取された 6 検体のみであったが、起因ウイルス CA16 型 2 株及び CA6 型 1 株が検出された。病巣からのウイルス検出率は高く、直接診断に結びつく点でも非常に有用な検体である。

眼科検体では、結膜擦過物 8 検体中 Ad3 型が 3 株、Ad37 型 1 株が検出された。尿 13 検体からは、疾患（出血性膀胱炎）に特徴的な原因ウイルス Ad11 型が 1 株検出された。

表 4 臨床材料別ウイルス検出状況（2005年）

臨床材料別		咽頭ぬぐい液 (うがい液・唾液)	咽頭ぬぐい液 (鼻汁)	髄液	便 (直腸ぬぐい液)	皮膚病巣 (水疱内容物)	結膜擦過物 (結膜ぬぐい液)	尿	合計
検体数		780	69	36	39	6	8	13	951
検出数		276	54	2	10	3	4	1	350
検出率 (%)		35.4	78.3	5.6	25.6	50.0	50.0	7.7	36.8
コクサッキーA群	5型	4							4
	6型	29	1			1			31
	9型	6							6
	10型	6	1						7
	16型	16				2			18
コクサッキーB群	3型	6		1	1				8
エコー	3型	1							1
	6型	2							2
	9型	1							1
ポリオ	1型	1			1				2
	2型				3				3
	3型				2				2
インフルエンザ	AH3	34	23						57
	B	31	18						49
RS		23	6						29
ムンプス		41		1					42
ライノ		2	1						3
ライノ様ウイルス		3	2						5
アデノ	1型	5			1				6
	2型	16			1				17
	3型	29	2		1		3		35
	5型	11							11
	6型	1							1
	11型							1	1
	37型						1		1
	NT	1							1
単純ヘルペス	1型	5							5
エンテロ様ウイルス		2							2

週別ウイルス検出数：2005年に、流行の見られた疾患からの、週別ウイルス検出数を図1と図2に示した。図1には、2004/2005シーズンのインフルエンザ患者数と、ウイルス検出数の推移を示した。患者数の増減とウイルス検出数はよく連動して推移し、本シーズンは流行の始めはB型がやや優勢に検出されたものの、ほとんど同時期にAH3も検出され、混合流行となったが、流行の終盤にはA型のみを検出となった。検出ウイルスは、患者数が増加傾向を示した第4週から、ほとんど流行が終息した23週までにAH3が53株、B型が49株検出された。

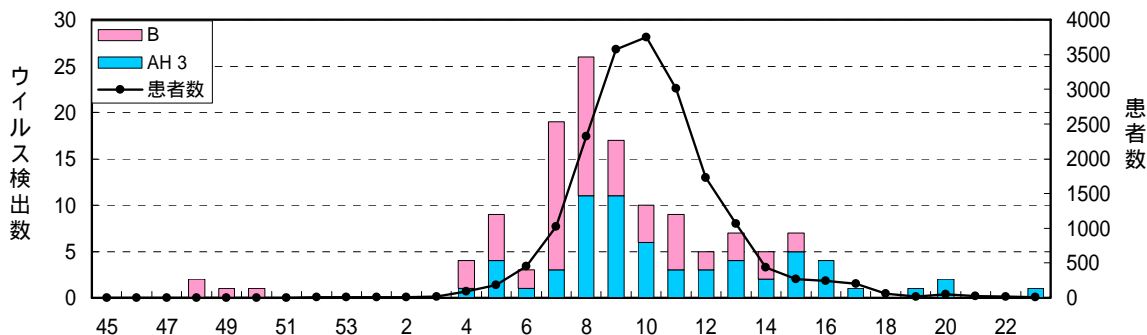


図1 週別の患者発生数とインフルエンザウイルス検出数の推移 (2004/2005シーズン)

図2は手足口病、ヘルパンギーナ、AM等の起因ウイルスとなった各種エンテロウイルス、および咽頭結膜熱を含む気道疾患等から検出されたウイルスの、週別検出数を示した。それぞれの患者数の増加に伴って、対応するウイルスが検出された。ヘルパンギーナ流行における、大きい患者ピークの形成の主要原因はCA6であったが、流行の終わり頃(第36~41週)の患者数の増加には、CA10、CA5が関与したことが推測された。手足口病は、第50週ころまで患者発生が遷延してみられたが、それに伴ってCA16も46週まで検出された。

CB群は第29~40週に3型のみ流行が確認されたが、AMの髄液から1株検出されたことから、今夏のAM起因ウイルスの1つであったと考えられた。Eは、このところ数年冬季にも流行が見られるようになり、気道疾患、熱性疾患の病因ウイルスとして検出された。ムンプスは、流行期に入って患者数が大幅に増加したため、例年より多い42株が年間を通して検出された。第21~35週、42~50週に検出数が多いのは、この時期東予地域で患者数が増加し、その地域の定点からの検体が多かったためである。冬季に流行するRSウイルスは、インフルエンザウイルスと競合する時期の検出数は少なく、1~4週と39週以降に多く検出されたが、昨年同様夏季にも少数ながら検出がみられた。アデノウイルスは、夏季には5型を中心に、2型、1型が多く検出されたが、28~39週と42~49週には3型の検出が増加した。3型の増加は、それぞれ中予地域と東予地域における咽頭結膜熱患者の増加を反映していた。

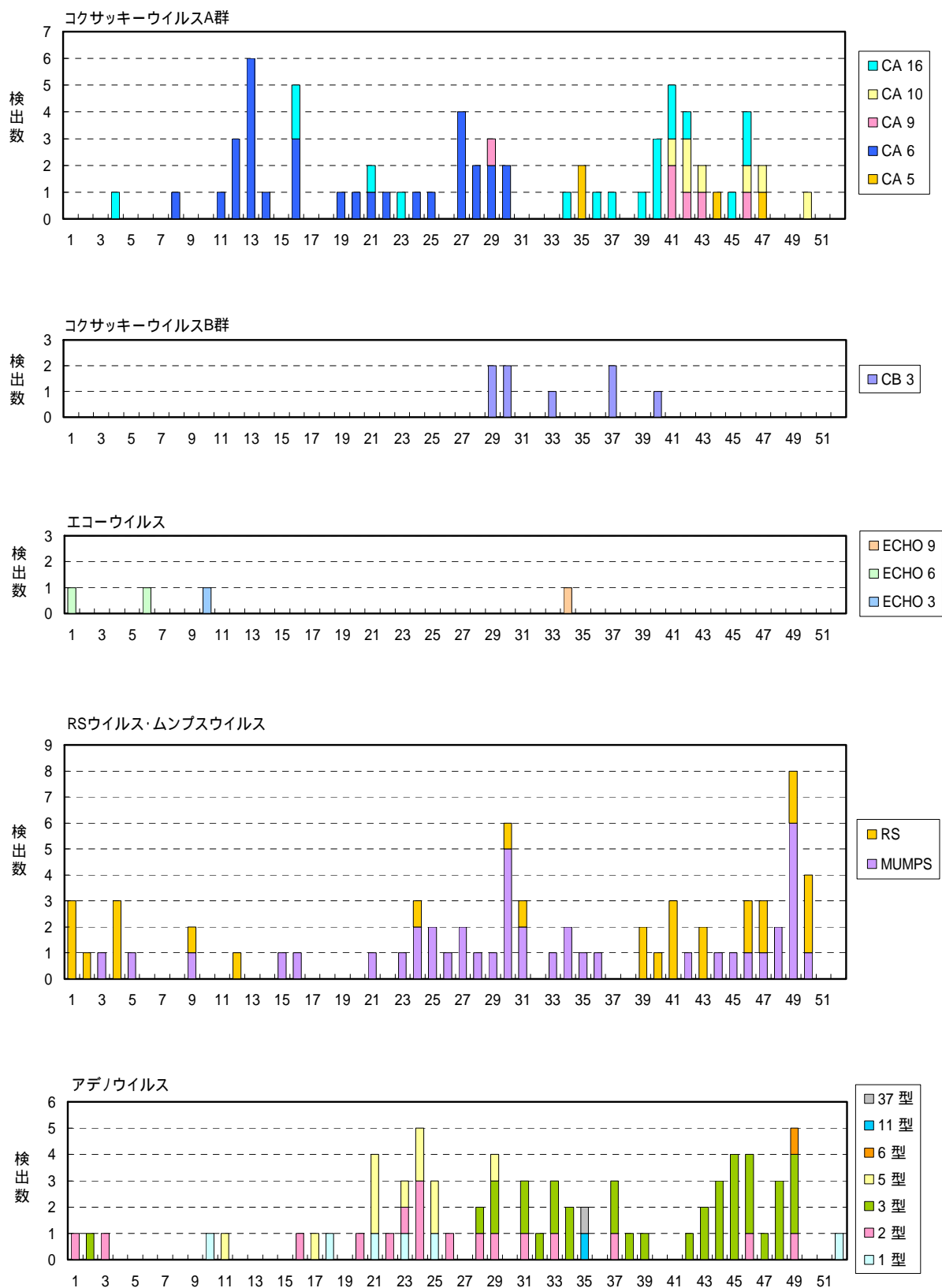


図2 週別ウイルス検出数

年齢別ウイルス検出数：インフルエンザウイルスの年齢別検出数を表5に示した。AH3の検出57株のうち、4歳以下の乳幼児が最も多く17株で29.8%を占め、次いで5～9歳12株21.1%、40歳以上10株17.5%、10～14歳6株10.5%の順であった。20歳以上の検出数は21株36.8%で、インフルエンザ内科定点からの検体数の割合が昨年より増加した。B型の49株では、5～9歳が27株55.1%で最も多く、次いで0～4歳14株28.6%と、この2つの年齢層でほとんどを占めた。0～4歳における検出株は、AH3、B型ともインフルエンザ以外の診断名からの検出が多かった。

表5 インフルエンザウイルスの年齢別検出数(2005年)

年齢区分	A 香港型						B 型						
	検出数	インフル エンザ	インフル エンザ様 疾患	下気道炎	上気道炎	不明熱	検出数	インフル エンザ	インフル エンザ様 疾患	ヘルパン ギ-ナ	下気道炎	上気道炎	不明熱
0～4	17	7	1	2	1	6	14	3		1	5		5
5～9	12	11		1			27	20	3		2	1	1
10～14	6	6					2	2					
15～19	1	1											
20～29	4	3				1	3	2	1				
30～39	7	7											
40	10	10					3	2				1	
合計	57	45	1	3	1	7	49	29	4	1	7	2	6

表6にはエンテロウイルス(CA、CB、E)、RSウイルスおよびアデノウイルスの年齢別検出数を示した。ヘルパンギーナの主要原因であり、手足口病からも検出されたCA6は、1～4歳が約71%を占めたものの、乳児から学童期までの比較的広い年齢層でみられた。同様にCA5、CA9、CA10においても、1～4歳を中心に乳児から9歳の学童期までの比較的広い年齢層でみられた。CA16は、1～2歳を中心とし6歳未満がほとんどであったが、10歳代でも検出された。CBおよびEの検出は2歳以下が大半であったが、3～6歳にもみられた。これらのうち、AMの発症例はCB3型による1例(生後1ヶ月児)であった。RSウイルス29株では、1歳未満が11株37.9%、1～2歳が13株44.8%と2歳以下が約83%を占めていた。咽頭結膜熱の主要原因であったAd3型では、1～6歳の検出がほとんどであり、患者の年齢分布とほぼ一致した結果であった。乳児および若年幼児層における、気道感染症の要因としてインフルエンザを含め、エンテロウイルス、RSウイルスおよびアデノウイルスの重要性が示された。

表6 エンテロウイルス等の年齢別検出数(2005年)

年齢区分	コクサッキーウイルス						エコーウイルス			RS ウイルス	アデノウイル ス 3
	CA 5	CA 6	CA 9	CA 10	CA 16	CB 3	ECHO 3	ECHO 6	ECHO 9		
< 1	1	2	1	1	1	3	1		1	11	
1～2	2	16	2	1	9	3		1		13	13
3～4		6	2	4	3			1		4	10
5～6	1	4	1		3	2					9
7～9		2		1						1	3
10～19		1			1						
合計	4	31	6	7	17	8	1	2	1	29	35

(3) 感染性胃腸炎からの検出

表 7 と図 3 に、感染性胃腸炎患者 534 例（定点外医療機関の検体 9 例を含む）から、EM および PCR で検出したウイルス 247 例（検出率 46.3%）の月別検出数を、また図 4 には検出された各ウイルスの月別検出率を、図 5 には検出ウイルスの年齢分布をそれぞれに示した。

感染性胃腸炎からのウイルス検出状況：本年の検出ウイルス数は、NV が 128 例（G1-26、G2-102）と検出割合が最も多く（51.8%）、ついで SV の 58 例（23.5%）、ロタの 45 例（A 群 44、NT1）（18.2%）、アデノ 9 例（3.6%）、アストロ 7 例（2.8%）であった。本年は、SV の検出数が昨年より大幅に増加したが、NV、ロタ、アデノ、アストロはほぼ前年なみの検出であった。図 3、図 4 の胃腸炎からの月別ウイルス検出数・検出率の増減は、感染性胃腸炎患者数の増減とよく一致しており、検出されたこれらのウイルスが、冬季を中心とする感染性胃腸炎患者多発の要因となったことが明らかであった。

NV は、1 月および 11、12 月に集中して多く検出されているものの、6、7 月を除いた夏季も含めて長期に渡って検出され、感染性胃腸炎の主要原因ウイルスであった。ロタは 1～5 月に検出され、特に 2～3 月が多かった。SV は、2～7 月および冬季の 11、12 月に検出された。アストロは 4 月、9 月、11 月に各 1 例、12 月には 4 例が検出された。アストロの血清型別は 1 型 2、5 型 3、NT2 例であった。アデノはほぼ年間を通して検出された。図 4 にみられるように、検出ウイルスはそれぞれの消長パターンを示しながら流行しており、それらの流行が重なったために、多種類のウイルスが同時に流行した結果、患者数増大に繋がった。また、4 月中旬から 7 月初旬にかけて患者数の減少が停滞し、微増傾向をみせた要因は、NV の流行に加えて SV の長期間に渡る流行と、ロタの流行が重なったことによると考えられた。流行期における各月の胃腸炎起因ウイルス検出率は、1 月 75.6、2 月 68.6、3 月 65.3、4 月 58.6、5 月 56.1、11 月 56.3、12 月 94.4% と非常に高率を示した。

表 7 感染性胃腸炎患者からのウイルス検出状況（2005年）

月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
NV G1	1	2	2	4	4					2	8	3	26
NV G2	25	7	5	1	3			5	1		4	51	102
SV		10	10	5	10	7	2				5	9	58
ロタ A	4	14	15	5	6								44
ロタ NT		1											1
アデノ	1	1		1		2	1	1	1			1	9
アストロ				1					1		1	4	7
検出数	31	35	32	17	23	9	3	6	3	2	18	68	247
検査数	41	51	49	29	41	40	42	50	50	37	32	72	534
検出率(%)	75.6	68.6	65.3	58.6	56.1	22.5	7.1	12.0	6.0	5.4	56.3	94.4	46.3

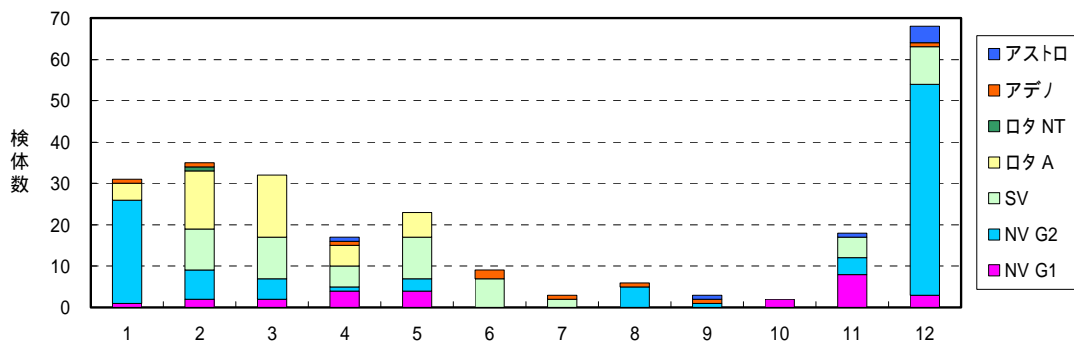


図3 感染性胃腸炎患者からのウイルス検出数

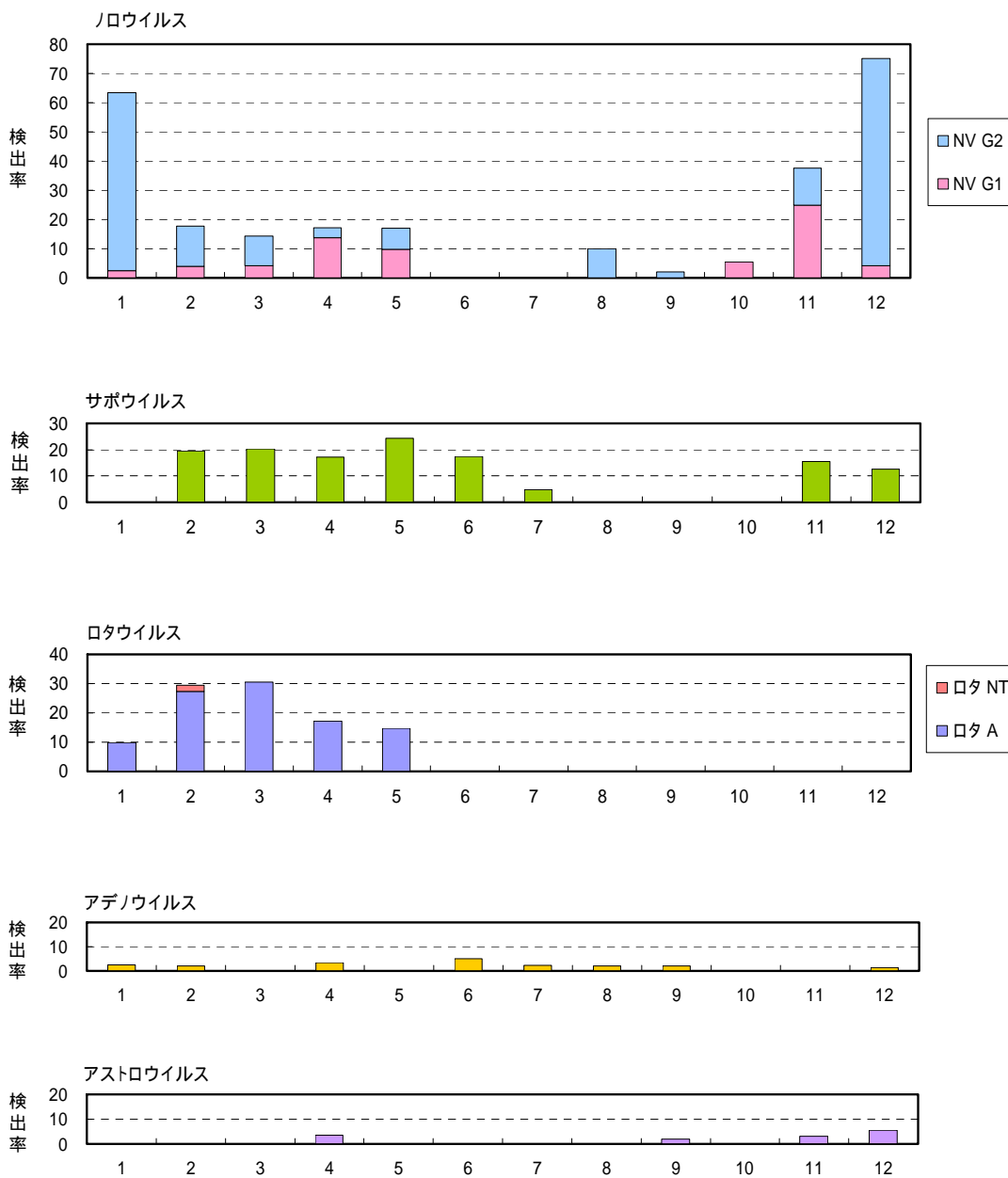


図4 感染性胃腸炎起因ウイルスの月別検出率 (2005年)

胃腸炎起因ウイルス年齢別分布：図 5 に検出ウイルスの年齢別検出割合を示した。NV は、2 歳以下で約半数を占めるが、幼児から 10 歳以上の学童期児童までの、幅広い年齢層に感染していることがうかがえた。SV は NV に比較すると、乳児での感染割合が低く、3～4 歳および 7～9 歳での割合が高かった。ロタは、乳児および 1～2 歳の検出がほとんどで、80%以上を占めた。アストロは、他のウイルスに比較して 10 歳以上の学童期の検出割合が高かった。NV、SV、アデノ、アストロの検出年齢層は、約 5～6 割が 2 歳以下の乳幼児で、特にロタ A は 2 歳以下の乳幼児の感染が 80%以上を占めており、これらはいずれも乳児および若年幼児の主要な下痢症ウイルスであるが、また学童期児童から広汎な年齢層においても、重要な胃腸炎起因ウイルスであった。

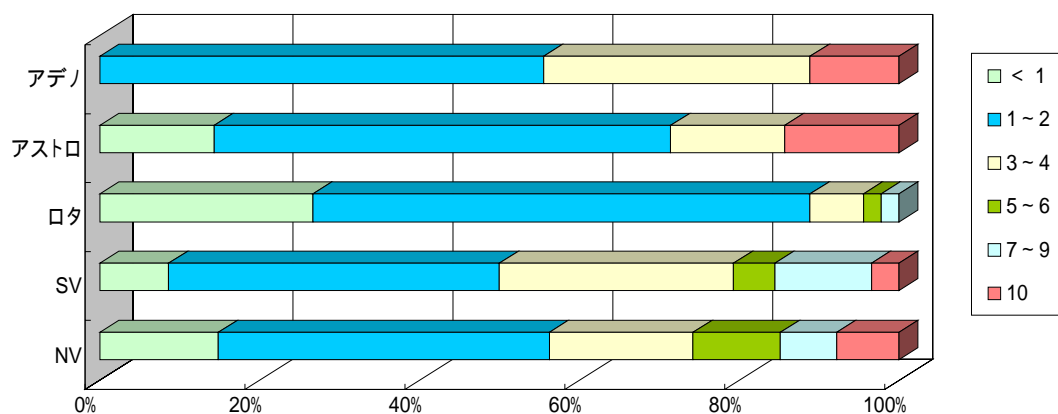


図 5 感染性胃腸炎起因ウイルス年齢別検出割合

2005 年(平成 17 年)結核発生動向調査結果
—速報値—

2005年(平成17年)結核発生動向調査結果(速報値)

1 概況

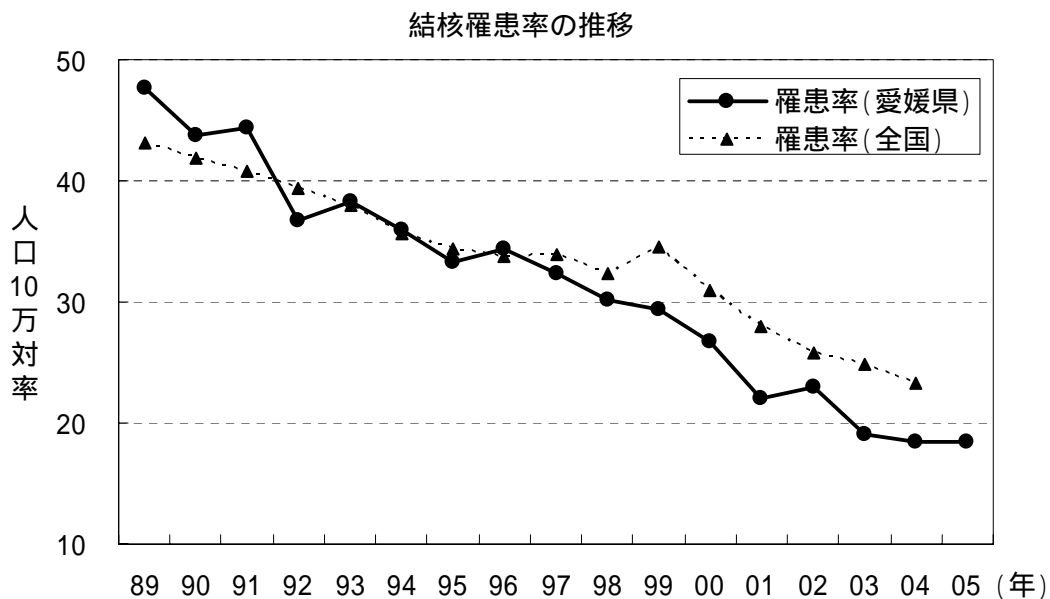
2005年の結核新登録患者及び罹患率(人口10万対率)は前年とほぼ同じであり、減少傾向がさらに鈍化している。新登録患者における高齢者(70歳以上)の割合は6割を超え、全国と比べて高齢者の占める割合が高い。排菌により感染の危険の高い喀痰塗抹陽性肺結核患者数(罹患率)は、前年に比べて20.3%増加し、特に80歳以上の高齢者を中心に増加が著しい。保健所別でみると南予の罹患率が高かった。

今回、平成17年度の保健所統廃合にあわせ、新居浜保健所のデータは西条保健所へ、大洲保健所のデータは八幡浜保健所へそれぞれ含め集計を行った。なお市町村合併による管轄変更は考慮していない。

2 新登録患者の状況

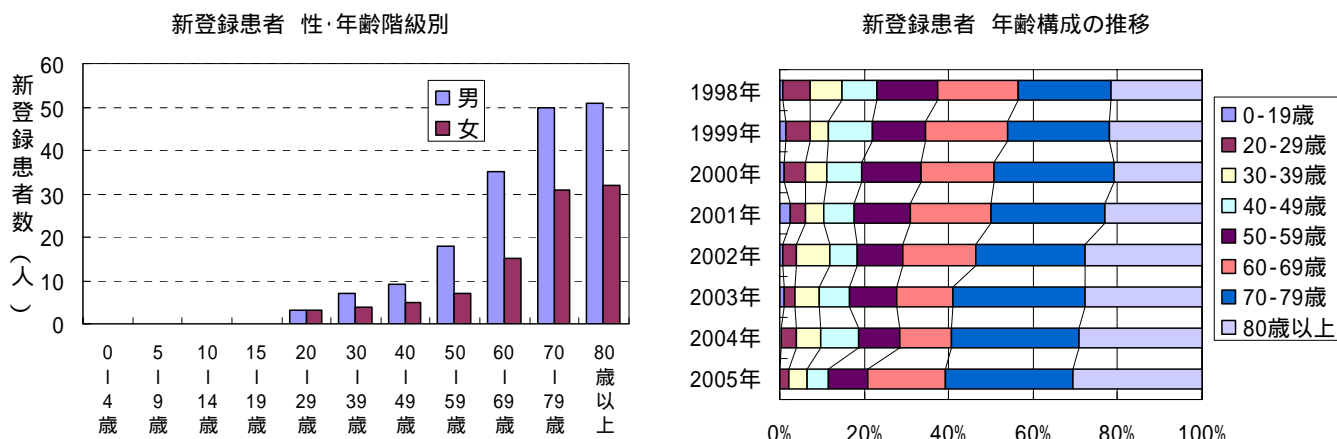
新登録患者数及び罹患率の動向

2005年に新たに結核患者として登録された患者数(新登録患者数)は270人で、前年(271人)より1人減少し、結核罹患率(人口10万人あたりの新登録患者数)は18.4となった。1997年以降全国値を下回り順調な減少傾向を示していたが、罹患率が20.0を下回った2003年以降その減少傾向に鈍化が見られており、今後の動向には十分な注意を要する。



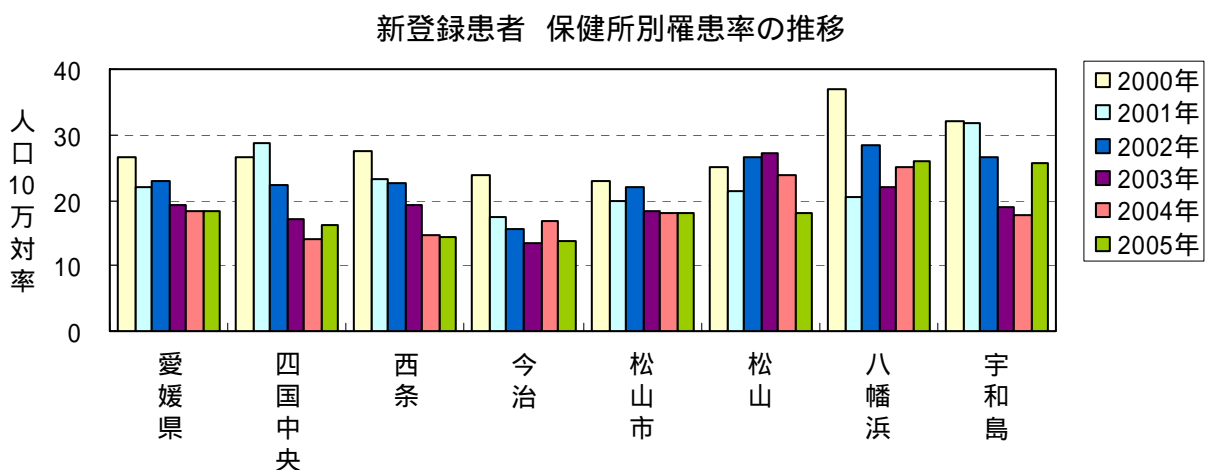
性・年齢階級別

2005年の新登録患者数を性・年齢階級別に見ると、全年齢では男性（173人）が女性（97人）よりも1.8倍多く、50歳代で最大2.6倍であった。新登録患者の高齢化が進んでおり、2005年は70歳以上が新登録患者全体の60.7%（164人）を占めた。今後この年齢層の人口が増加することから、結核の高齢化がさらに進むことが予想される。



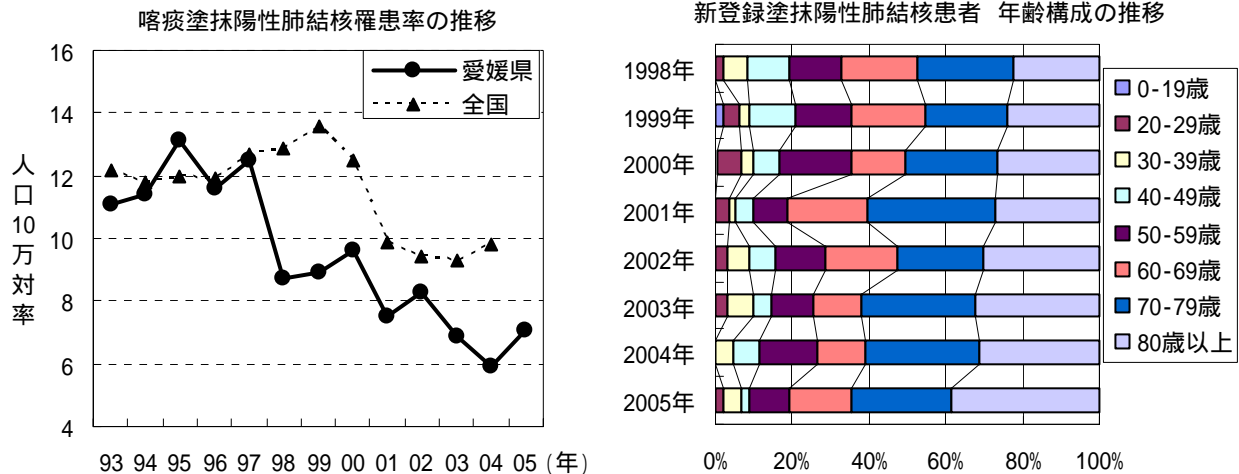
保健所別

保健所別の罹患率を比較すると、2005年の県全体の罹患率（18.4）を上回ったのは、八幡浜保健所（26.1）宇和島保健所（25.5）の南予2保健所であった。前年と比較して罹患率の増加がみられたのは宇和島保健所（+45.0%）四国中央保健所（+16.4%）及び八幡浜保健所（+4.0%）の3保健所であった。松山市保健所（+1.1%）と西条保健所（-2.7%）はほぼ横ばいで、松山保健所（-24.4%）今治保健所（-18.7%）は減少した。



喀痰塗抹陽性肺結核患者数の動向

新登録患者のうち、排菌により感染の危険の高い喀痰塗抹陽性肺結核患者数(罹患率)は2005年104人(7.1)で、前年の87人(5.9)から20.3%増加した。新登録塗抹陽性肺結核罹患率の年次推移をみると、1996年以降全国値を下回ってはいるものの増減を繰り返しており、一概に減少傾向にあるとはいえない。全国では2001年以降、減少傾向に鈍化が見られていることから愛媛県においても今後の動向に注意を要する。新登録塗抹陽性肺結核患者の年齢構成は高齢者の割合が増加する傾向にあり、2005年における70歳以上の占める割合は64.4%と前年(60.9%)に比べ増加している。高齢者の排菌患者は診断の遅れや治療の困難等の課題が多く、院内感染や他の年齢層への感染源としても重要である。



3 年末現在結核登録者の状況

2005年末の愛媛県における結核登録患者数は685人で、前年(582人)より103人増加した。結核登録率(人口10万人あたりの年末現在結核登録者)は46.7で、前年の39.4から18.5%増加し、2003年(登録率46.6)とほぼ同じであった。

また、年末現在の活動性結核患者数(年末時点で結核の治療を受けている、あるいは治療の必要がある患者数)は252人で、前年より6人増加した。有病率(人口10万人あたりの年末現在活動性結核患者数)は17.2となり、前年の16.7から3.0%増加した。

登録率及び有病率の推移をみると、1997年以前は県内の人口10万対率が全国を上回っていたが、いずれも全国値より減少率が大きく、1998年に全国並みの数値となった。その後、県内の減少率に鈍化がみられ、全国と同様に推移していたが、2005年に本県の登録率が増加に転じており、再び全国レベルに近づきつつある。

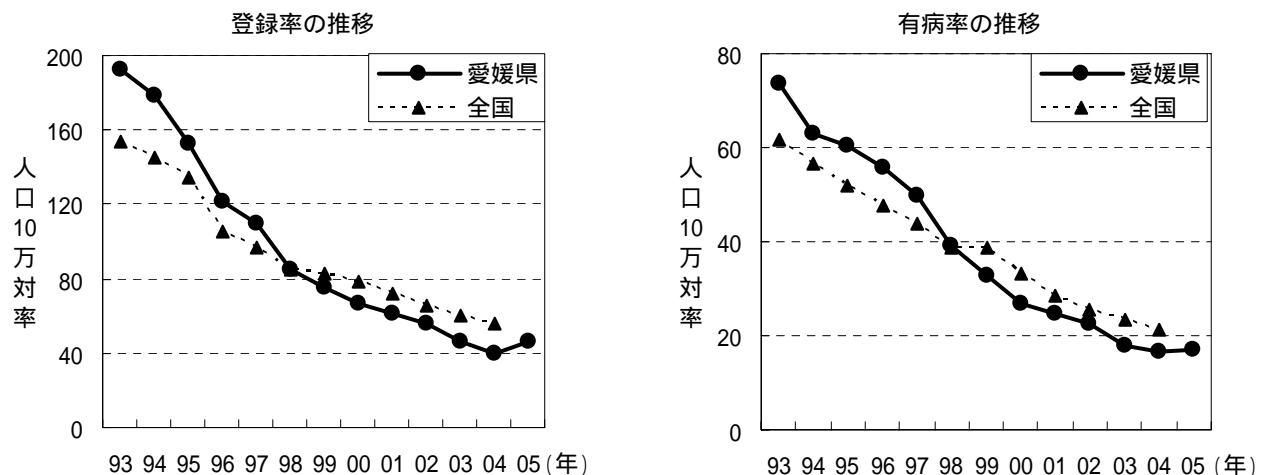


表 4-1 2005年 新登録患者数 - 登録時総合患者分類コード、保健所別 (速報値)

	活 動 性 結 核								(別掲) マル初*	(別掲) 非定型 抗酸菌 性
	総 数	肺 結 核 活 動 性						肺 外 結 核 活 動 性		
		喀 痰 塗 抹 陽 性			その他の 結 核 菌 陽 性	菌 陰 性 ・ そ の 他				
		総 数	初 回 治 療	再 治 療						
治療中	治療中									
愛媛県 総数	270	187	104	91	13	31	52	83	12	62
四国中央	15	8	7	7			1	7		1
西 条	34	30	12	12		3	15	4	1	9
今 治	25	17	12	12		1	4	8	6	2
松 山 市	93	66	39	32	7	12	15	27	4	19
松 山	25	15	5	5		2	8	10		4
八 幡 浜	44	27	16	10	6	6	5	17	1	15
宇 和 島	34	24	13	13		7	4	10		12

* マル初: 結核の感染が強く疑われ、発病予防のための治療(予防内服)を受けているもの。

表 4-2 2005年 新登録患者数 - 登録時総合患者分類コード、性、年齢階級別 (速報値)

	活 動 性 結 核								(別掲) マル初	(別掲) 非定型 抗酸菌 性
	総 数	肺 結 核 活 動 性						肺 外 結 核 活 動 性		
		喀 痰 塗 抹 陽 性			その他の 結 核 菌 陽 性	菌 陰 性 ・ そ の 他				
		総 数	初 回 治 療	再 治 療						
治療中	治療中									
愛媛県 総数	270	187	104	91	13	31	52	83	12	62
男	173	122	69	61	8	22	31	51	3	31
女	97	65	35	30	5	9	21	32	9	31
0-4歳									4	
男									2	
女									2	
5-9歳									1	
男									1	
女										
10-14歳										
男										
女										
15-19歳										
男										
女										
20-29歳	6	4	2	2			2	2	7	
男	3	1	1	1				2	1	
女	3	3	1	1			2		6	
30-39歳	11	8	5	5		1	2	3	-	
男	7	5	4	4			1	2		
女	4	3	1	1		1	1	1		
40-49歳	14	10	2	2		1	7	4	-	2
男	9	6	1	1			5	3		1
女	5	4	1	1		1	2	1		1
50-59歳	25	21	11	10	1	2	8	4	-	7
男	18	15	10	9	1	2	3	3		5
女	7	6	1	1			5	1		2
60-69歳	50	34	17	14	3	7	10	16	-	15
男	35	27	14	13	1	6	7	8		8
女	15	7	3	1	2	1	3	8		7
70-79歳	81	50	27	24	3	9	14	31	-	26
男	50	34	19	17	2	6	9	16		12
女	31	16	8	7	1	3	5	15		14
80歳以上	83	60	40	34	6	11	9	23	-	12
男	51	34	20	16	4	8	6	17		5
女	32	26	20	18	2	3	3	6		7

表 4-3 新登録結核患者数及び罹患率の年次推移 - 保健所別

保健所	2005年(速報)		2004年		2003年		2002年		2001年		2000年	
	患者数	罹患率	患者数	罹患率	患者数	罹患率	患者数	罹患率	患者数	罹患率	患者数	罹患率
愛媛県 総数	270	18.4	271	18.4	283	19.1	341	23.0	329	22.1	399	26.7
四国中央	15	16.2	13	13.9	16	17.1	21	22.3	27	28.7	25	26.4
西 条	34	14.3	35	14.7	46	19.2	54	22.6	56	23.3	66	27.5
今 治	25	13.7	31	16.8	25	13.4	29	15.5	33	17.5	45	23.8
松 山 市	93	18.1	89	18.6	89	18.6	105	22.0	95	20.0	110	23.2
松 山	25	18.0	37	21.0	43	24.3	46	25.9	37	20.8	41	23.0
八 幡 浜	44	26.1	42	25.0	38	22.4	49	28.6	36	20.8	66	37.8
宇 和 島	34	25.5	24	17.6	26	18.8	37	26.5	45	31.8	46	32.2

表 4-4 新登録結核患者数及び構成率の年次推移 - 年齢階級別

年齢階級	2005年(速報)		2004年		2003年		2002年		2001年		2000年	
	患者数	構成率	患者数	構成率	患者数	構成率	患者数	構成率	患者数	構成率	患者数	構成率
0-4					2	0.7			4	1.2		
5-9												
10-14									2	0.6	1	0.3
15-19			1	0.4	1	0.4	2	0.6	2	0.6	3	0.8
20-29	6	2.2	10	3.7	7	2.5	12	3.5	12	3.6	21	5.3
30-39	11	4.1	15	5.5	16	5.7	26	7.6	14	4.3	20	5.0
40-49	14	5.2	25	9.2	21	7.4	23	6.7	24	7.3	32	8.0
50-59	25	9.3	26	9.6	31	11.0	36	10.6	44	13.4	57	14.3
60-69	50	18.5	33	12.2	38	13.4	59	17.3	63	19.1	68	17.0
70-79	81	30.0	82	30.3	89	31.4	88	25.8	88	26.7	114	28.6
80-	83	30.7	79	29.2	78	27.6	95	27.9	76	23.1	83	20.8

表 4-5 新登録喀痰塗抹陽性患者数及び罹患率の年次推移 - 保健所別

保健所	2005年(速報)		2004年		2003年		2002年		2001年		2000年	
	患者数	罹患率	患者数	罹患率	患者数	罹患率	患者数	罹患率	患者数	罹患率	患者数	罹患率
愛媛県 総数	104	7.1	87	5.9	102	6.9	123	8.3	111	7.5	143	9.6
四国中央	7	7.5	3	3.2	6	6.4	4	4.2	7	7.4	7	7.4
西 条	12	5.1	11	4.6	15	6.3	23	9.6	10	4.2	21	8.7
今 治	12	6.6	6	3.2	13	7.0	12	6.4	10	5.3	14	7.4
松 山 市	39	7.6	30	6.3	29	6.1	33	6.9	35	7.4	42	8.9
松 山	5	3.6	16	9.1	12	6.8	19	10.7	15	8.4	12	6.7
八 幡 浜	16	9.5	11	6.5	15	8.8	17	9.9	13	7.5	27	15.5
宇 和 島	13	9.8	10	7.3	12	8.7	15	10.7	21	14.8	20	14.0

表 4-6 新登録喀痰塗抹陽性患者数及び構成率の年次推移 - 年齢階級別

年齢階級	2005年(速報)		2004年		2003年		2002年		2001年		2000年	
	患者数	構成率	患者数	構成率	患者数	構成率	患者数	構成率	患者数	構成率	患者数	構成率
0-4												
5-9												
10-14												
15-19											1	0.7
20-29	2	1.9			3	2.9	4	3.3	4	3.6	9	6.3
30-39	5	4.8	4	4.6	7	6.9	7	5.7	2	1.8	4	2.8
40-49	2	1.9	6	6.9	5	4.9	8	6.5	5	4.5	10	7.0
50-59	11	10.6	13	14.9	11	10.8	16	13.0	10	9.0	27	18.9
60-69	17	16.3	11	12.6	13	12.7	23	18.7	23	20.7	20	14.0
70-79	27	26.0	26	29.9	30	29.4	28	22.8	37	33.3	34	23.8
80-	40	38.5	27	31.0	33	32.4	37	30.1	30	27.0	38	26.6

表 4-7 2005年 新登録患者数 - 登録時結核病類、性、年齢階級別

	新登録患者数	肺結核	肺外結核											
			結核性胸膜炎	肺門リンパ節結核	結核性髄膜炎	腸結核	脊椎結核	他の骨・関節結核	尿路結核	生殖器結核	皮膚結核	他のリンパ節結核	その他の臓器の結核	粟粒結核
愛媛県 総数	270	190	50	1	4	9	3	3	2	1	2	19	5	7
男	173	124	38		2	2	2	2	1	1	1	10	1	5
女	97	66	12	1	2	7	1	1	1		1	9	4	2
0-4歳														
男														
女														
5-9歳														
男														
女														
10-14歳														
男														
女														
15-19歳														
男														
女														
20-29歳	6	4	1									1		
男	3	1	1									1		
女	3	3												
30-39歳	11	8	1									3		1
男	7	5										2		1
女	4	3	1									1		
40-49歳	14	10	2			2						1		
男	9	6	2			1						1		
女	5	4				1								
50-59歳	25	21	1			1			1		1	1	1	
男	18	15	1			1			1		1	1	1	
女	7	6									1			
60-69歳	50	34	9	1		2		1	1			2	3	
男	35	27	6					1				1		
女	15	7	3	1		2			1			1	3	
70-79歳	81	51	13		2	4	3	2		1	1	8	1	2
男	50	34	9		1		2	1		1	1	3		1
女	31	17	4		1	4	1	1				5	1	1
80歳以上	83	62	23		2							3		4
男	51	36	19		1							1		3
女	32	26	4		1							2		1

注：結核病類は重複あり

表 4-8 2005年 新登録肺結核患者数 - 登録時職業、菌情報、保健所別

	総数		接客業等		保健関係		教員・医師		小中学生		高大学生		他職業		不明	
	喀痰塗抹陽性	その他	喀痰塗抹陽性	その他	喀痰塗抹陽性	その他	喀痰塗抹陽性	その他	喀痰塗抹陽性	その他	喀痰塗抹陽性	その他	喀痰塗抹陽性	その他	喀痰塗抹陽性	その他
愛媛県 総数	104	83	1					1					103	82		
四国中央	7	1											7	1		
西条	12	18	1										11	18		
今治	12	5											12	5		
松山市	39	27						1					39	26		
松山	5	10											5	10		
八幡浜	16	11											16	11		
宇和島	13	11											13	11		

表 4-9 2005年 新登録患者数 - 登録時総合患者分類コード、発見方法別

	活 動 性 結 核								(別掲) マル初 治療中	(別掲) 非 定 型 抗 酸 菌 性 陽 性 治療中
	総 数	肺 結 核 活 動 性						肺 外 結 核 活 動 性		
		喀 痰 塗 抹 陽 性			その他の 結 核 菌 陽 性	菌 陰 性 ・ そ の 他				
		総 数	初 回 治 療	再 治 療						
愛媛県 総数	270	187	104	91	13	31	52	83	12	62
健康診断	28	27	8	8		3	16	1	12	11
個別検診	2	2	1	1			1			3
集団検診(定期)	20	19	5	5		2	12	1		8
学校検診										
住民検診	7	6	1	1		2	3	1		4
職場検診	9	9	3	3			6			4
施設検診	4	4	1	1			3			
集団検診(定期外)	6	6	2	2		1	3		10	
業態者検診									3	
家族検診	2	2					2		2	
その他	4	4	2	2		1	1		5	
集団検診(その他)									2	
医療機関受診 その他 不明	242	160	96	83	13	28	36	82		51

表 4-10 2005年 新登録有症状肺結核患者数 - 登録時総合患者分類コード、発見の遅れの期間別

	肺 結 核 活 動 性					
	総 数	喀 痰 塗 抹 陽 性			その他の 結 核 菌 陽 性	菌 陰 性 ・ そ の 他
		総 数	初 回 治 療	再 治 療		
発病～初診の期間						
総数	123	78	69	9	16	29
1月未満	87	55	48	7	12	20
1月以上2月未満	15	10	9	1	2	3
2月以上3月未満	7	4	3	1		3
3月以上6月未満	7	3	3		2	2
6月以上	7	6	6			1
不明・該当せず						
初診～登録の期間						
総数	123	78	69	9	16	29
1月未満	89	63	60	3	9	17
1月以上2月未満	14	6	3	3	4	4
2月以上3月未満	15	8	6	2	3	4
3月以上6月未満	1					1
6月以上	4	1		1		3
不明・該当せず						
発病～登録の期間						
総数	123	78	69	9	16	29
1月未満	51	37	37		6	8
1月以上2月未満	28	18	14	4	4	6
2月以上3月未満	22	11	8	3	4	7
3月以上6月未満	8	5	4	1	1	2
6月以上	14	7	6	1	1	6
不明・該当せず						

表 4-11 2005年 新登録患者数 - 登録時総合患者分類コード、化療内容、保健所別(その1)

	活 動 性 結 核								(別掲) マル初 治療中	(別掲) 非 定 型 抗 酸 菌 陽 性 治療中
	総 数	肺 結 核 活 動 性								
		総 数	喀 痰 塗 抹 陽 性		そ の 他 の 結 核 菌 陽 性	菌 陰 性 ・ そ の 他	肺 外 結 核 活 動 性			
			総 数	初 回 治 療				再 治 療		
総数										
総数	270	187	104	91	13	31	52	83	12	62
INH,RFP,PZAとEB or SMの4剤併用	111	88	49	45	4	15	24	23		9
INH,RFP,PZAの3剤併用	1	1				1				
上記以外のINH,RFPを含む3剤以上	139	87	49	41	8	13	25	52		16
INH,RFPの2剤併用	3	2	1		1		1	1		
その他の2剤併用										20
その他の3剤以上併用	2	2	1	1		1				15
INH単独	1	1					1		12	
不明・化療なし	13	6	4	4		1	1	7		2
松山市										
総数	93	66	39	32	7	12	15	27	4	19
INH,RFP,PZAとEB or SMの4剤併用	38	27	17	14	3	6	4	11		3
INH,RFP,PZAの3剤併用	1	1				1				
上記以外のINH,RFPを含む3剤以上	49	33	20	16	4	4	9	16		5
INH,RFPの2剤併用	1	1					1			
その他の2剤併用										9
その他の3剤以上併用	2	2	1	1		1				2
INH単独	1	1					1		4	
不明・化療なし	1	1	1	1						
四国中央										
総数	15	8	7	7			1	7		1
INH,RFP,PZAとEB or SMの4剤併用	6	4	3	3			1	2		
INH,RFP,PZAの3剤併用										
上記以外のINH,RFPを含む3剤以上	3	1	1	1				2		
INH,RFPの2剤併用										
その他の2剤併用										1
その他の3剤以上併用										
INH単独										
不明・化療なし	6	3	3	3				3		
西条										
総数	34	30	12	12		3	15	4	1	9
INH,RFP,PZAとEB or SMの4剤併用	10	10	3	3		1	6			
INH,RFP,PZAの3剤併用										
上記以外のINH,RFPを含む3剤以上	24	20	9	9		2	9	4		3
INH,RFPの2剤併用										
その他の2剤併用										4
その他の3剤以上併用										2
INH単独									1	
不明・化療なし										
今治										
総数	25	17	12	12		1	4	8	6	2
INH,RFP,PZAとEB or SMの4剤併用	10	8	4	4		1	3	2		1
INH,RFP,PZAの3剤併用										
上記以外のINH,RFPを含む3剤以上	13	9	8	8			1	4		1
INH,RFPの2剤併用										
その他の2剤併用										
その他の3剤以上併用										
INH単独									6	
不明・化療なし	2							2		

INH:イソニアジド、RFP:リファンピシン、PZA:ピラジナミド、EB:エタンブロール、SM:ストレプトマイシン

表 4-11 2005年 新登録患者数 - 登録時総合患者分類コード、化療内容、保健所別(その2)

	活 動 性 結 核								(別掲) マル初 治療中	(別掲) 非定型 抗酸菌 陽性 治療中
	総 数	肺 結 核 活 動 性								
		総 数	喀 痰 塗 抹 陽 性			その他の 結 核 菌 陽 性	菌 陰 性 ・ そ の 他	肺 外 結 核 活 動 性		
			総 数	初 回 治 療	再 治 療					
松山										
総数	25	15	5	5		2	8	10		4
INH,RFP,PZAとEB or SMの4剤併用	12	9	4	4		1	4	3		
INH,RFP,PZAの3剤併用										
上記以外のINH,RFPを含む3剤以上	12	6	1	1		1	4	6		
INH,RFPの2剤併用										
その他の2剤併用										2
その他の3剤以上併用										2
INH単独										
不明・化療なし	1							1		
八幡浜										
総数	44	27	16	10	6	6	5	17	1	15
INH,RFP,PZAとEB or SMの4剤併用	16	13	8	7	1	2	3	3		4
INH,RFP,PZAの3剤併用										
上記以外のINH,RFPを含む3剤以上	24	12	7	3	4	4	1	12		5
INH,RFPの2剤併用	2	1	1		1			1		
その他の2剤併用										1
その他の3剤以上併用										3
INH単独									1	
不明・化療なし	2	1					1	1		2
宇和島										
総数	34	24	13	13		7	4	10		12
INH,RFP,PZAとEB or SMの4剤併用	19	17	10	10		4	3	2		1
INH,RFP,PZAの3剤併用										
上記以外のINH,RFPを含む3剤以上	14	6	3	3		2	1	8		2
INH,RFPの2剤併用										
その他の2剤併用										3
その他の3剤以上併用										6
INH単独										
不明・化療なし	1	1				1				

INH:イソニアジド、RFP:リファンピシン、PZA:ピラジナミド、EB:エタンブロール、SM:ストレプトマイシン

表 4-12 2005年 年末現在登録者数 - 年末現在総合患者分類コード、保健所別

	総数	活動性結核								不活動性結核	活動性不明	(別掲) マル初		(別掲) 非定型抗酸性	
		総数	肺結核活動性						肺外核活動性			治療中	観察中	治療中	観察中
			総数	登録時喀痰塗抹陽性			登録時その他の結核菌陽性	登録時菌陰性その他							
				総数	初回治療	再治療									
愛媛県 総数	685	252	183	109	93	16	28	46	69	367	66	2	6	92	32
四国中央	36	22	12	10	10		1	1	10	12	2			11	2
西条	116	38	33	13	13		5	15	5	65	13			20	5
今治	62	21	16	13	11	2		3	5	40	1	1	2	7	3
松山市	209	76	56	37	29	8	10	9	20	129	4			17	12
松山	110	36	25	12	12		3	10	11	31	43		2	12	1
八幡浜	84	32	22	15	10	5	3	4	10	50	2	1		16	2
宇和島	68	27	19	9	8	1	6	4	8	40	1		2	9	7

表 4-13 2005年 年末現在登録者数 - 年末現在総合患者分類コード、性、年齢階級別

	総数	活動性結核								不活動性結核	活動性不明	(別掲) マル初		(別掲) 非定型抗酸性	
		総数	肺結核活動性						肺外核活動性			治療中	観察中	治療中	観察中
			総数	喀痰塗抹陽性			登録時その他の結核菌陽性	登録時菌陰性その他							
				総数	初回治療	再治療									
愛媛県 総数	685	252	183	109	93	16	28	46	69	367	66	2	6	92	32
男	432	153	114	69	58	11	20	25	39	238	41	1	4	37	6
女	253	99	69	40	35	5	8	21	30	129	25	1	2	55	26
0-4歳	1										1	1			
男	1										1	1			
女															
5-9歳															
男															
女															
10-14歳													1		
男													1		
女															
15-19歳	1									1			1		
男													1		
女	1									1					
20-29歳	14	6	4	2	2			2	2	5	3	1	4	1	1
男	8	3	1	1	1				2	3	2		2	1	1
女	6	3	3	1	1			2		2	1	1	2		
30-39歳	44	11	7	4	4			3	4	29	4	-	-	1	1
男	21	7	4	3	3			1	3	13	1				1
女	23	4	3	1	1			2	1	16	3			1	
40-49歳	55	14	9	2	2		2	5	5	32	9	-	-	3	2
男	42	11	6	1	1		1	4	5	24	7			1	
女	13	3	3	1	1		1	1		8	2			2	2
50-59歳	86	23	20	11	10	1	3	6	3	53	10	-	-	10	3
男	60	16	14	10	9	1	2	2	2	35	9			5	
女	26	7	6	1	1		1	4	1	18	1			5	3
60-69歳	98	43	31	16	14	2	7	8	12	47	8	-	-	25	8
男	71	30	26	14	12	2	6	6	4	35	6			11	1
女	27	13	5	2	2		1	2	8	12	2			14	7
70-79歳	186	77	52	29	25	4	8	15	25	93	16	-	-	37	12
男	122	44	33	19	17	2	5	9	11	69	9			15	1
女	64	33	19	10	8	2	3	6	14	24	7			22	11
80歳以上	200	78	60	45	36	9	8	7	18	107	15	-	-	15	5
男	107	42	30	21	15	6	6	3	12	59	6			4	2
女	93	36	30	24	21	3	2	4	6	48	9			11	3

資料

愛媛県感染症発生動向調査事業実施要綱

第一 目的

感染症の患者発生状況に関する情報（以下「患者情報」という。）及び感染症の病原体に関する情報（以下「病原体情報」という。）を迅速かつ的確に収集し、及び分析し、その結果を感染症情報として速やかに地域に公表する感染症発生動向調査事業（以下「事業」という。）を実施することにより、感染症の予防、医療、研究等に役立て、有効かつ確かな感染症対策の確立に資することを目的とする。

第二 対象感染症

事業の対象とする感染症は次のとおりとする。

一 全数把握の対象

1 一類感染症

- (1) エボラ出血熱 (2) クリミア・コンゴ出血熱
(3) 重症急性呼吸器症候群（病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る）
(4) 痘そう (5) ペスト (6) マールブルグ病 (7) ラッサ熱

2 二類感染症

- (8) 急性灰白髄炎 (9) コレラ (10)細菌性赤痢 (11)ジフテリア (12)腸チフス
(13)パラチフス

3 三類感染症

- (14)腸管出血性大腸菌感染症

4 四類感染症

- (15) E型肝炎 (16)ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎を含む）
(17) A型肝炎 (18)エキノコックス症 (19)黄熱 (20)オウム病 (21)回帰熱
(22) Q熱 (23)狂犬病 (24)高病原性鳥インフルエンザ (25)コクシジオイデス症
(26)サル痘 (27)腎症候性出血熱 (28)炭疽 (29)つつが虫病 (30)デング熱
(31)ニパウイルス感染症 (32)日本紅斑熱 (33)日本脳炎
(34)ハンタウイルス肺症候群 (35) Bウイルス病 (36)ブルセラ症 (37)発しんチフス
(38)ボツリヌス症 (39)マラリア (40)野兔病 (41)ライム病
(42)リッサウイルス感染症 (43)レジオネラ症 (44)レプトスピラ症

5 五類感染症

- (45)アメーバ赤痢 (46)ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く）
(47)急性脳炎（ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く） (48)クリプトスポリジウム症
(49)クロイツフェルト・ヤコブ病 (50)劇症型溶血性レンサ球菌感染症
(51)後天性免疫不全症候群 (52)ジアルジア症 (53)髄膜炎菌性髄膜炎
(54)先天性風しん症候群 (55)梅毒 (56)破傷風
(57)バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (58)バンコマイシン耐性腸球菌感染症

二 定点把握の対象（五類感染症）

- (59) R Sウイルス感染症 (60)咽頭結膜熱 (61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
(62)感染性胃腸炎 (63)水痘 (64)手足口病 (65)伝染性紅斑 (66)突発性発しん
(67)百日咳 (68)風しん (69)ヘルパンギーナ (70)麻しん（成人麻しんを除く）
(71)流行性耳下腺炎 (72)インフルエンザ（高病原性鳥インフルエンザを除く）
(73)急性出血性結膜炎 (74)流行性角結膜炎 (75)性器クラミジア感染症
(76)性器ヘルペスウイルス感染症 (77)尖圭コンジローマ (78)淋菌感染症
(79)クラミジア肺炎（オウム病を除く） (80)細菌性髄膜炎

- (81)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 (82)マイコプラズマ肺炎 (83)成人麻疹
(84)無菌性髄膜炎 (85)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
(86)薬剤耐性緑膿菌感染症

三 結核

第三 実施主体

実施主体は県とし、愛媛県医師会等関係機関の協力を得て事業を実施する。

第四 実施体制の整備

一 地方感染症情報センター及び基幹地方感染症情報センター

1 地方感染症情報センター

県管轄区域内の患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを全国情報等と併せて医師会等の関係機関に提供するため、地方感染症情報センターを設置する。

地方感染症情報センターは、愛媛県立衛生環境研究所（以下「衛生環境研究所」という。）内に置く。

2 基幹地方感染症情報センター

県域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを全国情報等と併せて地方感染症情報センター、医師会等の関係機関に提供するため、基幹地方感染症情報センターを設置する。

基幹地方感染症情報センターは、衛生環境研究所内に置く。

二 指定届出機関（定点）

県は、定点把握対象の五類感染症について、患者情報を把握するため患者定点を、病原体情報を収集するため病原体定点を選定する。

三 愛媛県感染症対策推進協議協議会

本事業に関する事項については、愛媛県感染症対策推進協議会において協議することとし、愛媛県感染症対策推進協議会設置要綱第7条の規定に基づく解析評価担当委員（以下「解析評価委員」という。）が解析評価を行う。

第五 事業の実施

一 一類感染症、二類感染症、三類感染症及び四類感染症

1 医師

(1) 医師は、第二の(1)から(7)、(9)、(10)、(12)及び(13)については疑似症患者、患者及び無症状病原体保有者を診断したとき、また、第二の(8)、(11)及び(14)から(44)については患者及び無症状病原体保有者を診断したときは、別記様式1又は別記様式3により、直ちに最寄りの保健所に届出を行う。

(2) 保健所から当該患者の病原体検査のための検体又は病原体情報の提供の依頼を受けた場合にあっては、協力可能な範囲において、保健所の協力を得て別記様式2の検査票を添付して衛生環境研究所に送付する。

2 保健所

(1) 医師から届出を受けた保健所は、別記様式4に該当する項目について、直ちに本庁及び地方感染症情報センターへコンピュータ・オンラインシステムにより伝送する。

(2) 保健所は、当該医師に対し、必要に応じて病原体検査のための検体又は病原体情報の衛生環境研究所への提供について、別記様式2の検査票を添付して依頼する。

なお、前記(2)の医師から衛生環境研究所への検体等の送付は、保健所において実施する。

3 衛生環境研究所

- (1) 衛生環境研究所は、別記様式 2 の検査票及び検体又は病原体情報が送付された場合にあつては、当該検体を検査し、その結果を保健所を經由して診断した医師に通知するとともに、別記様式 2 により保健所、本庁及び地方感染症情報センターに送付する。
- (2) 検査の困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。
- (3) 患者が一類感染症と診断されている場合、集団発生があつた場合等の緊急の場合にあつては、国から依頼があれば、検体を国立感染症研究所に送付する。

4 地方感染症情報センター

- (1) 地方感染症情報センターは、患者情報について、保健所からの情報の伝送があり次第、コンピュータ・オンラインシステムにより、国立感染症研究所感染症情報センター内に設置する中央感染症情報センターに伝送する。
- (2) 別記様式 2 をもって衛生環境研究所から送付された検査情報について、直ちに国立感染症研究所に報告する。

二 全数把握対象の五類感染症

1 医師

- (1) 医師は、第二の一の 5 に掲げる全数把握対象の五類感染症について、別に定める報告基準（平成 11 年 3 月 30 日 健医感発第 46 号 厚生省 保健医療局結核感染症課長通知。以下「報告基準」という。）により患者等を診断したときは、別記様式 5 により、7 日以内に最寄りの保健所に届出を行う。
- (2) 保健所から当該患者の病原体検査のための検体又は病原体情報の提供の依頼を受けた場合にあつては、協力可能な範囲において、保健所の協力を得て別記様式 2 の検査票を添付して衛生環境研究所に送付する。

2 保健所

- (1) 医師から届出を受けた保健所は、別記様式 6 に該当する項目について、医師が患者を診断してから 7 日以内の可能な限り早い段階で本庁及び地方感染症情報センターへコンピュータ・オンラインシステムにより伝送する。
- (2) 保健所は、第二の(45)、(47)、(49)、(50)、(51)、(53)、(54)、(56)、(57)又は(58)の患者を診断した医師に対し、必要に応じて病原体検査のための検体又は病原体情報の衛生環境研究所への提供について、別記様式 2 の検査票を添付して依頼する。
なお、前記(2)の医師から衛生環境研究所への検体等の送付は、保健所において実施する。

3 衛生環境研究所

- (1) 衛生環境研究所は、別記様式 2 の検査票及び検体又は病原体情報が送付された場合にあつては、当該検体を検査し、その結果を保健所を經由して診断した医師に通知するとともに、別記様式 2 により保健所、本庁及び地方感染症情報センターに送付する。
- (2) 検査の困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。
- (3) 集団発生があつた場合等の緊急の場合において、国から依頼があれば、検体を国立感染症研究所に送付する。

4 地方感染症情報センター

- (1) 地方感染症情報センターは、患者情報について、保健所が診断した医師から届出を受けてから 7 日以内に、コンピュータ・オンラインシステムにより、中央感染症情報センターに伝送する。
- (2) 別記様式 2 をもって衛生環境研究所から送付された検査情報について、直ちに国立感染症研究所に報告する。

三 定点把握対象の五類感染症

1 定点の選定

(1) 患者定点

県は、第二の二に掲げる定点把握対象の五類感染症の発生状況を地域的に把握するため、関係医師会等の協力を得て、対象疾病に応じ、次に掲げる医療機関のうちから可能な限り無作為に患者定点を選定する。患者定点数は、別に定める基準（国の定める感染症発生動向調査事業実施要綱。以下「算定基準」という。）を準用し算定する。

ア 第二の(59)から(71)までに掲げるもの (小児科定点)	小児科を標榜する医療機関（主として小児科医療を提供しているもの）
イ 第二の(72)に掲げるインフルエンザ (高病原性鳥インフルエンザを除く) (インフルエンザ定点)	上記アで選定した小児科に加え、内科を標榜する医療機関（主として内科医療を提供しているもの）
ウ 第二の(73)及び(74)に掲げるもの (眼科定点)	眼科を標榜する医療機関（主として眼科医療を提供しているもの）
エ 第二の(75)から(78)までに掲げるもの (STD定点)	産婦人科又は産科若しくは婦人科（産婦人科系） 性病科又は泌尿器科若しくは皮膚科若しくは皮膚泌尿器科（泌尿器科・皮膚科系）を標榜する医療機関（主として各々の標榜科の医療を提供しているもの）
オ 第二の(79)から(86)までに掲げるもの (基幹定点)	原則患者を300人以上収容する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）

(2) 病原体定点

県は、病原体の分離等の検査情報を収集するため、患者定点として選定された医療機関のうちから病原体定点を選定する。病原体定点数は、算定基準を準用し算定する。

2 調査単位等

(1) 患者情報の調査単位は、前記1の(1)のア、イ、ウ及びオ（第二の(81)、(85)及び(86)に関する患者情報を除く）により選定された患者定点にあつては1週間（月曜日から日曜日）とし、前記1の(1)のエ及びオ（第二の(81)、(85)及び(86)に関する患者情報のみ）により選定された患者定点にあつては各月とする。

(2) 病原体検査については、効果的・効率的な検体の採取、搬送がなされるよう留意する。

3 実施方法

(1) 患者定点

ア 患者定点として選定された医療機関は、調査単位の期間の診療時における報告基準により患者発生状況を把握するとともに、次の様式により、管轄保健所へ報告するものとする。

前記1の(1)のアにより選定された小児科定点	別記様式7
前記1の(1)のア及びイにより選定されたインフルエンザ定点	別記様式8
前記1の(1)のウにより選定された眼科定点	別記様式9
前記1の(1)のエにより選定された性感染症定点	別記様式10
前記1の(1)のオにより選定された基幹定点	別記様式11

イ 前記アの報告は、調査単位が週の場合は翌週の月曜日に、月単位の場合は翌月の初日に、郵送又はFAXその他地域の特性に応じた適切な方法により報告するものとする。

(2) 病原体定点

病原体定点として選定された医療機関は、愛媛県感染症発生動向調査事業病原体検査要領により微生物学的検査のための検体を採取するとともに、別記様式2の検査票を

添えて、保健所との連携を図りながら速やかに衛生環境研究所へ送付する。

(3) 保健所

ア 保健所は、患者定点から得られた患者情報（別記様式7から11）の情報項目を、調査単位が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の3日までに、本庁及び地方感染症情報センターへコンピュータ・オンラインにより伝送する。

イ 対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報については、本庁及び地方感染症情報センターへ報告する。なお、前記(2)の医師から衛生環境研究所への検体等の送付は、保健所において実施する。

(4) 衛生環境研究所

ア 衛生環境研究所は、別記様式2の検査票及び検体が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を病原体情報として保健所を経由して病原体定点に通知するとともに保健所、本庁及び地方感染症情報センターに送付する。

イ 検査の困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。なお、集団発生があった場合等の緊急の場合において、国から依頼があれば、検体を国立感染症研究所に送付する。

(5) 地方感染症情報センター

ア 地方感染症情報センターは、患者情報について、保健所から情報の伝送があり次第、コンピュータ・オンラインシステムにより、中央感染症情報センターに伝送する。

イ 別記様式2をもって衛生環境研究所から送付された病原体情報について、直ちに国立感染症研究所に報告する。

四 結核

1 医師

医師は、結核の患者等を診断したときは、2日以内に、最寄りの保健所に届出を行う。

2 保健所

保健所は、結核予防法の規定による届出等に基づく結核患者等の情報のうち、次の表に掲げる項目を、新たに同法第24条第1項に規定する結核登録票（以下「登録票」という。）に登録した者（以下「新登録患者」という。）に係るものにあつては翌月の10日までにコンピュータ・オンラインシステムにより、12月31日現在において登録票に登録している者（以下「登録者」という。）及び1月1日から12月31日までの間に登録票から除外した者（以下「登録除外者」という。）に係るものにあつては翌年の1月20日までにコンピュータ・オンラインシステム又はフロッピーディスクにより、本庁及び地方感染症情報センターへ伝送又は送付する。

新登録患者	(1) 患者の生年月日、性別及び居住地の市町村名 (2) 登録までの状況 (3) 病状及び治療状況
登録者	(1) 登録者の生年月日、性別及び居住地の市町村名 (2) 登録当時の状況 (3) 現在の病状及び治療状況 (4) 病状等の経過
登録除外者	(1) 登録除外者の生年月日、性別及び居住地の市町村名 (2) 登録時以降の経過の概要 (3) 除外年月日及び除外理由

3 地方感染症情報センター

地方感染症情報センターは、保健所からの結核患者等の情報について、新登録患者に係るものにあつては翌月の15日までにコンピュータ・オンラインシステムにより、登録者及び登録除外者に係るものにあつては翌年の1月末日までにコンピュータ・オンラインシステム又はフロッピーディスクにより、中央感染症情報センターに伝送又は送付する。

第六 積極的疫学調査

保健所は、一類感染症、二類感染症、三類感染症又は四類感染症が発生した場合若しくは五類感染症等に係る感染症発生動向調査において通常と異なる傾向が認められた場合等には、関係者の理解と協力を得ながら、本庁、衛生環境研究所、関係医師会、市町村等関係機関と密接な連携を図り、地域における詳細な流行状況や原因不明の感染症等の迅速な把握に努める。

第七 地方感染症情報センター等の情報の収集、分析及び提供

- 一 基幹感染症情報センターは、地方感染症情報センターが収集した患者情報、病原体情報並びに全国情報等と併せて、解析委員の意見を聴取し県域全体としての総合的解析評価を行い、その結果を愛媛県感染症情報として、速やかに地方感染症情報センター、医師会、教育委員会その他の関係機関へ提供する。
- 二 地方感染症情報センター及び保健所は、本事業により収集した情報等を、地域医師会、市町村等関係機関へ、適宜適切に提供する。
- 三 情報の提供を行うときは、個人情報の保護に十分留意する。

第八 その他

- 一 県は、効果的かつ円滑な感染症発生動向調査体制を構築するため、松山市と密接な連携を図る。
- 二 本事業に協力を得た医師、解析評価委員に対して予算の範囲内で謝金を支出する。
- 三 この要綱で定めるもののほか、感染症発生動向調査事業の実施に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成13年1月1日から施行する。
- 2 愛媛県結核・感染症発生動向調査実施要綱(昭和62年1月1日)は、廃止する。

附 則

この実施要綱の改正は、平成14年11月1日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成15年8月1日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成15年11月5日から施行する。

別記様式一覧表

別記様式 1	一類感染症、二類感染症及び三類感染症医師届出票（患者）
別記様式 2	一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症及び五類感染症検査票（病原体）
別記様式 3	四類感染症医師届出票（患者）
別記様式 4	一類感染症、二類感染症、三類感染症及び四類感染症保健所報告項目（患者）
別記様式 5	五類感染症（全数把握対象）医師届出票（患者）
別記様式 6	五類感染症（全数把握対象）保健所報告項目（患者）
別記様式 7	五類感染症（定点把握対象）小児科患者定点報告票
別記様式 8	五類感染症（定点把握対象）インフルエンザ患者定点報告票
別記様式 9	五類感染症（定点把握対象）眼科患者定点報告票
別記様式10	五類感染症（定点把握対象）性感染症患者定点報告票
別記様式11	五類感染症（定点把握対象）基幹患者定点報告票

一類感染症、二類感染症及び三類感染症発生届出票

愛媛県知事 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日(年 月 日)

医師の氏名 所属する病院・診療所等施設名 上記施設の・所地電話番号

(* 所属する施設がない場合は、医師の自宅の住所・電話番号を記載すること)

Table with 8 columns: 1 患者氏名, 2 性別, 3 診断時の年齢, 4 患者職業, 5 患者住所, 6 患者所在地, 7 保護者氏名, 8 保護者連絡先

Table with 4 columns: 9 病名, 10 診断方法, 11 症状, 12 発病年月日. Includes sub-rows for 13 初診年月日, 14 診断(検索)年月日, 15 感染したと推定される年月日, 16 死亡年月日

Table with 3 columns: 17 推定される感染地域・感染原因・感染経路, 18 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために必要と認める事項

この届出は診断後直ちに行ってください

(2、9 から11、17欄は該当する番号等を で囲み3、4、12から16は年齢・年月日等を記入すること。 欄は、死亡者を検索した場合のみ記入すること)

一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症及び五類感染症検査票（病原体）

患者	性別	(男 ・ 女)
	年齢	(歳 カ月)

[主治医等記載欄]

医療機関等名及び主治医等医師名（記載者）	
検体送付日	年 月 日 分離株（無、有、検査中）
診断名	
発病日	年 月 日
検採取日	年 月 日
検査材料の種類 [該当するもの一つを で囲んで下さい]	・ふん便（腸内容物、直腸ぬぐい液）・髄液 ・尿 ・喀痰 ・気管吸引液 ・穿刺液（腹水、胸水、関節液、その他_____） ・咽頭ぬぐい液（うがい液、鼻汁） ・皮膚病巣（水疱内容、痂皮、創傷） ・結膜ぬぐい液（結膜擦過物、眼脂） ・陰部尿道頸管擦過物 / 分泌物 ・細胞診、生検、剖検材料（臓器 _____） ・血液（全血、血清、血漿、抗凝固剤[_____]） ・その他 [_____]
臨床徴候等 [該当するものを全てを で囲んで下さい] 的事項 (基礎疾患を除く)	・無症状 ・発熱（最高 _____） ・関節痛、筋肉痛 ・口内炎、上気道炎、下気道炎（肺炎、気管支炎） ・発疹（水疱、丘疹、紅斑、バラしん）、出血傾向 ・リンパ節腫脹、腫脹(部位 _____)、浮腫(部位 _____) ・ショック症状（低血圧、循環不全） ・その他の症状（上記以外の症状や臨床徴候） [_____]
基礎疾患	・胃腸炎(下痢、血便、嘔気、嘔吐、腹痛) ・角膜炎、結膜炎、角結膜炎 ・髄膜炎、意識障害、麻痺(部位 _____)、 中枢神経系症状(脳炎、脳症、脊髄炎、その他 _____) ・循環器障害(心筋炎、心膜炎、心不全) ・黄疸 ・肝機能障害 ・腎機能障害(HUS、血尿、乏尿、蛋白尿、多尿、腎不全) ・尿路生殖器症状
転帰	経過観察中、軽快、治癒、死亡(原因 _____)
主治医等から地方衛生研究所への連絡事項	

[保健所等記載欄] (主治医記載可)

発生の状況	・散発 ・地域流行 ・家族内発生（無、有） ・集団発生（無、有） 有の場合（保育所、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学、宿舎・寮、病院、老人ホーム、福祉・養護施設、旅館・ホテル、飲食店、事業所、その他[_____]）
最近の海外渡航歴	国名 _____ 期間 _____年 月 日 ~ _____年 月 日
ワクチン接種歴	ワクチン名 _____ 最近の接種年月日 _____年 月 日
[地方衛生研究所記載欄]	
記載者名	_____
抗体検出方法	（蛍光、IP、ELIZA、CF、HI、PA、中和、イムノブロット、ゲル内沈降、凝集反応、その他 _____） 結果（ _____ ）
検出年月日	_____年 月 日
病原体検出 [陽性となった方法を で囲んで下さい]	・分離培養（培養細胞：細胞名[_____]） 人工培地、発育鶏卵、動物、その他 _____ ・抗原検出等（電顕、鏡検、蛍光、E I A、凝集反応、その他 _____） ・遺伝子検出（1.非増幅[ハイブリ、PAGE、その他 _____] 2.増幅[PCR、その他 _____]）
検出病原体 (群、型、亜型)	
[その他特記事項]	

注1) 主治医記載欄については、検体送付日において記載できる範囲で記載をお願いします。

注2) ワクチン接種歴については、当該疾患に係るものにつき記載して下さい。

注3) 二類、三類感染症について医療機関（民間検査所を含む）で病原体を分離した場合は、可能な範囲で地方衛生研究所への分離株の送付をお願いします。

別記様式3

保健所コード

西 暦

I D

四 類 感 染 症 発 生 届

愛媛県知事 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日(平成 年 月 日)

医師の氏名 _____ 印
(自署または記名押印のこと)

所属する病院・診療所等施設名 _____
上記施設の住所・電話番号* _____ (電話 _____)

(*所属する施設がない場合は医師の自宅の住所・電話番号を記載すること)

1 患者氏名	2 性 別	3 診断時の年齢
	男 ・ 女	生年月日 明・大・昭・平 年 月 日 歳
4 患者職業	5 患者住所	
	電話(_____)	
6 患者所在地		
電話(_____)		
7 保護者氏名	8 保護者連絡先	
	(7、8は患者が未成年の場合のみ記入)	
	電話(_____)	

9 病 名 (該当する番号等を で囲むこと)	1 E型肝炎
	2 ウエストナイル熱
	(1)ウツキ熱、2)ウツキ脳炎)
	3 A型肝炎
	4 エキノコックス症
	(1)単包条虫、2)多包条虫)
	5 黄熱
	6 オウム病
	7 回帰熱
	8 Q熱
	9 狂犬病
	10 高病原性鳥インフルエンザ
	11 コクシジオイデス症
	12 サル痘
	13 腎症候性出血熱
	14 炭疽
	15 つつが虫病
	16 デング熱
	(1)デング熱、2)デング出血熱)
	17 ニバウイルス感染症
	18 日本紅斑熱
	19 日本脳炎
	20 ハンタウイルス肺症候群
	21 Bウイルス病
	22 ブルセラ症
	23 発しんチフス
	24 ポツリヌス症
	(1)食餌性(食中毒)、2)乳児、 2)創傷、4)成人定着、5)不明)
	25 マラリア
	(1)三日熱、2)四日熱、3)卵形、 4)熱帯熱、5)不明)
26 野兔病	
27 ライム病	
28 リッサウイルス感染症	
29 レジオネラ症	
30 レプトスピラ症	

10 診 断 方 法	1) 病原検査(検体 _____) (方法 _____) (型 _____)
	2) 血清学的検査(検体 _____) (方法 _____) (型 _____)
	3) 臨床決定
	4) その他(_____) (該当するもの全てに記載すること)
11 診 断 時 の 症 状	1) 有 _____)
	2) 無
12 発病年月日	平成 年 月 日
13 初診年月日	平成 年 月 日
14 診断(検索)年月日	平成 年 月 日
15 感染したと推定される年月日	昭和・平成 年 月 日
16 死亡年月日	平成 年 月 日
17・18 推定される感染地域・感染原因・感染経路	
・最近数年間の主な居住地 1 日本国内 2 その他(_____) 3 不明 ・推定される感染地域 1 日本国内 2 その他(_____) 3 不明 ・病原体や媒介動物等との接触または生息場所での活動 1 あり(_____) 2 その他 ・推定される感染源・感染経路等 1 経口感染(推定される飲食物 _____) 2 媒介動物等からの感染(動物の種類 _____) 3 その他(_____) 4 不明 ・同疾患または同様の症状の者の発症 1 同居者にいる 2 同じ職場や学校等にいる 3 その他(_____) 4 いない	

この届出は診断後直ちにしてください

(2、9から11、17・18欄は該当する番号等を で囲み、3、4、12から16欄は年齢・年月日を記入すること。 欄は、死亡者を検索した場合のみ記入すること。)

別記様式 4

一類感染症、二類感染症、三類感染症及び四類感染症保健所報告項目（患者）

一類感染症、二類感染症、三類感染症及び四類感染症につき、保健所が、地方感染症情報センターへコンピュータ・オンラインにより伝送する項目は以下のとおりとする。

別記様式 1 及び別記様式 3 のうち、

「 9 病名」

「10 診断方法」

「11 症状」

「12 発病年月日」

「13 初診年月日」

「14 診断（検案）年月日」

「15 感染したと推定される年月日」

「16 死亡年月日」

「17・18 推定される感染地域・感染原因・感染経路」

及び

「 3 診断時の年齢」のうち、患者の「生年月日」

以上

別記様式 5 - 1

保健所コード

西 暦

I D

五類感染症発生届
(クロイツフェルト・ヤコブ病、後天性免疫不全症候群、先天性風しん症候群を除く)

愛媛県知事 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日(平成 年 月 日)

医師の氏名 _____ 印

(自署または記名押印のこと)

所属する病院・診療所等施設名 _____

上記施設の住所・電話番号* _____ (電話 _____)

(*所属する施設がない場合は医師の自宅の住所・電話番号を記載すること)

1 性 別	男 ・ 女
2 診断時の年齢	歳

3 病名 (該当する番号等を 囲むこと)	1 アメーバ赤痢
	2 ウイルス性肝炎 (1) B型、2) C型、3) D型、 4) その他()、5) 不明)
	3 急性脳炎(ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く) (1) 病原体() 2) 病原体不明)
	4 クリプトスポリジウム症
	5 劇症型溶血性レンサ球菌感染症
	6 ジアルジア症
	7 髄膜炎菌性髄膜炎
	8 梅毒 (1) 早期顕症梅毒(7. 期、1. 期)、 2) 晩期顕症梅毒、3) 無症候梅毒 4) 先天梅毒)
	9 破傷風
	10 バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症
	11 バンコマイシン耐性腸球菌感染症

4 診断方法	1) 病原検査(検体 _____) (方法 _____) (型 _____)
	2) 血清学的検査(検体 _____) (方法 _____) (型 _____)
	3) 臨床決定 _____)
	4) その他(_____) (該当するもの全てに記載すること)
5 診断時の症状	1) 有 _____)
	2) 無 _____)
6 発病年月日	平成 年 月 日
7 初診年月日	平成 年 月 日
8 診断(検索)年月日	平成 年 月 日
9 感染したと推定される年月日	昭和・平成 年 月 日
10 死亡年月日	平成 年 月 日
11・12 推定される感染地域・感染原因・感染経路	
・最近数年間の主な居住地 1 日本国内 2 その他() 3 不明 ・推定される感染地域 1 日本国内 2 その他() 3 不明 ・病原体や媒介動物等との接触または生息場所での活動 1 あり() 2 その他 ・推定される感染源・感染経路等 1 経口感染(推定される飲食物 _____) 2 性行為感染 ア. 異性間性的接触 イ. 同性間性的接触 3 静注薬使用 4 母子感染 5 輸血 6 媒介動物等からの感染(動物の種類 _____) 7 その他(_____) 8 不明 ・同疾患または同様の症状の者の発症 1 同居者にいる _____ 2 同じ職場や学校等にいる _____ 3 その他(_____) 4 いない	

この届出は診断から7日以内に行ってください

(2、9から11、17・18欄は該当する番号等を 囲み、3、4、12から16欄は年齢・年月日を記入すること。 欄は、死亡者を検索した場合のみ記入すること。)

別記様式5 - 2

保健所コード	西 暦	I D
□□□□□□	□□□□	□□□□□□

クロイツフェルト・ヤコブ病発生届

愛媛県知事

殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日(平成 年 月 日)

医師の氏名 _____ 印

(自署または記名押印のこと)

所属する病院・診療所等施設名 _____

上記施設の住所・電話番号* _____

(電話 _____)

(*所属する施設がない場合は医師の自宅の住所・電話番号を記載すること)

1 性別	男 ・ 女	5 診断時の症状	1) 有 ア. 進行性痴呆 (年 月より) イ. 記憶障害 (年 月より) ウ. 精神・知能障害 (年 月より) エ. 臨床的に頑固な不眠 (年 月より) オ. 視覚異常 (年 月より) カ. 錯感覚、異常感覚 (年 月より) キ. 錐体路症状 (年 月より) ク. 痙性対麻痺 (年 月より) ケ. 錐体外路症状 (年 月より) コ. 筋強剛 (年 月より) サ. 小脳症状 (年 月より) シ. ミオクローヌス (年 月より) ス. 無動性無言状態 (年 月より) セ. 脳波検査でPSDあり (年 月より) ソ. その他 () (年 月より)	
2 診断時の年齢	歳			
3 病名	クロイツフェルト・ヤコブ病 1) 弧発性CJD 2) 家族性CJD 3) 新変異型CJD 4) GSS 5) FFI (ア. 確実 イ. ほぼ確実 ウ. 疑い)			
4 診断方法	1) 病原検査(異常プリオンたん白の検出) 部位 (1) 脳 (2) 扁桃 (3) その他 方法 (1) Western Blot 法 (2) 免疫染色法型 (免疫染色法による) (1) アミロイド斑型 (2) シナプス型			
	2) プリオンたん白遺伝子検査 (1) コドン () の異常 (2) コドン129の多型 (ア. M/M イ. M/V ウ. V/V) (3) コドン219の多型 (ア. E/E イ. E/K ウ. K/K) (4) その他 ()			
	3) 臨床決定			
	4) その他 () (該当するもの全てに記載すること)			
6 発病年月日	平成 年 月 日			この届出は診断から7日以内に行ってください
7 初診年月日	平成 年 月 日			
8 診断(検索)年月日	平成 年 月 日			
9 感染したと推定される年月日	昭和・平成 年 月 日			
10 死亡年月日	平成 年 月 日			

11・12 推定される感染地域・感染原因・感染経路	
・最近数年間の主な居住地 1) 日本国内 2) その他 () 3) 不明 ・推定される感染地域 1) 日本国内 2) その他 () 3) 不明 ・同疾患または同様の症状の者 1) 家族にいる 2) 同じ職場等にいる 3) その他 () 4) いない	・推定される感染経路等 1) ヒト乾燥硬膜 2) ヒト下垂体由来成長ホルモン製剤 3) 角膜手術 4) 手術等観血的処置 (種類) 5) 輸血等 6) その他 () 7) 不明

(1、3から5、11、12欄は該当する番号等を で囲み、2、6から10欄は年齢・年月日を記入すること。欄は、死亡者を検索した場合のみ記入すること。)

別記様式 5 - 3

保健所コード

西 暦

ID

Grid boxes for insurance code, calendar, and ID.

後天性免疫不全症候群発生届 (HIV感染症を含む)

愛媛県知事 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日(平成 年 月 日)

医師の氏名 (自署または記名押印のこと)

所属する病院・診療所等施設名 上記施設の住所・電話番号* (電話)

(*所属する施設がない場合は医師の自宅の住所・電話番号を記載すること)

Table with columns for patient info (sex, age, diagnosis date, symptoms), diagnosis methods, and dates (onset, first visit, diagnosis, infection, death).

Table for listing AIDS-related conditions (e.g., Kaposi's sarcoma, lymphoma, HIV encephalopathy) with checkboxes for each.

Table for infection details (11-12) including residence, infection location, and routes.

(1, 3から5, 11, 12欄は該当する番号等を で囲み、2, 6から10欄は年齢・年月日を記入すること。欄は、死亡者を検索した場合のみ記入すること。)

この届出は診断から7日以内に行ってください

別記様式5 - 4

保健所コード

西 暦

I D

先天性風しん症候群発生届

愛媛県知事 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日(平成 年 月 日)

医師の氏名 _____ 印
(自署または記名押印のこと)

所属する病院・診療所等施設名 _____
上記施設の住所・電話番号* _____ (電話 _____)

(*所属する施設がない場合は医師の自宅の住所・電話番号を記載すること)

1	性 別	男 ・ 女	
2	診断時の年齢		歳
3	病名	先天性風しん症候群	
4	診断方法	1) 病原検査 (検体 _____) (方法 _____) 2) 血清学的検査 (検体 _____) (方法 _____) 3) 臨床決定 4) その他 (_____) (該当するもの全てに記載すること)	
5	診断時の症状	1) 有 _____ 2) 無 _____	
6	発病年月日	平成	年 月 日
7	初診年月日	平成	年 月 日
8	診断(検索)年月日	平成	年 月 日
9	感染したと推定される年月日	昭和・平成	年 月 日
10	死亡年月日	平成	年 月 日

11・12 推定される感染地域・感染原因・感染経路	
・最近数年間の主な居住地 1) 日本国内 2) その他(_____) 3) 不明 ・推定される感染地域 1) 日本国内 2) その他(_____) 3) 不明	・母親の妊娠中の風しん罹患歴 1) あり 2) なし ・母親の風しん抗体価と測定時期 _____ _____ _____ ・母親の風しん予防接種歴 1) あり 2) なし

この届出は診断から7日以内に行ってください

(1、3から5、11、12欄は該当する番号等を で囲み、2、6から10欄は年齢・年月日を記入すること。 欄は、死亡者を検索した場合のみ記入すること。)

別記様式6

五類感染症（全数把握対象）保健所報告項目（患者）

五類感染症のうち全数把握対象のものにつき、保健所が、地方感染症情報センターへコンピュータ・オンラインにより伝送する項目は以下のとおりとする。

別記様式5のうち、すべての項目

以上

感染症発生動向調査(小児科定点)

調査期間 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日 (週報)

西暦 年 第 週

保健所コード

定点コード

--	--	--	--

--	--

--	--	--	--	--	--	--	--

--	--	--	--

疾患名	年齢		～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10～14	15～19	20歳以上	合計
	男	女															
RSウイルス感染症	男																
	女																
咽頭結膜熱	男																
	女																
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	男																
	女																
感染性胃腸炎	男																
	女																
水痘	男																
	女																
手足口病	男																
	女																
伝染性紅斑	男																
	女																
突発性発しん	男																
	女																
百日咳	男																
	女																
風しん	男																
	女																
ヘルパンギーナ	男																
	女																
麻しん (成人麻しんを除く)	男																
	女																
流行性耳下腺炎	男																
	女																

別記様式8

感染症発生動向調査(インフルエンザ定点)

調査期間 平成 年 月 日 ~平成 年 月 日 (週報)

西暦年 第週 保健所コード 定点コード

疾患名		年齢																			合計		
		~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79		80歳以上	
インフルエンザ (高病原性鳥インフルエンザを除く)	男																						
	女																						

感染症発生動向調査(眼科定点)

調査期間 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日 (週報)

西曆 年 第 週

保健所コード 定点コード

疾患名	年齢	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上	合計		
		急性出血性結膜炎	男																				
	女																						
流行性角結膜炎	男																						
	女																						

感染症発生動向調査(STD定点)

調査期間 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日 (月報)

西暦 年 月 保健所コード 定点コード

疾患名	年齢	0歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上	合計
性器クラミジア感染症	男																	
	女																	
性器ヘルペスウイルス感染症	男																	
	女																	
尖圭コンジローマ	男																	
	女																	
淋菌感染症	男																	
	女																	

感染症発生動向調査(基幹定点)

調査期間 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日 (週報) 西暦 年 第 週 保健所コード 定点コード

ID番号	性	年・月齢	病名	採取年月日	検査方法	検査結果 (病原体名称)
			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6	
			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6	
			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6	
			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6	
			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6	
			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6	
			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6	
			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6	
			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6	

病名

- 1:細菌性髄膜炎(真菌性を含む)
- 2:無菌性髄膜炎
- 3:マイコプラズマ肺炎
- 4:クラミジア肺炎(オウム病を除く)
- 5:成人麻しん

検査方法

- 1:分離・培養
- 2:抗原検出
- 3:核酸・PCR
- 4:塗末検鏡
- 5:電顕
- 6:血清

調査期間 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日 (月報) 西暦 年 第 月 保健所コード 定点コード

ID番号	性	年・月齢	病名	採取年月日	採取部位
			1 2 3		
			1 2 3		
			1 2 3		
			1 2 3		
			1 2 3		

病名

- 1:メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
- 2:ペニシリン耐性肺炎球菌感染症
- 3:薬剤耐性緑膿菌感染症

愛媛県感染症対策推進協議会設置要綱

(設置)

第1条 愛媛県における感染症の発生動向の把握、感染拡大防止対策等の一元化を図り、健康危機管理に即した迅速で実践的な体制を構築するとともに、予防接種業務の円滑な推進及び知事が県内居住者に対し実施した予防接種に起因する事故原因の調査・究明に資することを目的として、愛媛県感染症対策推進協議会(以下「協議会」という。)を設置する。

(任務)

第2条 協議会は、次の各号に掲げる事項について協議する。

- (1) 感染症発生の防止の施策に関する事項
- (2) 医療機関の確保、医療機関の連絡体制に関する事項
- (3) 感染症及び予防接種に関する知識の普及啓発に関する事項
- (4) 感染症患者の人権への配慮等に関する事項
- (5) 予防接種法(昭和23年法律第68号)結核予防法(昭和26年法律第96号)に基づき、知事が県内居住者に対し実施した予防接種に起因する事故原因の調査・究明に関する事項
- (6) 愛媛県感染症発生動向調査事業実施要綱(平成13年1月1日制定)に基づく感染症発生動向調査に関する事項

(組織)

第3条 協議会は、委員16人以内で組織する。

(委員)

第4条 協議会は、次に掲げる者のうちから、知事が委嘱し、又は任命する。

- (1) 社団法人愛媛県医師会の会員
- (2) 社団法人愛媛県獣医師会の会員
- (3) 感染症発生動向調査の専門家
- (4) 感染症対策の専門家
- (5) 第二種感染症指定医療機関の医師
- (6) 愛媛県予防接種センターの医師
- (7) 学識経験者
- (8) 感染症対策関係の行政担当者

2 委員の任期は、3年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任させることができる。

(会長)

第5条 協議会に会長を置く。

2 会長は、委員の互選によって定め、副会長は会長が指名した者をもって充てる。

3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

4 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 協議会は、会長が必要に応じ招集し会長が議長となる。

(解析評価担当委員)

第7条 愛媛県感染症発生動向調査事業実施要綱(平成13年1月1日制定)に規定する感染症発生動向調査にかかる情報の解析評価を担当する解析評価担当委員をおく。

2 解析評価担当委員は、会長が協議会の委員のうちから指名する。

(関係者の出席)

第8条 会長が必要と認めた時は、協議会の会議に委員以外の者の出席を求めることができる。

(庶務)

第9条 協議会の庶務は、保健福祉部健康衛生局健康増進課において処理する。

(雑則)

第10条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が、協議会に諮って定める。

附 則

この要領は、平成15年8月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成16年1月13日から施行する。

愛媛県感染症発生動向調査事業病原体検査要領

第一 趣旨

感染症の病原体に関する情報は、患者への良質かつ適切な医療の提供のために不可欠であり、かつ、感染症の発生の予防及びまん延の防止のために極めて重要な意義を有している。このことから、愛媛県感染症発生動向調査事業病原体検査要領を定め、病原体の検査情報を収集するものとする。

第二 病原体検査の対象感染症

愛媛県感染症発生動向調査事業において病原体検査の対象とする感染症は、次のとおりとする。

一 全数把握の対象

1 一類感染症

- (1) エボラ出血熱 (2) クリミア・コンゴ出血熱
(3) 重症急性呼吸器症候群(病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る)
(4) 痘そう (5) ペスト (6) マールブルグ病 (7) ラッサ熱

2 二類感染症

- (8) 急性灰白髄炎 (9) コレラ (10)細菌性赤痢 (11)ジフテリア (12)腸チフス
(13)パラチフス

3 三類感染症

- (14)腸管出血性大腸菌感染症

4 四類感染症

- (15) E型肝炎 (16)ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)
(18)エキノкокクス症 (19)黄熱 (20)オウム病 (21)回帰熱 (22)Q熱 (23)狂犬病
(24)高病原性鳥インフルエンザ (25)コクシジオイデス症 (26)サル痘
(27)腎症候性出血熱 (28)炭疽 (29)つつが虫病 (30)デング熱
(31)ニパウイルス感染症 (32)日本紅斑熱 (33)日本脳炎
(34)ハンタウイルス肺症候群 (35)Bウイルス病 (36)ブルセラ症 (37)発しんチフス
(38)ボツリヌス症 (40)野兎病 (41)ライム病 (42)リッサウイルス感染症
(43)レジオネラ症 (44)レプトスピラ症

5 五類感染症

- (45)アメーバ赤痢 (47)急性脳炎(ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)
(49)クロイツフェルト・ヤコブ病 (50)劇症型溶血性レンサ球菌感染症
(51)後天性免疫不全症候群 (53)髄膜炎菌性髄膜炎 (54)先天性風しん症候群
(56)破傷風 (57)バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症
(58)バンコマイシン耐性腸球菌感染症

二 定点把握対象の五類感染症(病原体定点別)

1 小児科病原体定点

- (60)咽頭結膜熱 (61)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (62)感染性胃腸炎
(64)手足口病 (67)百日咳 (69)ヘルパンギーナ (70)麻しん(成人麻しんを除く)
(71)流行性耳下腺炎

2 インフルエンザ病原体定点(内科病原体定点及び小児科病原体定点)

- (72)インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)

3 眼科病原体定点

- (73)急性出血性結膜炎 (74)流行性角結膜炎

4 基幹病原体定点

(80)細菌性髄膜炎 (83)成人麻しん (84)無菌性髄膜炎

第三 病原体別検査実施機関

一 病原体別検査実施機関の分担

病原体によっては、施設面又は技術的に衛生環境研究所又は保健所で検査の実施が困難な場合があるため、国立感染症研究所、衛生環境研究所及び保健所で病原体検査を分担する。検査実施機関別の検査対象感染症は、別表1のとおりとする。

二 医療機関・医師

第二の一に掲げる検査対象感染症の患者を診断した医師は、保健所から病原体検査のための検体提供の依頼を受けた場合にあっては、可能な範囲において検体採取に協力するものとする。採取された検体は、別記様式2（愛媛県感染症発生動向調査事業実施要綱第五の一の1の(2)に定める様式をいう。以下同じ。）の検査票を添えて、速やかに保健所へ提出する。

三 病原体定点に選定された医療機関

第二の二に掲げる病原体定点の検査対象感染症の患者を診断した医師は、概ね第四に示した検体数について、第五の別表2に掲げる検査材料を採取する。採取された検体は、別記様式2の検査票を添えて、速やかに保健所へ提出する。

四 保健所

保健所は、医療機関における検体の採取や搬送に協力し、第二の一に掲げる検査対象感染症のうち(9)、(10)、(12)、(13)及び(14)の検体の提供を受けた場合は、可能な範囲において検査を実施し、その結果を診断した医師に通知する。その他の検体の提供を受けた場合は、別記様式2の検査票を添えて、検体を衛生環境研究所へ搬送する。

五 衛生環境研究所

- 1 衛生環境研究所は、検体と別記様式2の検査票が搬入された場合は、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに本庁及び地方感染症情報センターに通知する。
- 2 衛生環境研究所において、検査の実施が困難な検体については、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。

六 地方感染症情報センター

- 1 地方感染症情報センターは、医療機関、保健所、衛生環境研究所等から得た病原体検査情報を、感染症検査情報オンラインシステムにより中央感染症情報センターへ送付する。
- 2 地方感染症情報センターは、病原体検査情報を患者発生動向調査等の関連情報とともに解析し、医療機関等関係機関へ還元する。

第四 定点把握の五類感染症の病原体検査検体数

定点把握の五類感染症の病原体検査検体数は、病原体定点の種別に応じて、年間1定点当たり概ね次のとおりとする。

一 小児科病原体定点

1 検査対象感染症につき、概ね10件以内の検体を採取する。

10 検体 × 8 検査対象感染症 = 80 件

二 インフルエンザ病原体定点

概ね月当たり10件以内で、インフルエンザ流行中の適当な時期に採取する。

10 検体 × 3 月 = 30 件

三 眼科病原体定点

1 検査対象感染症につき、概ね20件以内の検体を確保する。

20 検体 × 2 検査対象感染症 = 40 件

四 基幹病原体定点

1 検査対象感染症につき、概ね 20 件以内の検体を採取する。

20 検体 × 3 検査対象感染症 = 60 件

第五 採取すべき検査材料種別

病原体検査のために採取すべき検査材料は、別表 2 のとおりとする。

第六 病原体検査検体の採取、保存、輸送等

一 細菌感染症

1 採取方法

(1) 糞便

ア 抗生物質投与前の糞便の一部を滅菌綿棒で取り、輸送用培地（キャリーブリア培地等）の寒天部に深く差し込み密栓する。止むを得ない場合は、直腸スワブを採取し、前項と同様輸送用培地に綿棒を差し込み密栓する。

イ 検体採取後は、室温で保存し、速やかに検査に供する。遅くとも 24 時間以内に分離培養するのが望ましい。

(2) 鼻咽頭拭液

ア 滅菌綿棒で鼻腔又は咽頭部を十分に拭い、輸送用培地（キャリーブリア培地等）中に綿棒を深く差し込み、直ちにキャップを確実に閉める。

イ 検体採取後は、室温で保存し、24 時間以内に分離培養するのが望ましい。

(3) 脊髄液、血液

ア 髄液は、1 ~ 5 ml を無菌的に採取し、滅菌容器に入れ密栓する。

イ 血液は、2 ~ 5 ml を無菌的に採取し、直ちにカルチャーボトルに接種し、常温で輸送する。

2 保存及び輸送方法

(1) 検査材料は、容器から内容物が漏れないようにビニールテープ等で密栓する。所定の搬送用ボックスに入れ、できるだけ速やかに室温で搬送する。

(2) 検体は、冷凍での保存・搬送はしてはならない。

(3) 検査材料は、必要事項を記入した別記様式 2 の検査票と併せて検査実施機関に送付する。

二 ウイルス感染症

1 採取方法

(1) 糞便

ア できるだけ早期（急性期）に排泄直後の糞便を採取する。

イ ウイルス分離培養検査用は糞便 2 g（2 ml）を採取するか、又は滅菌綿棒で少量（0.1-0.2 g）をウイルス分離用保存液中に取り、よく攪拌後綿棒を取り除いて密栓する。

ウ 下痢症ウイルス検出用は、母指頭大（約 5 g）以上の排泄便を採取し密栓する。

(2) 鼻咽頭拭液

滅菌綿棒で鼻腔又は咽頭部を十分に拭い、ウイルス分離用保存液中でよく攪拌し、綿球部をよく絞ったのち綿棒を取り除いて密栓する。

(3) 咽頭うがい液

滅菌生理食塩水 8 ~ 10 ml を用い咽頭の奥でよくうがいをさせ、清浄なコップ等に吐き出されたうがい液を 5 ml のウイルス分離用保存液又は滅菌ブイヨン液に等量加え密

栓する。

(4) 髄液

1 ~ 5 ml を無菌的に採取し、滅菌容器に入れ密栓する。

(5) 水疱内溶液

水疱又は膿疱の表面をアルコール綿等で消毒し、毛細管、ツベルクリン注射器等で局所を突き刺して内容液を吸引し、ウイルス分離用保存液に入れ密栓する。

(6) 結膜擦過物

滅菌綿棒で下瞼結膜を強くこする。綿棒をウイルス分離用保存液中でよく振とうして擦過物を浮遊させた後、綿球部を管壁でよく絞ったのち綿棒を取り除いて密栓する。

(7) 血液、血清

ウイルス分離用の血液は、抗凝固剤(クエン酸又はEDTA)入り採血管に5 ~ 10ml を採取し、室温でできるだけ速やかに検査機関に搬送する。

血清免疫学的診断用の場合は、凝固剤入り採血管に3 ~ 5 ml を採血する。30分程度静置後3000rpmで遠心分離し、血清を滅菌セラムチューブ等に採取し、搬送するまで冷凍庫(-25以下)に保存する。

血清免疫学的診断には、急性期(発病3日以内)と回復期(発病後2 ~ 3週間後)のペア血清が必要なことが多い。

2 保存及び搬送方法

(1) 検体は、できるだけ速やかに検査実施機関に搬送する。

(2) 検体採取当日又は翌日に検査が可能な場合は、氷冷して保存・搬送する。

(3) 2日以上保存する場合は、密封しドライアイスアセトン又は液体窒素で急速凍結した後、-25以下(できれば-70以下が望ましい)で冷凍保存する。

(4) 冷凍して搬送する場合は、断熱性の搬送用ボックスに入れ、ドライアイス又は寒剤(例:氷75% + 食塩25%)を使用し、搬送中に融解しないようにする。

(5) 保存又は搬送にドライアイスを使用する場合は、CO₂ガスが容器に入り、pHが低下するのを防ぐため、検体容器をビニールテープでシールして密封する。

第七 その他

一 県は、県内の病原体に関する情報を統一的に収集し、分析し、及び公表する体制を構築するため、松山市と緊密な連携を図る。

二 この要領に定めるもののほか、病原体検査の実施に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要領は、平成13年1月1日から施行する。

附 則

この要領の一部改正は、平成15年11月5日から施行する。

別表1 検査実施機関別検査対象感染症一覧表

検査実施機関	検査対象感染症					定点把握対象
	全 数 把 握 対 象					
	一類感染症	二類感染症	三類感染症	四類感染症	五類感染症	五類感染症
国立感染症研究所	(1) エボラ出血熱 (2) クリミア・コンゴ出血熱 (4) 痘そう (5) ベスト (6) マールブルグ病 (7) ラッサ熱			(18) エキノコックス症 (19) 黄熱 (20) オウム病 (21) 回帰熱 (23) 狂犬病 (25) コクシジオイデス症 (26) サル痘 (27) 腎症候性出血熱 (30) デング熱 (31) ニパウイルス感染症 (34) ハンタウイルス肺症候群 (35) Bウイルス病 (36) プルセラ病 (37) 発しんチフス (40) 野兎病 (41) ライム病 (42) リッサウイルス感染症 (44) レプトスピラ症	(49) クロイツフェルト・ヤコブ病 (54) 先天性風しん症候群 (57) バンコマイシン耐性肺炎球菌感染症 (58) バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	
衛生環境研究所	(3) 重症急性呼吸器症候群(病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る)	(8) 急性灰白髄炎 (11) ジフテリア		(15) E型肝炎 (16) ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む) (22) Q熱 (24) 高病原性インフルエンザ (28) 炭疽 (29) つつが虫病 (32) 日本紅斑熱 (33) 日本脳炎 (38) ボツリヌス症 (43) レジオネラ症	(45) アメーバ赤痢 (47) 急性細菌性髄膜炎(ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く) (50) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (53) 髄膜炎菌性髄膜炎 (56) 破傷風	(60) 咽頭結核熱 (61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (62) 感染症胃腸炎 (64) 手足口病 (67) 百日咳 (69) ヘルパンギーナ (70) 麻しん(成人麻しんを除く) (71) 流行性耳下腺炎 (72) インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く) (73) 急性出血性結膜炎 (74) 流行性角結膜炎 (80) 細菌性髄膜炎 (83) 成人麻しん (84) 無菌性髄膜炎
中央保健所		(9) コレラ (10) 細菌性赤痢 (12) 腸チフス (13) パラチフス	(14) 腸管出血性大腸菌感染症		(51) 後天性免疫不全症候群	

別表2 感染症別の採取材料一覧表

検査対象感染症名	病原体	危険度	採取検査材料										検査方法				検査担当機関
			血液・血清	咽頭拭液	糞便	髄液	結膜拭液	尿	水疱内容	剖検生検材料/ その他	培養法	抗原検出法	抗体検出法	遺伝子検出			
3重症急性呼吸器症候群	V	L3										肺					衛環研
8急性灰白髄炎	V	L2	S														衛環研
9コレラ	B	L2															保健所
10細菌性赤痢	B	L2															保健所
11ジフテリア	B	L2	S														衛環研
12腸チフス	B	L3															保健所
13パラチフス	B	L3															保健所
14腸管出血性大腸菌感染症	B	L2															保健所
15 E 型肝炎		L2	S														衛環研
16ウエストナイル熱		L3	S									脳					衛環研
18エキノコックス症	糸虫	L1	S									手術材料					感染研
19黄熱	V	L3										肝臓					感染研
20オウム病	クラミジア	L2										痰、気管吸引液					感染研
21回帰熱	スピロヘータ	L3															感染研
22Q熱	リケッチア	L3															衛環研
23狂犬病	V	L3										脳、気管吸引液					感染研
24高病原性鳥インフルエンザ	V	L3	S									肺、気管吸引液					衛環研
25コクシジオイデス症	真菌	L3										痰、膿、肺					感染研
26サル痘	V L3 扱い	L2	S														感染研
27腎症候性出血熱	V	L3															感染研
28炭疽	B	L3										痰、腹水、胸水					衛環研
29つつが虫病	リケッチア	L3															衛環研
30デング熱	V	L2															感染研
31ニバウイルス感染症	V	L4	S														感染研
32日本紅斑熱	リケッチア	L3															衛環研
33日本脳炎	V	L2										脳					衛環研
34ハンタウイルス肺症候群	V	L3															感染研
35 B ウイルス病	V	L3	S									皮膚病巣					感染研
36ブルセラ病	B	L3															感染研
37癩しんちフス	リケッチア	L3										動物臓器					感染研
38ポツリヌス症	B	L2	S									摂取食品					衛環研
40野兔病	B	L3															感染研
41ライム病	スピロヘータ	L3										皮膚病巣					感染研
42リッサウイルス感染症	V	L3										脳					感染研
43レジオネラ症	B	L2	S									痰、気管吸引液					衛環研
44レプトスピラ症	スピロヘータ	L2															感染研
45アメーバ赤痢	原虫	L2	S									肝臓、腸、肝					衛環研
47急性脳炎	V、B	-															衛環研
49クワイツフェルト・ヤコブ病	プリオン	-										膿、扁桃、脾臓等					感染研
50劇症型溶血性レンサ球菌感染症	B	L2										皮膚、腹水、胸水					衛環研
51後天性免疫不全症候群	V	L3															保健所
53髄膜炎菌性髄膜炎	B	L2															衛環研
54先天性風しん症候群	V	L2										白内障レンズ					感染研
56破傷風	B	L2	S									皮膚病巣					衛環研
57バンコマイシン耐性ブドウ球菌感染症		L2															感染研
58バンコマイシン耐性腸球菌感染症		L2															感染研
60咽頭結膜熱	V	L2										痰、気管吸引液					衛環研
61 A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	B	L2															衛環研
62感染症胃腸炎	V、B	L2	S														衛環研
64手足口病	V	L2	S														衛環研
67百日咳	B	L2	S									痰、鼻咽頭分泌物					衛環研
69ヘルパンギーナ	V	L2	S														衛環研
70麻疹	V	L2										脳(SSPE)					衛環研
71流行性耳下腺炎	V	L2	S														衛環研
72インフルエンザ	V	L2	S									肺、脳					衛環研
73急性出血性結膜炎	V	L2	S														衛環研
74流行性角結膜炎	V	L2	S														衛環研
80細菌性髄膜炎	B	L2															衛環研
83成人麻疹	V	L2															衛環研
84無菌性髄膜炎	V	L2	S														衛環研

(注) 病原体: B...細菌、V...ウイルス

血液・血清: S...血清、...全血液

検査担当機関: 感染研...国立感染症研究所、衛環研...衛生環境研究所、保健所...中央保健所

愛媛県感染症発生動向調査事業報告書
平成 17 年(2005 年)

平成 18 年 9 月発行

発 行 愛媛県感染症情報センター
(愛媛県立衛生環境研究所)
愛媛県松山市三番町 8 丁目 234 番地
電話(089)931-8757
